



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

VELLFIRE



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。 (ドアの開閉、シートの調整、チャイルドシートの取扱いなど)
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。 (エンジンのかけ方、メーターの見方など)
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。 (室内灯のつけ方、室内装備の使い方など)
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。 (内・外装の手入れ、電球の交換など)
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。 (けん引について、警告灯がついたときの対処など)
6	車両の仕様	お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。 (指定燃料、各オイル量、カスタマイズ項目など)
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

ナビゲーションシステムを装着されたかたは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。
サイドリフトアップシートを装着されたかたは、別冊「サイドリフトアップシート取扱書」も併せてお読みください。

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い	
キー	22
1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた	
スマートエントリー& スタートシステム	24
ワイヤレスリモコン	33
フロントドア	35
スライドドア	39
バックドア	49
1-3. シート、ハンドル、ミラーの 調整のしかた	
フロントシート	59
セカンドシート	63
サードシート	70
ヘッドレスト	72
シートアレンジ	75
ドライビングポジション メモリー	86
シートベルト	89
ハンドル	97
インナーミラー	98
ドアミラー	99
補助確認装置	103
1-4. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方	
パワーウインドウ	105
ツインムーンルーフ	108

1-5. 給油のしかた	
給油口の開け方	111
1-6. 盗難防止システム	
エンジンイモビライザー システム	115
オートアラーム	116
1-7. 安全に お使いいただくために	
正しい運転姿勢	118
SRS エアバッグ	120
子供専用シート	129
チャイルドシートの 取り付け	137

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた	
運転にあたって	148
エンジン（イグニッション） スイッチ	157
オートマチック トランスミッション	161
方向指示レバー	167
パーキングブレーキ	168
ホーン	169
2-2. メーターの見方	
計器類	170
表示灯／警告灯	175
マルチインフォメーション ディスプレイ	179

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	185
フロントフォグライト スイッチ	188
ワイパー & ウォッシャー (フロント)	189
ワイパー & ウォッシャー (リヤ)	192

2-4. その他の走行装置の 使い方

4WD オートモード	194
クルーズコントロール	195
レーダークルーズ コントロール	198
LKA (レーンキーピング アシスト)	208
クリアランスソナー	215
運転を補助する装置	225
ヒルスタートアシスト コントロール	230
PCS (プリクラッシュ セーフティシステム)	232

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	238
寒冷時の運転	240

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォグガーの 使い方

フロントエアコン	246
リヤエアコン	255
リヤウインドゥデフォグガー (曇り取り)	258
フロントワイパー デアイサー	259

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	260
-------------	-----

3-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	265
--------------	-----

3-4. その他の室内装備の 使い方

サンバイザー	277
バニティミラー	278
時計	279
コンビニフック	280
アシストグリップ	281
コートフック	282
アクセサリースOCKET	283
アクセサリーコンセント	284
センターテーブル	287
センターアームレスト	288
シートヒーター	289
フロアマット	291
ラグージュールーム内装備	292
ステアリングスイッチ	294

1

2

3

4

5

6

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	296
内装の手入れ.....	299
タイヤについて.....	302

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	309
ガレージジャッキ.....	311
電球（バルブ）の交換.....	313
ヒューズの点検、交換.....	323
キーの電池交換.....	332
ウォッシャー液の補給.....	334
エアコンフィルターの 清掃、交換.....	335

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは.....	338
非常点滅灯.....	339
発炎筒.....	340
けん引について.....	342
イベントデータレコーダー.....	346

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	348
警告メッセージが 表示されたときは.....	353
パンクしたときは.....	363
エンジンが かからないときは.....	376
シフトレバーが シフトできないときは.....	378
キーを無くしたときは.....	379
電子キーが正常に 働かないときは.....	380
バッテリーが あがったときは.....	382
オーバーヒートしたときは.....	385
スタックしたときは.....	388
車両を緊急停止するには.....	390

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(油脂類の容量と銘柄) 392

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 400

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 402

さくいん

略語一覧 404

五十音順さくいん 405

症状別さくいん 413

1

2

3

4

5

6

ヘッドライト (ハイビーム)

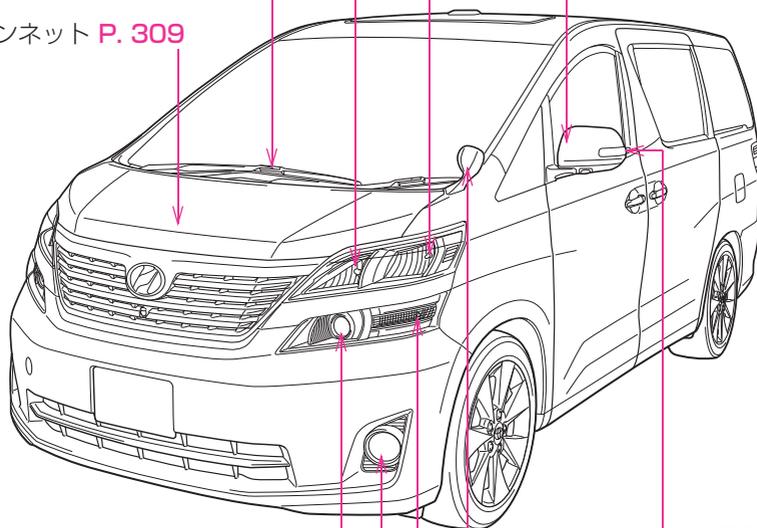
P. 185

方向指示灯 P. 167

ワイパー P. 189

ボンネット P. 309

ドアミラー P. 99



ヘッドライト (ロービーム)

P. 185

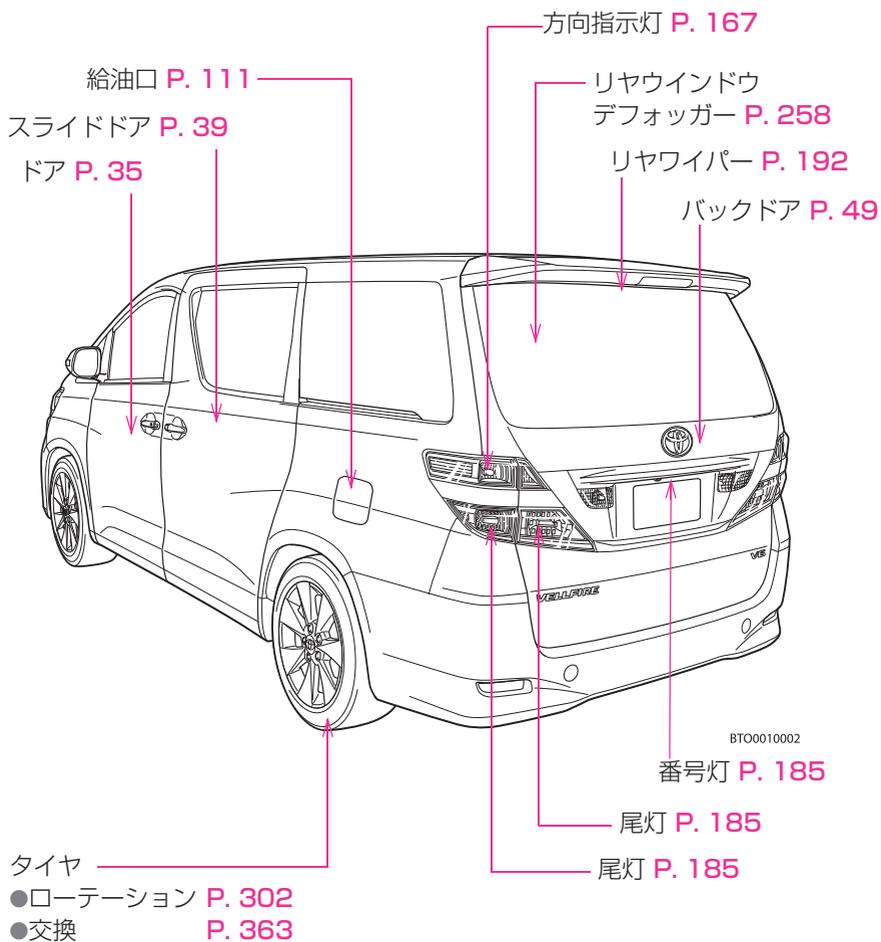
方向指示灯 P. 167

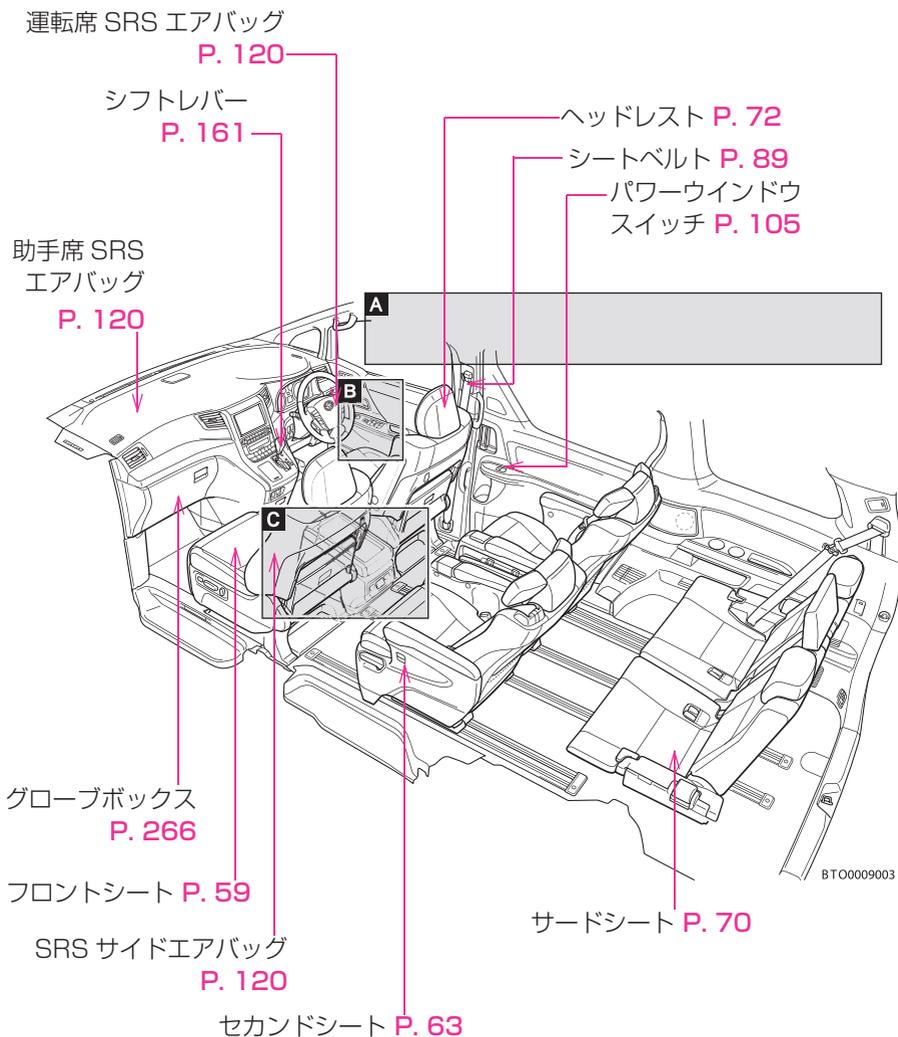
補助確認装置 P. 103

車幅灯 P. 185

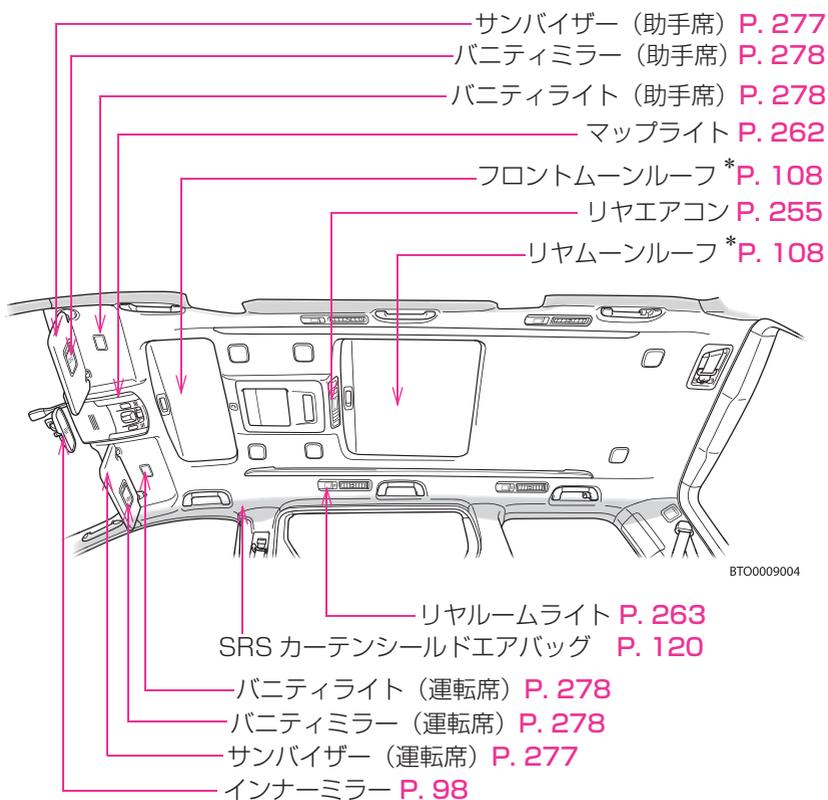
フォグライト P. 188

8TO0010001



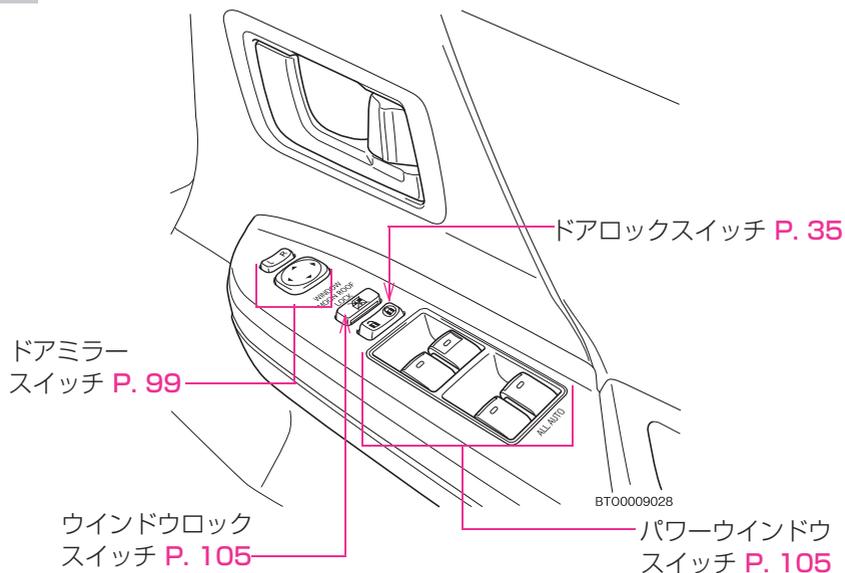


A

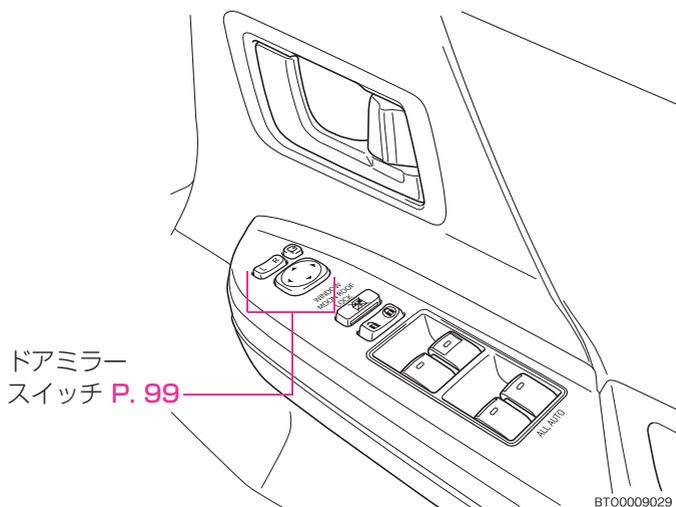


* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

B ▶ オート電動格納式ミラー装着車

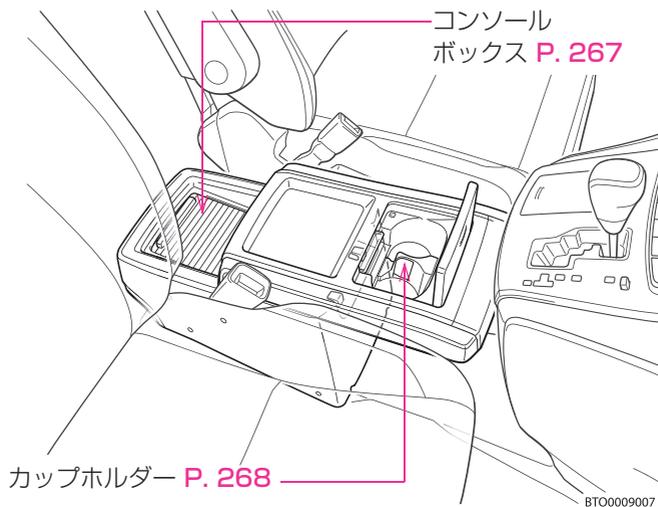


▶ オート電動格納式ミラー非装着車

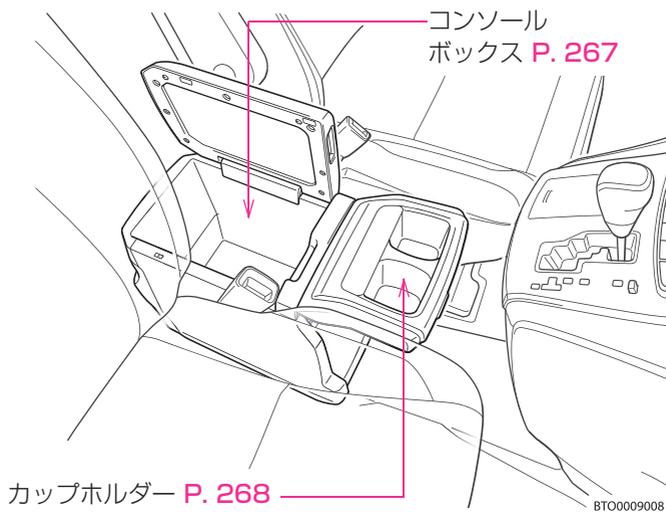


C

▶ スライド式コンソールボックス装着車

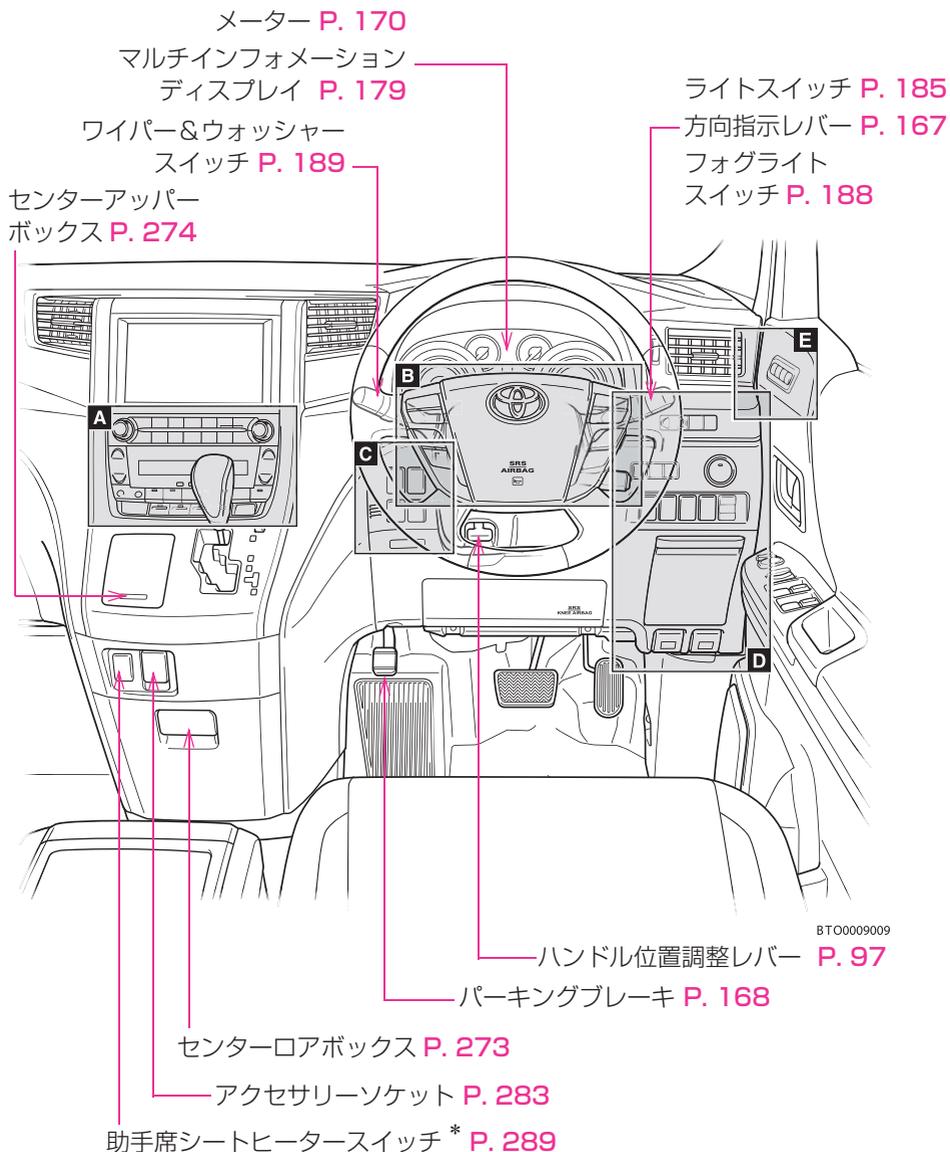


▶ 回転式コンソールボックス装着車



イラスト目次

インストルメントパネル

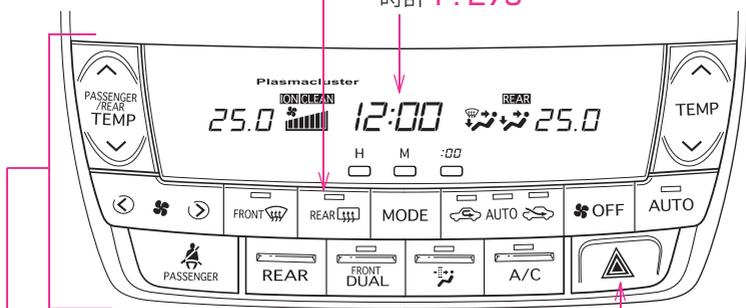


* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

A

リヤウインドウデフォグ
スイッチ P. 258

時計 P. 279

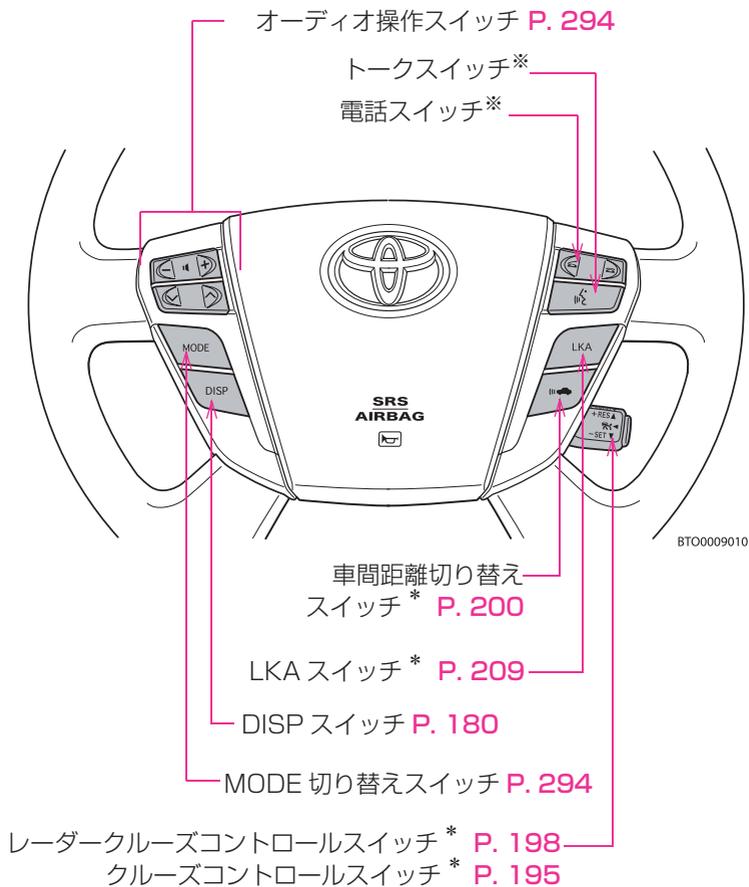


エアコン P. 246

BT00009018

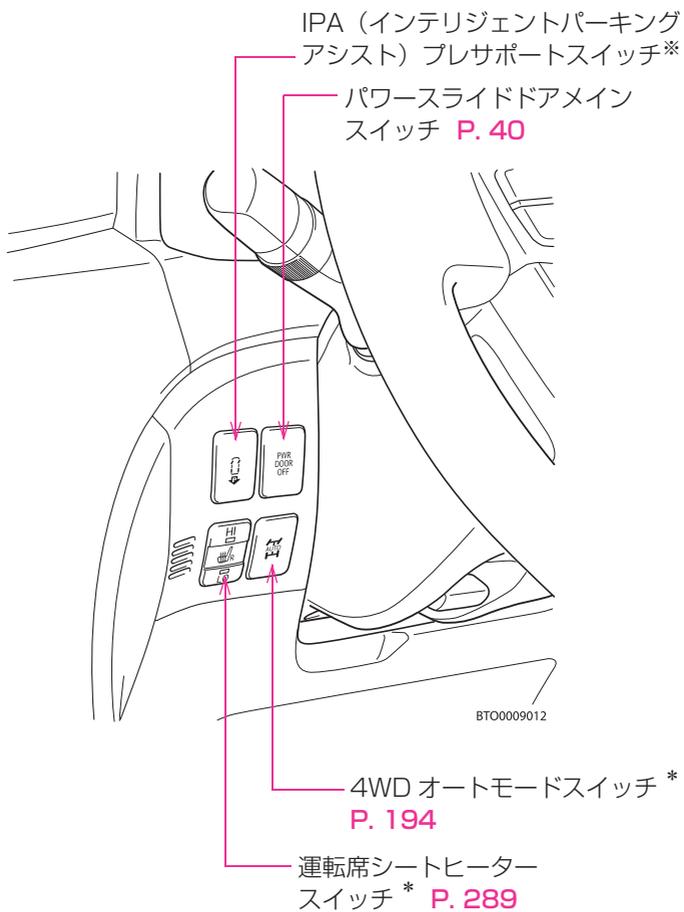
非常点滅灯スイッチ
P. 339

B



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備
 ※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

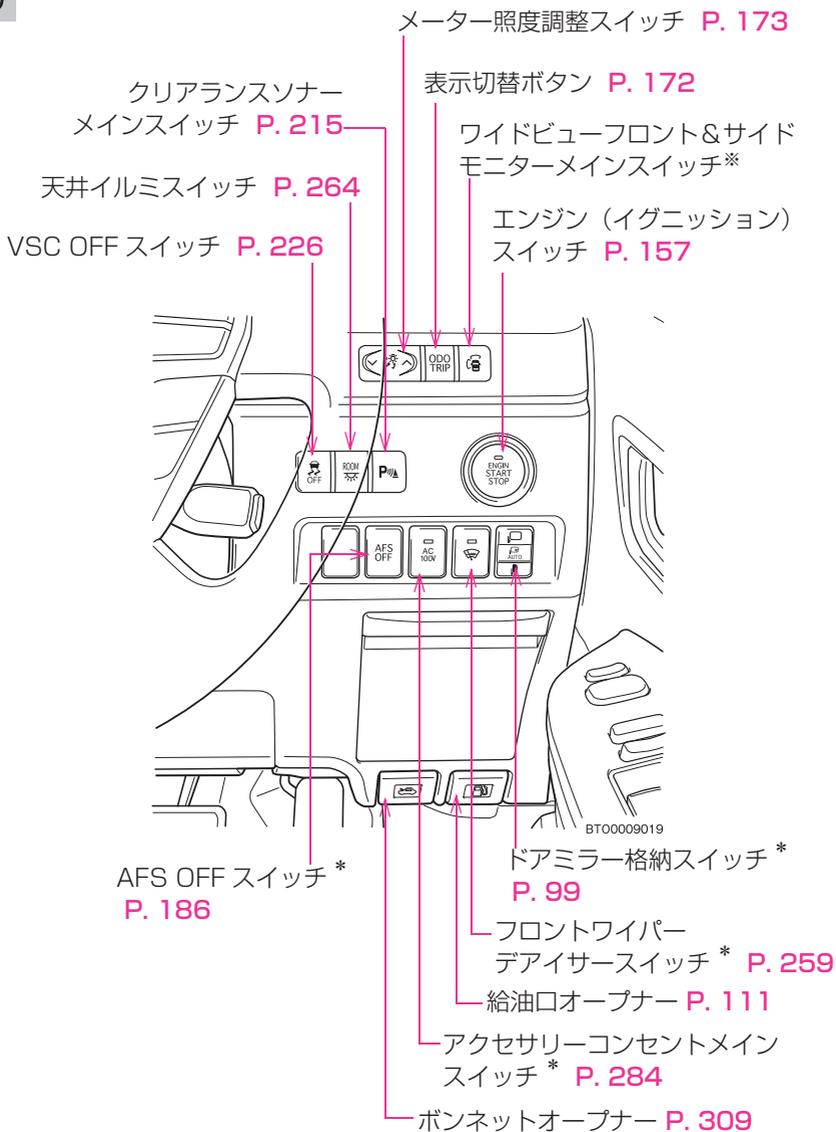
C



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

D

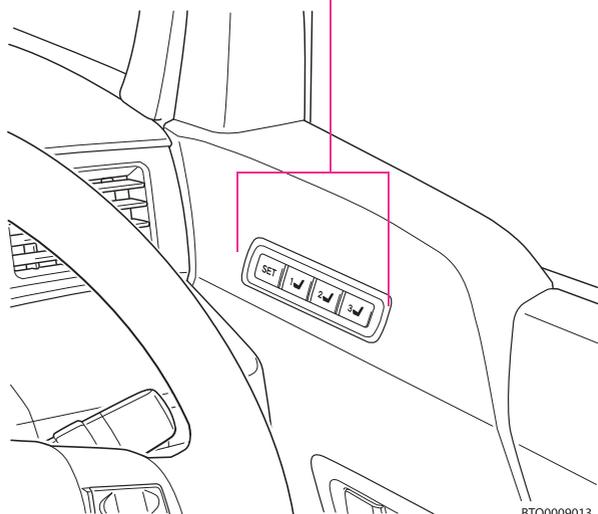


* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

E

ドライビングポジション
メモリースイッチ * P. 86



BTO0009013

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 137）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

📖 知識

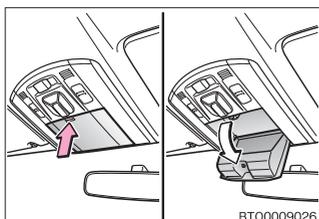
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

- ➡ スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。
- ⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

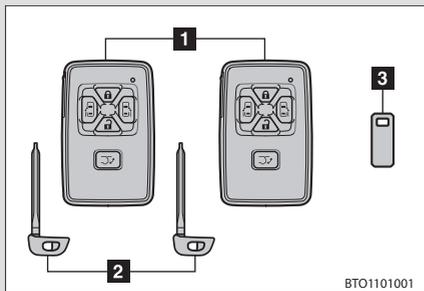
運転する前に

1

- 1-1. キーの取扱い
 - キー..... 22
- 1-2. ドアの開閉のしかた、
ロックのしかた
 - スマートエントリー&
スタートシステム..... 24
 - ワイヤレスリモコン..... 33
 - フロントドア..... 35
 - スライドドア..... 39
 - バックドア..... 49
- 1-3. シート、ハンドル、ミラーの
調整のしかた
 - フロントシート..... 59
 - セカンドシート..... 63
 - サードシート..... 70
 - ヘッドレスト..... 72
 - シートアレンジ..... 75
 - ドライビングポジション
メモリー..... 86
 - シートベルト..... 89
 - ハンドル..... 97
 - インナーミラー..... 98
 - ドアミラー..... 99
 - 補助確認装置..... 103
- 1-4. ドアガラス・ムーンルーフの
開け方、閉め方
 - パワーウインドウ..... 105
 - ツインムーンルーフ..... 108
- 1-5. 給油のしかた
 - 給油口の開け方..... 111
- 1-6. 盗難防止システム
 - エンジンイモビライザー
システム..... 115
 - オートアラーム..... 116
- 1-7. 安全に
お使いいただくために
 - 正しい運転姿勢..... 118
 - SRS エアバッグ..... 120
 - 子供専用シート..... 129
 - チャイルドシートの
取り付け..... 137

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



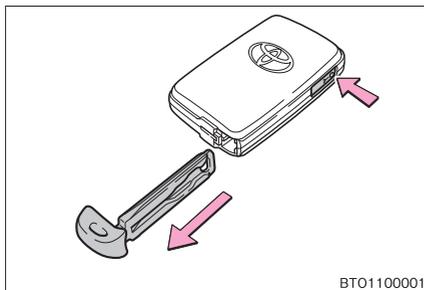
1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 24)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 33)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 380)

 知識

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、キーナンバーと残りのキーからトヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーが作製できます。（→P. 379）

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

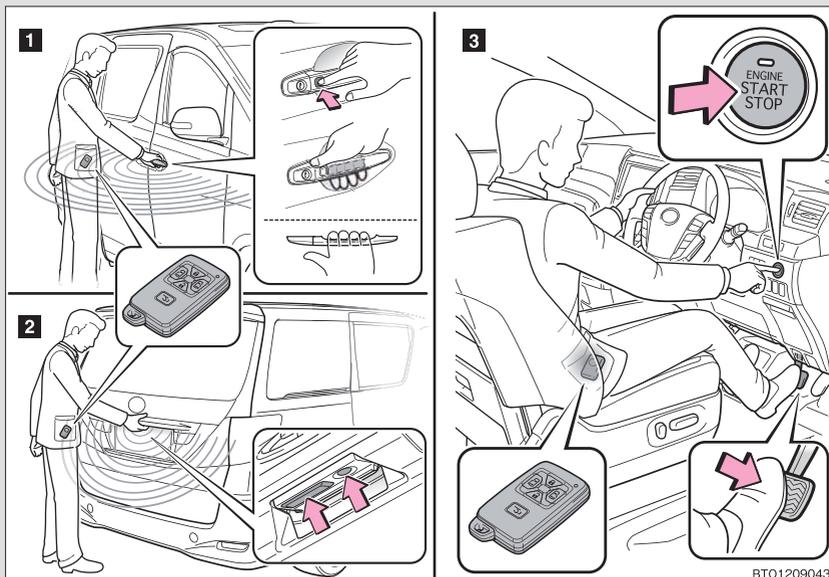
 注意

■ キーの故障を防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光の当たる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼りつけたりしないでください。

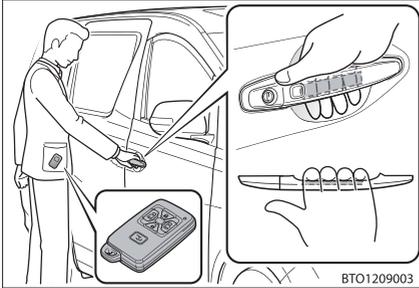
1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください。)



- 1** ドアの解錠・施錠 (→P. 25)
- 2** バックドアの解錠・施錠 (→P. 26)
- 3** エンジンの始動 (→P. 157)

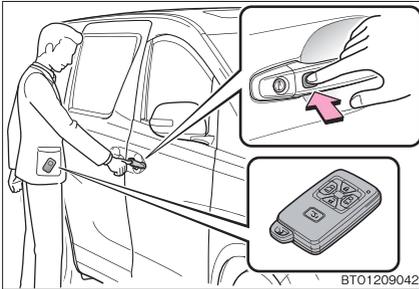
ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。

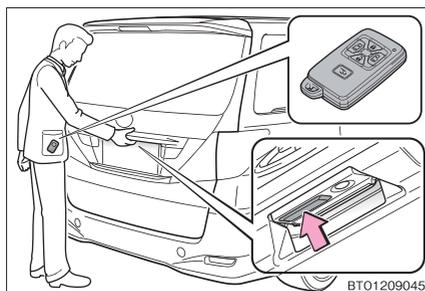


ロックスイッチを押して施錠する

押し続けるとドアガラスが閉まります。

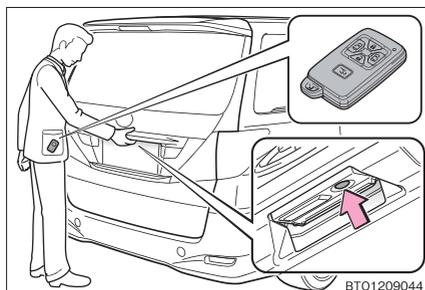
販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 400）

バックドアの解錠・施錠



バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後3秒間は解錠できません。



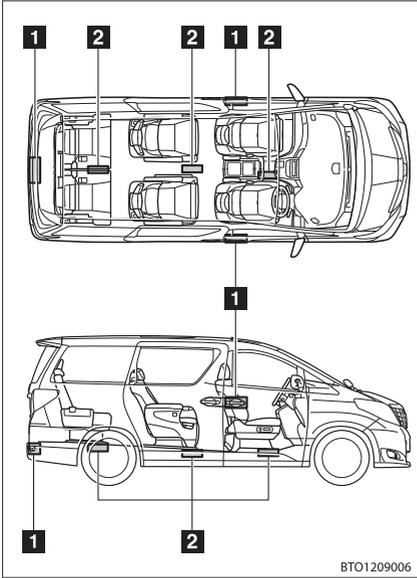
バックドアロックスイッチを押して施錠する

押し続けるとドアガラスが閉まります。

販売店で設定することにより、作動させることができます。(→P. 400)

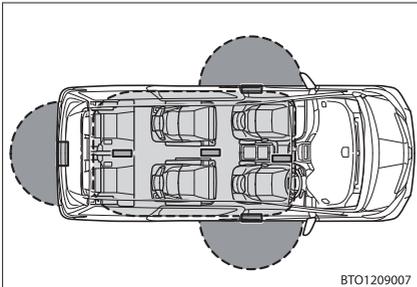
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時
各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。
- : エンジン始動時またはモード切り替え時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)
ドアガラス：ブザーで知らせます。*

■ 節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 2 週間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車両の外約 70 cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレス機能で解錠・施錠する (→P. 33)
- メカニカルキーで解錠・施錠する (→P. 380)

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1～2 年です。(電子キーを使用しなくても電池は消耗します。) スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。(→P. 332)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→P. 31, 361)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 充電中の携帯電話やコードレス電話機
 - ・ 電気スタンド

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの解錠・施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ バックドアの解錠・施錠時に電子キーがリヤバンパー中央に近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。)
- 手袋をはめていると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。)
- 作動範囲(→P. 27)への急な接近や、急なドアハンドル操作をしたときは、ドアが解錠されないことがあります。その場合は、一度ドアハンドルをもとの位置にもどして、再度、解錠操作をしてください。

■ 長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。(→P. 353)

● 警告灯が点灯した場合

(セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車)
状況に応じて適切に対処してください。(→P. 348)

● マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示された場合

(ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車)
ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 353)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー” と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
車外から“ピー” と 60 秒間鳴る	“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせず、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー” と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ポーン”と1回鳴る※	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください(→P. 332)
車内から“ピー”と鳴り続ける※	シフトレバーをP以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーをPにしてください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

※：セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの解錠・施錠：→P. 380
- エンジン始動：→P. 380

■電池が切れたときは

→P. 332

■販売店で設定可能な機能

ドアガラスの閉機能を作動させたり、スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧→P. 400)

 **警告**

■ **電波がおよぼす影響についての警告**

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 27）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

 **注意**

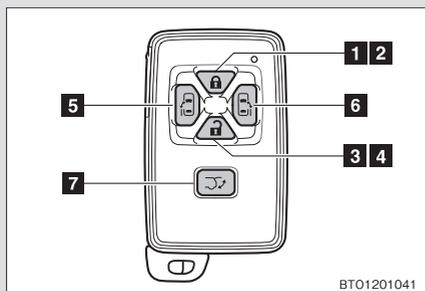
■ **機能が正常に働かないおそれのある状況**

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 380）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
 - ・ ほかの車の電子キー
 - ・ 電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコン
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。



- 1** 全ドア施錠
- 2** ドアガラスが閉まる（長押し）
販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 400）
- 3** 全ドア解錠
- 4** ドアガラスが開く（長押し）
販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 400）
- 5** 助手席側パワースライドドア開閉（約1秒長押し）
- 6** 運転席側パワースライドドア開閉*（約1秒長押し）
- 7** パワーバックドア開閉*（約1秒長押し）

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は1回、解錠は2回）

パワースライドドア：ブザーで知らせます。（作動開始時に1回、閉作動中は継続）

パワーバックドア：ブザーと非常点滅灯の点滅（2回）で知らせます。（ブザーは作動開始時に1回、作動中は継続）

ドアガラス：ブザーで知らせます。*

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 電池の消耗について

→P. 28

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 30

■ 電池が切れたときは

→P. 332

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 32

■ 販売店で設定可能な機能

ドアガラスの開閉機能を作動させたり、ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。

(カスタマイズ一覧 →P. 400)

■ パワースライドドア、パワーバックドアの反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切り替わります。ただし、自動開閉作動が開始して約 1 秒間は、再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押しても反転作動に切り替わりません。

■ パワーバックドアの開閉について

施錠されている状態でもパワーバックドアを開けることができます。この場合、バックドアを閉めても施錠されないため、もう一度施錠操作を行ってください。

■ 制限事項について

“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF 以外のときは、ワイヤレスリモコンが作動しません。

 注意

■ パワーバックドアの開閉について

バックドアの後方に十分な間隔があることを確認してください。壁などの障害物に当たり、バックドアが傷つくおそれがあります。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた フロントドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 25

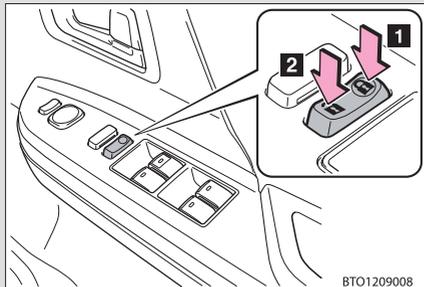
■ ワイヤレス機能

→P. 33

■ キー

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。(→P. 380)

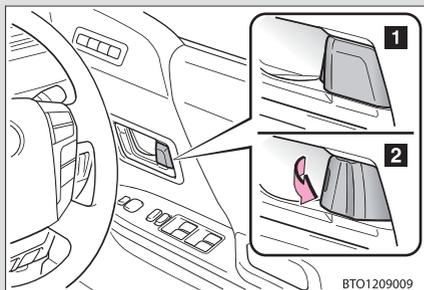
■ ドアロックスイッチ



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

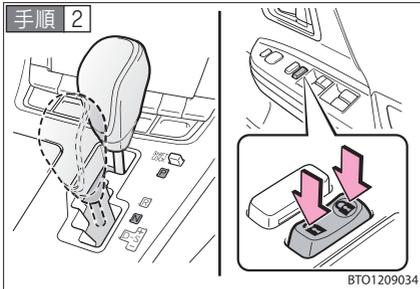
以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動 オートアンロック	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 全てのドアを閉め、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に手順 2 を行う）



シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押し続けて離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を以下の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	
シフト連動オートアンロック		
車速感応オートロック	N	
運転席ドア連動オートアンロック		

設定または解除の切り替え操作が完了すると、全てのドアが施錠されたあと、解錠されます。

 知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、全てのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- 全てのドアを施錠する
- 全てのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまをセカンドシート、サードシートに乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

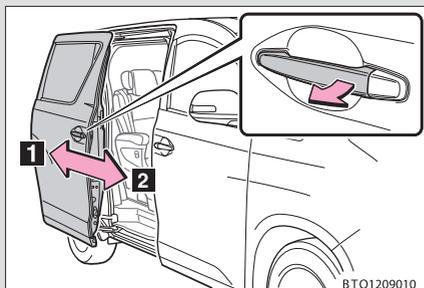
■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スライドドア

ドアハンドルやパワースライドドアスイッチ、ワイヤレス機能を使って開閉することができます。

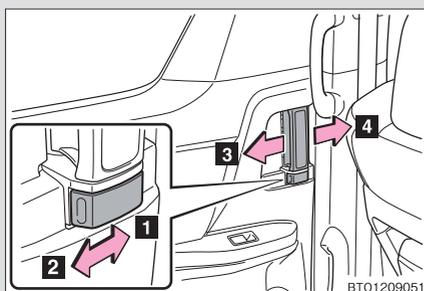
■ スライドドアハンドル



- 1 開く
- 2 閉じる

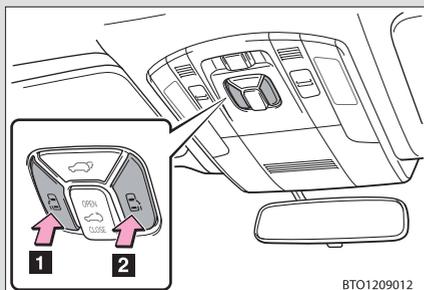
ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

■ インサイドドアハンドル、ロックレバー



- 1 施錠
- 2 解錠
- 3 開く
- 4 閉じる

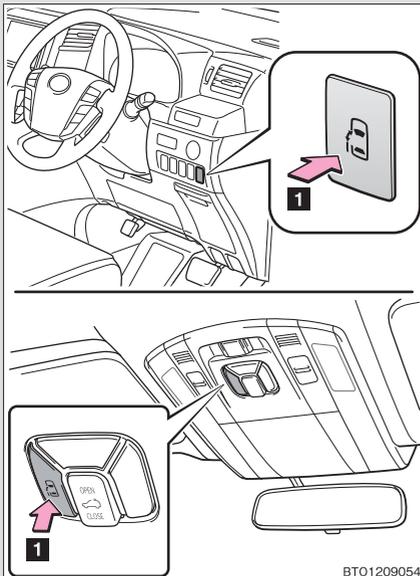
■ パワースライドドアスイッチ (両側パワースライドドア装着車)



- 1 助手席側スイッチ
(約 1 秒長押し)
- 2 運転席側スイッチ
(約 1 秒長押し)

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

■ パワースライドドアスイッチ (助手席側パワースライドドア装着車)



1 助手席側スイッチ (約 1 秒長押し)

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

- ・運転席右側にスイッチがあります。(ツインムーンルーフ非装着車)
- ・オーバーヘッドコンソール部にスイッチがあります。(ツインムーンルーフ装着車)

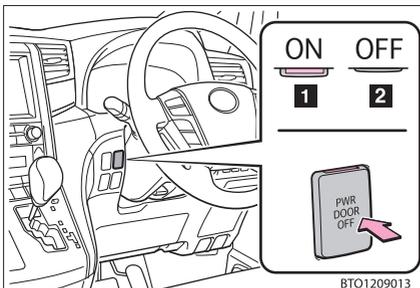
■ ワイヤレス機能

→P. 33

パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

OFF にするとパワーバックドアも使用できなくなります。(パワーバックドア装着車)

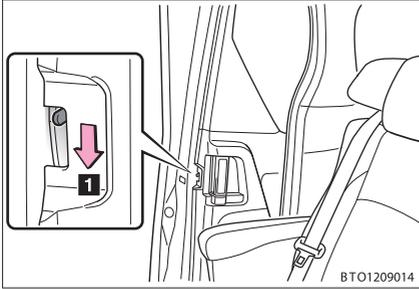


1 ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

2 OFF

チャイルドプロテクター



- 1** 施錠側にすると、スライドドアが内側から開かなくなります。お子さまが内側からスライドドアを開けないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

知識

■給油口ストッパー

給油口が開いていると、助手席側のスライドドアは途中までしか開きません。(給油口ストッパーの位置で停止します。)

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。)

■ パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、以下の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- パワースライドドアが解錠されている（閉作動を除く）
- 給油口が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）
- “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのときは上記に加え、車速が 3km/h 未満かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。
 - ・ シフトレバーが P のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき

■ パワースライドドアの作動について

- パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
- 作動開始時にブザーが鳴ります。また、閉作動中はブザーが断続的に鳴りません。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 5cm 手前の範囲で異常を感知すると、その位置で作動を停止する場合があります。
- 連続して 2 回以上同方向への異常を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。
もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチを OFF にしたあと、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

■ 給油口開警告ブザー

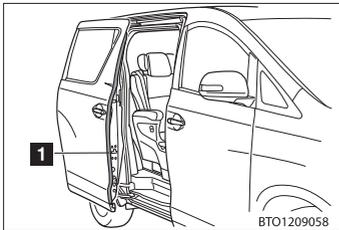
助手席側パワースライドドア開閉中に給油口を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■ バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

- スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。

■ 挟み込み防止機構



パワースライドドアの前端部には、センサー（**1**）がついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

■ サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートが完全に上昇しきっていない状態で、パワースライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは自動で閉まりません。

 **警告**

■ **走行中の警告**

走行中は以下のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず着用する
- 全てのドアを施錠する
- 全てのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない
- お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする

■ **お子さまを乗せているときは**

走行中は以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

■ **スライドドアの操作にあたって**

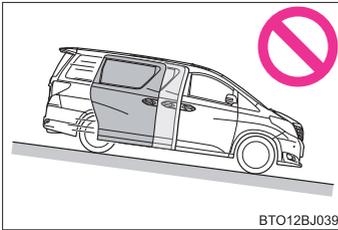
以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手、足、顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

警告

- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます。）スライドドアが確実に固定されていないと不意に動き出すおそれがあります。
- スライドドアが給油口ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。



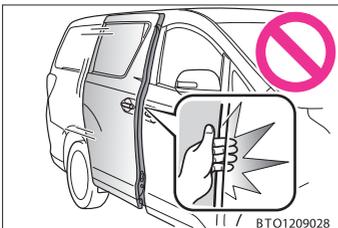
- 坂道ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体に当たり挟んだりしないように注意してください。



- 下り坂での停車時に乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

■ イージークローザーについて（イージークローザー装着車）



- スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **警告**

■ **イージークローザーについて（イージークローザー装着車）**

イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■ **パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）**

パワースライドドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し、自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

■ **パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）**

- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- 後輪のタイヤ交換などをするときには、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスライドドアハンドルなどに触れたとき、パワースライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

警告

■ パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。
- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

■ 挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

以下のことを必ずお守りください。

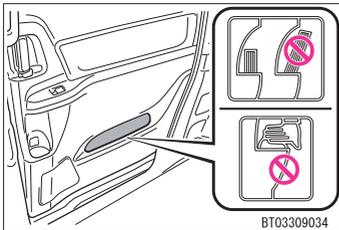
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■ スライドドアについて

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

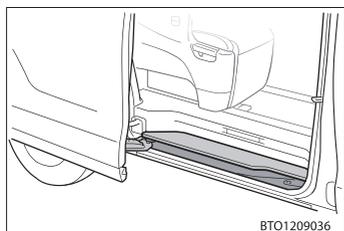


- スライドドアのドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりでなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷がついたり、故障につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ スライドドアについて

- 走行するときやドアを開閉するときには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。

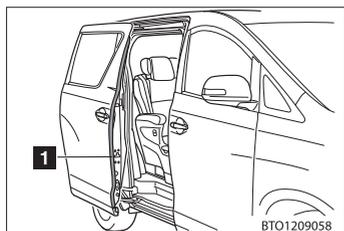


- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

■ スライドドアイージークローザーについて

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■ パワースライドドアについて



パワースライドドア前端部のセンサー (❶) を刃物などの鋭利なもので傷つけないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

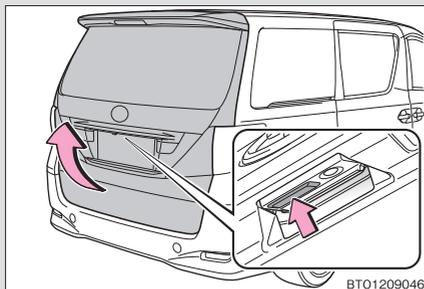
1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた バックドア

バックドアは以下の方法で解錠・施錠および開けることができます。

■ バックドアの解錠・施錠

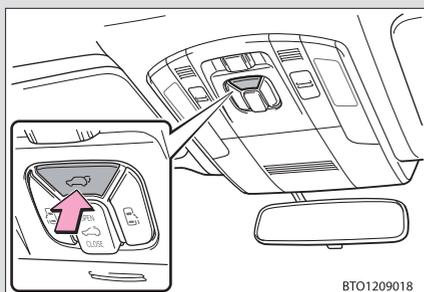
- ▶ ドアロックスイッチ
→P. 35
- ▶ スマートエントリー&スタートシステム
→P. 24
- ▶ ワイヤレス機能
→P. 33

■ 車外からバックドアを開けるには



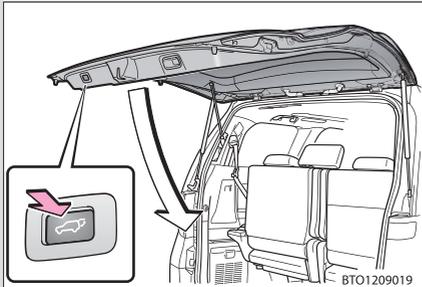
バックドアオープナースイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

■ 車内からバックドアを開けるには(パワーバックドア装着車)



スイッチを約 1 秒長押しする
開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

■ 車外からバックドアを閉じるには (パワーバックドア装着車)



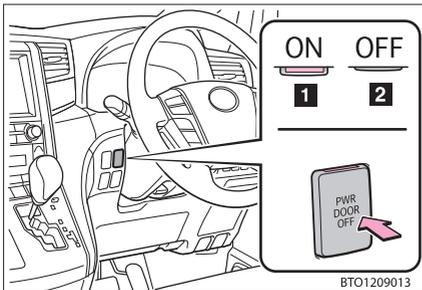
スイッチを押す

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び開きます。

パワーバックドアを使用するときは (パワーバックドア装着車)

パワーバックドアメインスイッチを ON にする

パワーバックドアメインスイッチは、パワースライドドアメインスイッチ(→P. 40)と兼用のため、OFF にするとパワースライドドアも使用できなくなります。

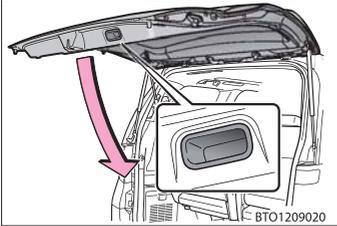


1 ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

2 OFF

 知識

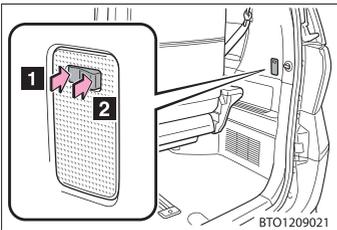
■ バックドアハンドル


バックドアを引き下げるときにお使いください。

バックドアハンドルを持ったまま直接バックドアを閉めないでください。

■ ラゲージルームライトについて

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

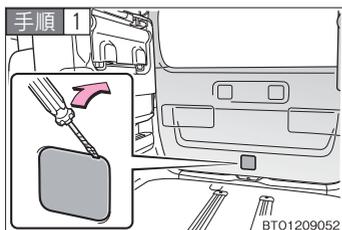


1 OFF

2 ON

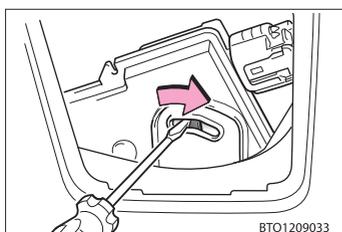
■ バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

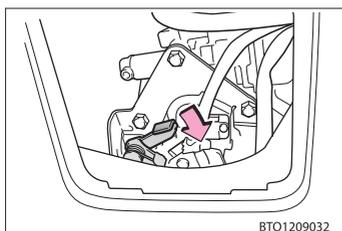


カバーをはずす。

手順 2 レバーを押す。



(イージークローザー非装着車)



(イージークローザー装着車)

■ バックドアイージークローザー (イージークローザー装着車)

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きバックドアが自動で閉まります。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチが ON で、以下の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- パワーバックドアが解錠されている（閉作動を除く）
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには上記に加え、車速が 3km/h 未満かつシフトレバーが P になっていることが必要です。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

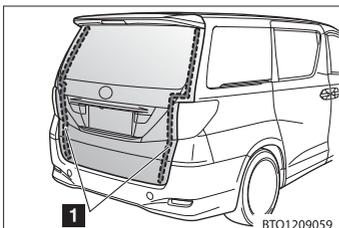
- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。また開閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。
- パワーバックドアメインスイッチが OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動操作に切り替わります。
- パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。
- 連続して 2 回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

- ドアロックスイッチでドアを解錠します。
- バックドアのバックドアハンドルを持って、手動で一度全閉にします。

■挟み込み防止機構（パワーバックドア装着車）



パワーバックドアの左右端部には、センサー（**1**）がついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

 **警告**

■ **走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ **お子さまを乗せているときは**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを車内に遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

■ **バックドアの操作にあたって**

以下のことを必ずお守りください。

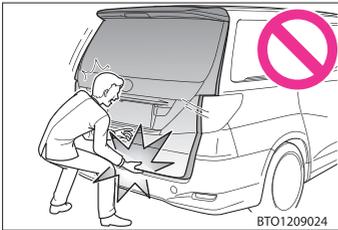
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。

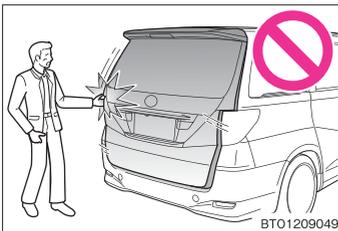
警告

■ バックドアの操作にあたって

- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

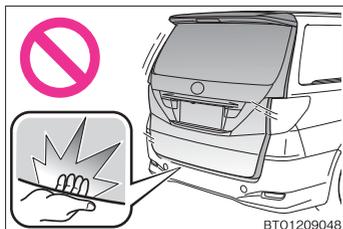


- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないように十分注意してください。
- バックドアは必ず外から押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- バックドアダンパーステを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取りつけないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとにバックドアが落ちるおそれがあります。

警告

■ **イージークローザーについて（イージークローザー装着車）**



● バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ **パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）**

パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

● 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

● 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

● バックドアが自動で開いている途中でパワーバックドアメインスイッチを OFF にしたときは、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。

● 自動開閉中に作動可能条件（→P. 53）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。

● 傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアが必ず全開で静止していることを確認してください。

 **警告****■ パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）**

- 次のような場合、システムが異常と判断し、自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- パワーバックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取りつけないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。
- タイヤ交換などをするときは、パワーバックドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたとき、パワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

以下のことを必ずお守りください。

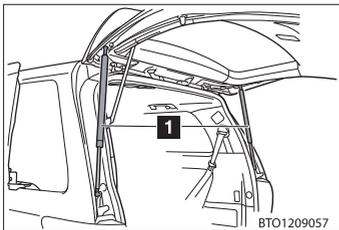
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ ダンパーステアについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステア（**1**）が取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ イージークローザーの故障を防ぐために（イージークローザー装着車）

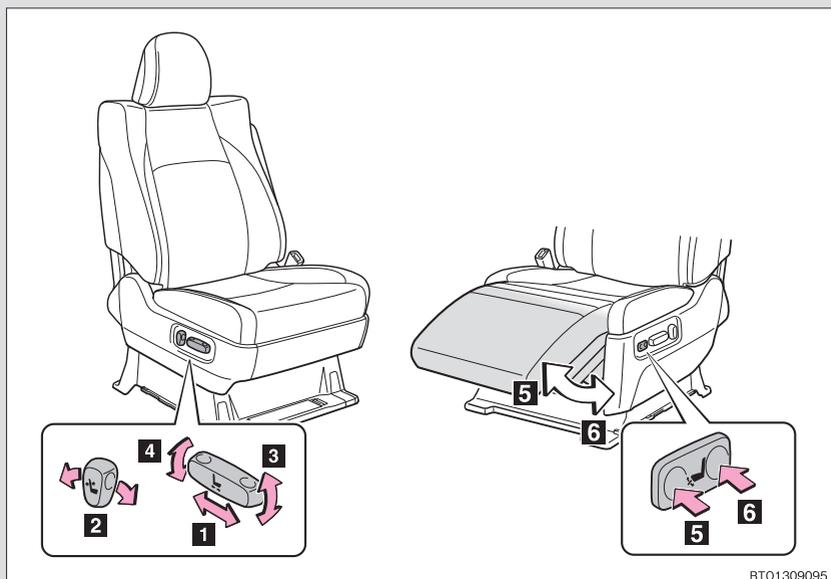
- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、イージークローザーの故障の原因となります。
- バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■ パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼りつきがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P. 53）を刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート

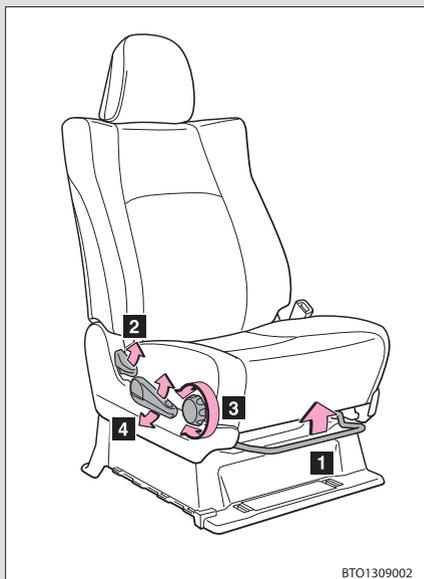
▶ パワーシート装着車



BT01309095

- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端の上下調整
(運転席のみ)
- 4 シート全体の上下調整
(運転席のみ)
- 5 オットマン角度調整
(助手席のみ)
- 6 オットマン角度調整、格納
(助手席のみ)

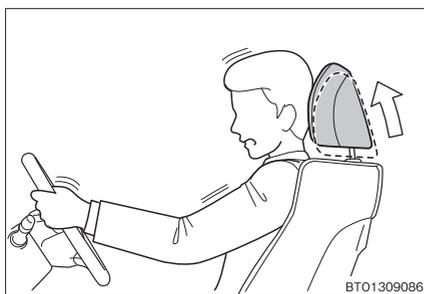
▶ マニュアルシート装着車



BTO1309002

- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端の上下調整
(運転席のみ)
- 4 シート全体の上下調整
(運転席のみ)

アクティブヘッドレスト



BTO1309086

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

アームレスト



アームレストを一度一番上まで上げ、その後一番下まで下げる。お好みの位置まで上げると、アームレストが固定される。

アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。

下げたいときは一度一番上まで上げてください。

知識

■ アクティブヘッドレストについて

- 背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。
- 解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げようとすると、ヘッドレストステーのサポートが見えますが、故障ではありません。

警告

■ シート調整について

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

 **警告**

■ **前後調整やオットマンの操作をするときは**

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ **オットマンの使用について**

- 走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れしないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

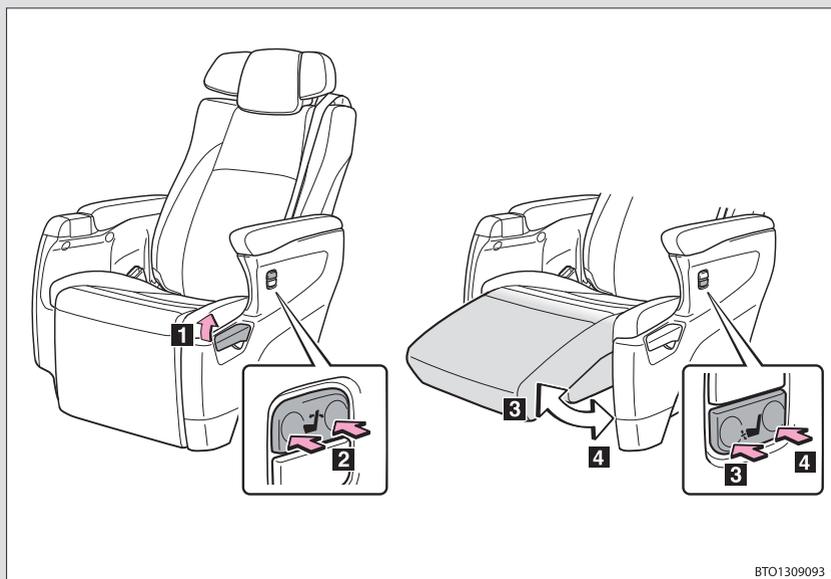
 **注意**

■ **オットマンの故障を防ぐために**

- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを乗せないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

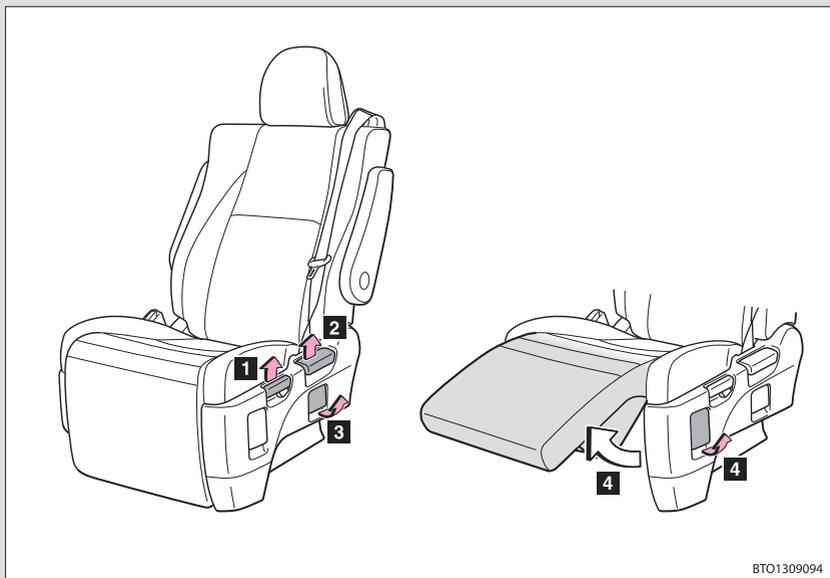
1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた セカンドシート

▶ 7人乗りパワーシート装着車



- 1 前後位置調整（手動）
- 2 リクライニング調整（電動）
- 3 オットマン角度調整（電動）
- 4 オットマン角度調整、格納（電動）

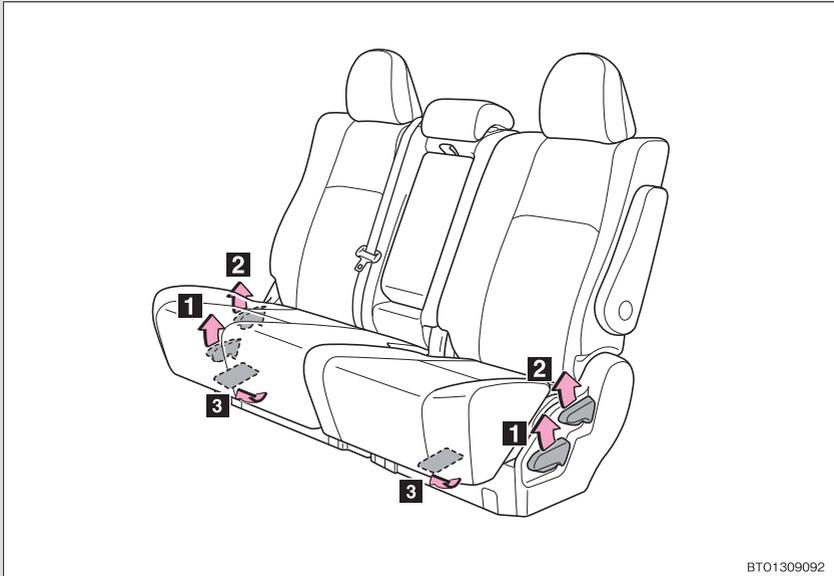
▶ 7人乗りマニュアルシート装着車



BTO1309094

- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 左右位置調整
- 4 オットマン角度調整、格納

▶ 8人乗り車



BT01309092

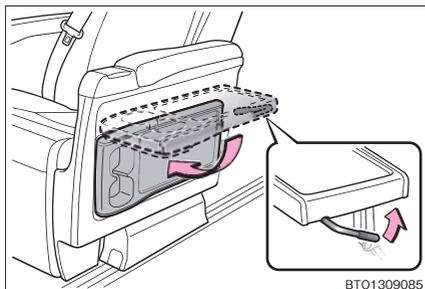
- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 チップアップ操作 (→P. 82)

1

運転する前に

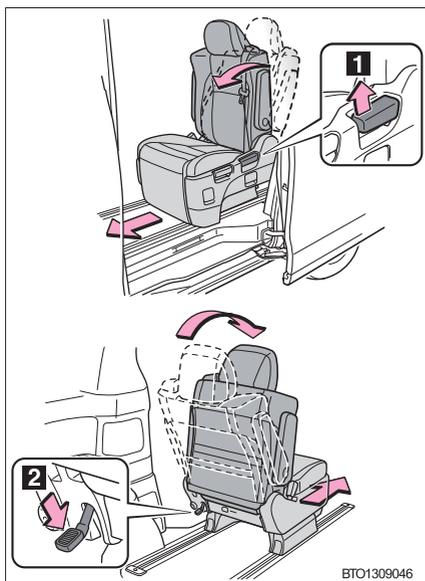
サードシートへの乗り降り

▶ 7人乗りパワーシート装着車



センターテーブルを使用しているときは格納する。

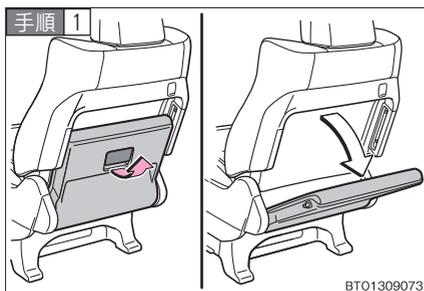
▶ 7人乗りマニュアルシート装着車、8人乗り車



リクライニングレバー (1) を引く、または前倒しペダル (2) を踏む。

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

フロントシート背裏付フットレスト*

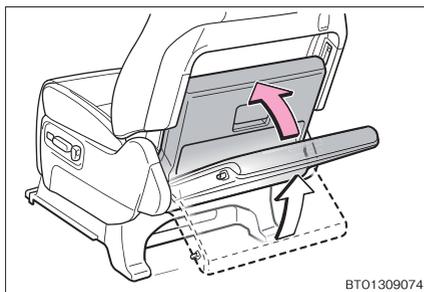


フットレストのロック解除レバーを引く。

ロックを解除すると、フットレストが中立位置まで下がります。

手順 2 中立状態のフットレストに足を乗せる。

■ 格納するとき



フットレストから足を離すと中立状態になり、その状態から手で押し込み格納させる。

知識

■ セカンドシートアームレスト*

使用するとき、いっぱいまで前方に倒します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **警告**

■ **シート調整について**

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■ **サードシートへの乗り降りについて**

サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

■ **前後調整やオットマンの操作をするときは**

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ **オットマンの使用について**

- 走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

 **警告****■ フロントシート背裏付フットレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はフットレスト操作をしない
- 操作時は可動部や結合部に手や足を挟まない
- フットレストの上には絶対に乗らない
- 格納時は確実に固定されていることを確認
- 車を乗り降りするときや使用しないときは格納しておく
- フロントシートの乗員がシートの調整をするときは、足元に気をつける

 **注意****■ フロントシートを前側に移動させているときは**

フロントシートの土台部分に足をのせないでください。土台部分が損傷するおそれがあります。

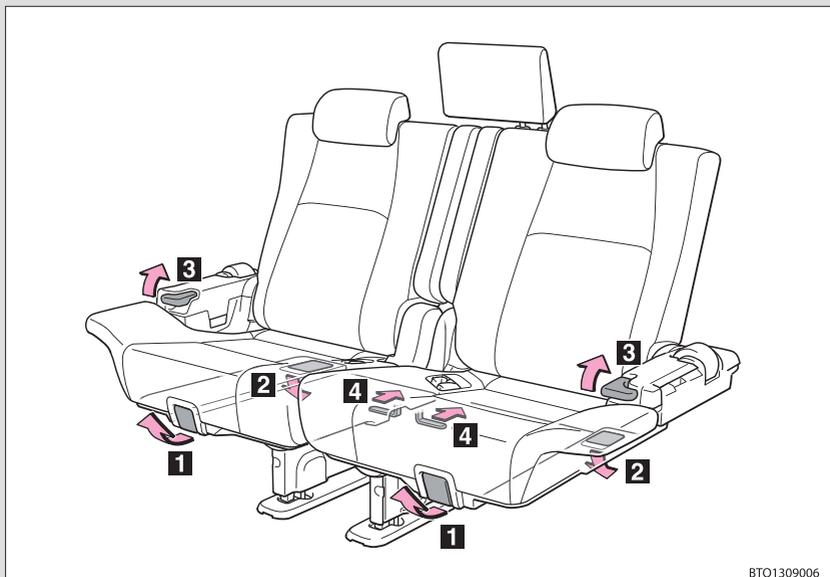
■ サードシートへの乗り降りについて

- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートクッションを持ち上げているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。(8人乗り車)

■ オットマンの故障を防ぐために

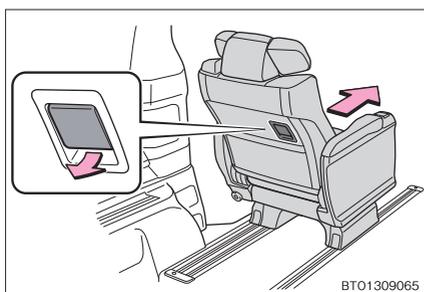
- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを乗せないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた サードシート



- 1 前後位置調整（シート前方）
- 2 前後位置調整（シート裏側）
- 3 リクライニング調整（リクライニングレバー）
- 4 リクライニング調整（スペースアップレバー）

サードシートからのセカンドシートの操作について*



セカンドシートを前後へ移動

セカンドシート背もたれのうしろ側にあるレバーを引き、前後に動かします。

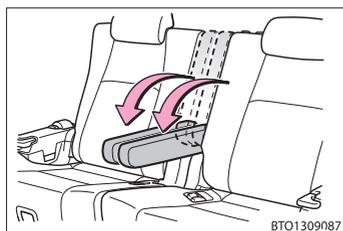
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ サードシート調整について

シートの裏側にあるレバーや、スペースアップレバーを操作してサードシートを調整するときは、バックドア側から行ってください。

■ アームレストについて



使用するときには、いっぱいまで前方に倒します。

警告

■ シート調整について

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■ サードシートからのセカンドシートの操作について*

セカンドシートに乗員がいるときは操作をしないでください。
セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

注意

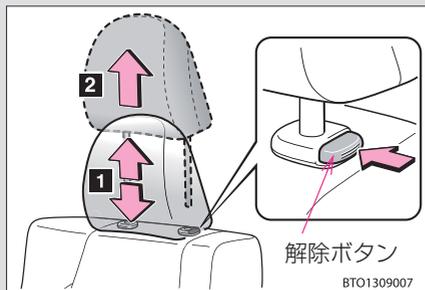
■ サードシートからのセカンドシートの操作について*

操作するときはセカンドシートの足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ヘッドレスト

■ フロントシート



1 上下調整

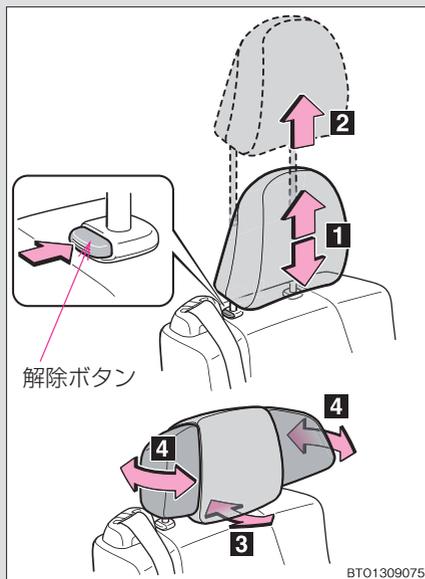
下げるときは、解除ボタンを押しながらか操作します。

2 取りはずし

解除ボタンを押しながらか取りはずします。

■ セカンドシート、サードシート

▶ 7人乗り車セカンドシート、8人乗り車セカンドシート（左右席）



1 上下調整

下げるときは、解除ボタンを押しながらか操作します。

2 取りはずし

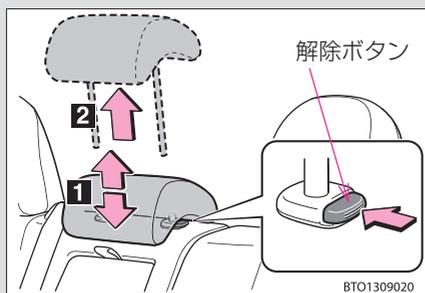
解除ボタンを押しながらか取りはずします。

3 前後調整*

4 左右調整*

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ 8人乗り車セカンドシート（中央席）、サードシート

**1** 上下調整

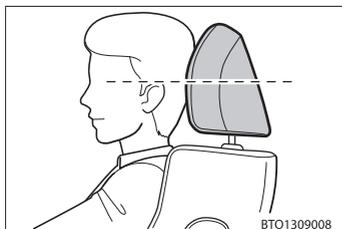
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

2 取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

 知識

■ ヘッドレストの高さについて

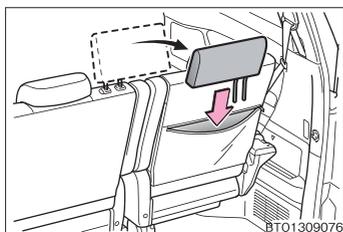


必ずヘッドレストの中心が両耳の一番上の辺りになるよう調整してください。

■ セカンドシート中央席、サードシートのヘッドレストの使用について

使用するときには、常に格納位置から上げた位置にしてください。

■ サードシート中央席のヘッドレストの収納について



運転席側サードシート背面のファスナーを開けてヘッドレストを収納します。



■ **ヘッドレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

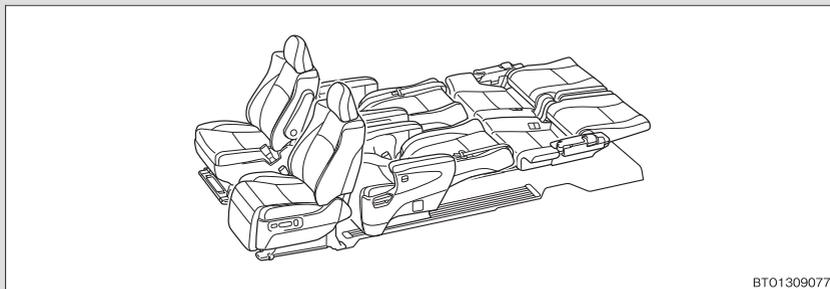
1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

シートアレンジ

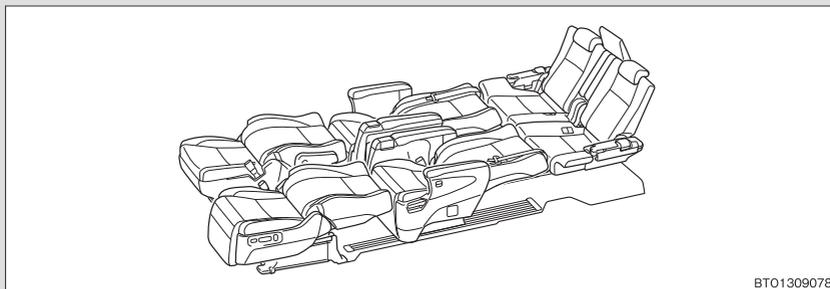
シートは状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。それぞれの説明ページを読んでから行ってください。

■ フラットシート

- セカンドシート、サードシートをフラットシート状態にするとき (→P. 77)

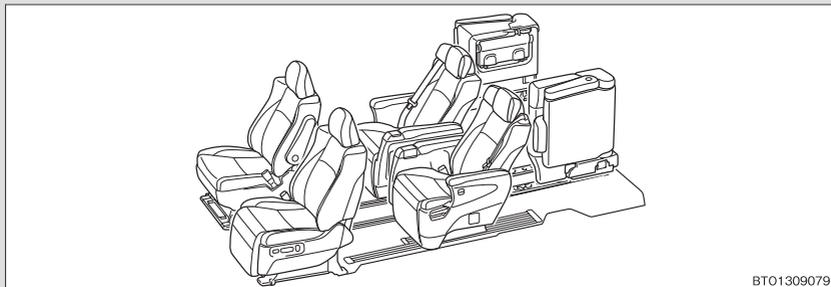


- フルフラットシート状態にするとき (→P. 78)



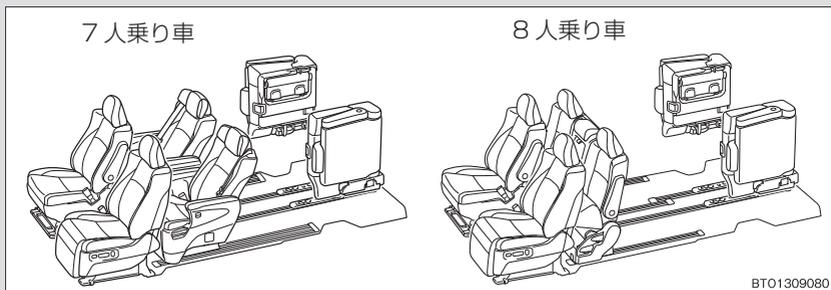
■ ラゲージモード

- サードシートを格納状態にするとき (→P. 79)



BT01309079

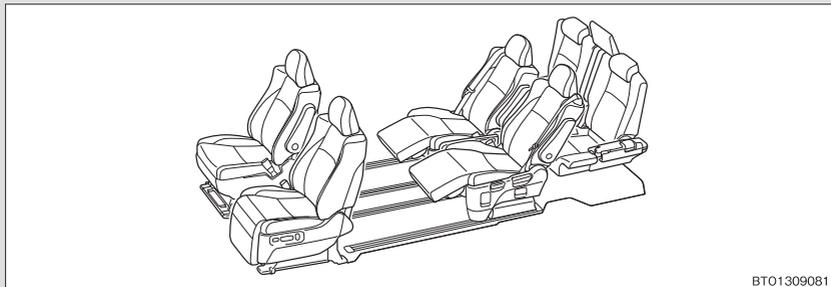
- 最大ラゲージモードにするとき (→P. 81)



BT01309080

■ スーパーリラックスモード (7人乗りマニュアルシート装着車)

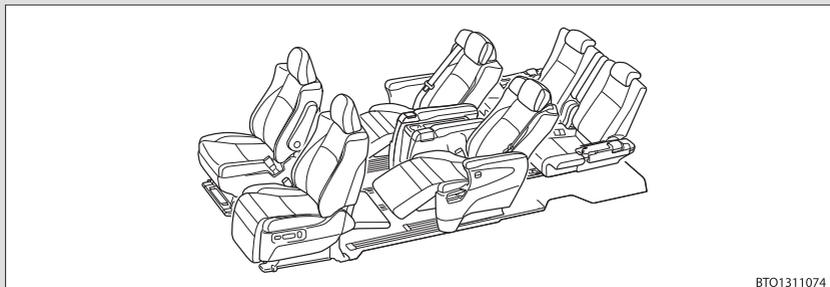
→P. 82



BT01309081

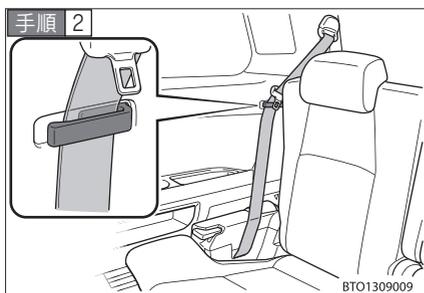
■ エグゼクティブモード（7人乗りパワーシート装着車）

→P. 82



セカンドシート、サードシートをフラットシート状態にするとき

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。



サードシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟む。

中央席シートベルトはホルダーに格納します。(→P. 91)

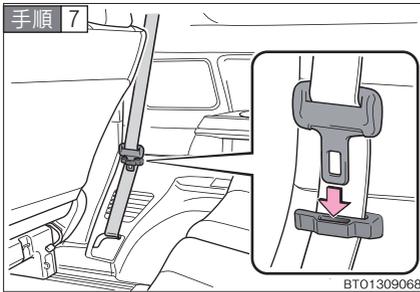
手順 3 サードシートを一番前まで移動させる。(→P. 70)

手順 4 サードシートのヘッドレストをはずす。(→P. 72)

中央席ヘッドレストは、運転席側サードシート背面に収納します。
(→P. 73)

手順 5 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。(→P. 70)

手順 6 サードシートがバックドアに触れる位置までうしろに移動させる (→P. 70)



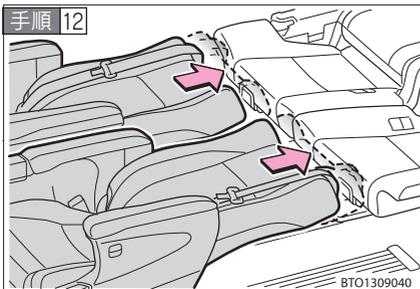
8 人乗り車は、セカンドシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟み、プレートをクリップの穴部に差し込む。

手順 8 セカンドシートを一番前まで移動させる。(→P. 63)

手順 9 7 人乗り車のマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる。(→P. 64)

手順 10 セカンドシートのヘッドレストをはずす。(→P. 72)

手順 11 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。(→P. 63)



セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるようにシートを移動させる。(→P. 63)

フルフラットシート状態にするとき

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 サードシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟む。

中央席シートベルトはホルダーに格納します。(→P. 91)

手順 3 サードシートを一番うしろまで移動させる。(→P. 70)

手順 4 セカンドシートを一番うしろまで移動させる。(→P. 63)

手順 5 フロントシートを一番前まで移動させる。(→P. 59)

手順 6 フロントシートのヘッドレストをはずす。(→P. 72)

手順 7 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。(→P. 59)

手順 8 フロントシートとセカンドシートのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる。(→P. 63)

- 手順 9** 8人乗り車は、セカンドシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟む。(→P. 78)
- 手順 10** 7人乗り車のマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる。(→P. 64)
- 手順 11** セカンドシートのヘッドレストをはずす。(→P. 72)
- 手順 12** セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。(→P. 63)
- 手順 13** セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるようにサードシートを移動させる。(→P. 70)
- 手順 14** サードシートの背もたれをバックドアに触れるまで倒す。(→P. 70)

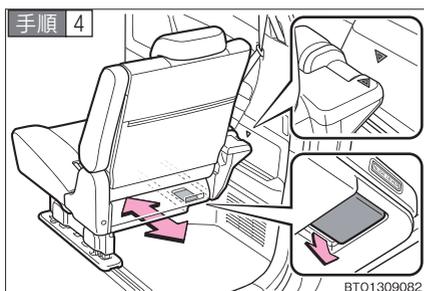
知識

■ サイドリフトアップシート装着車について

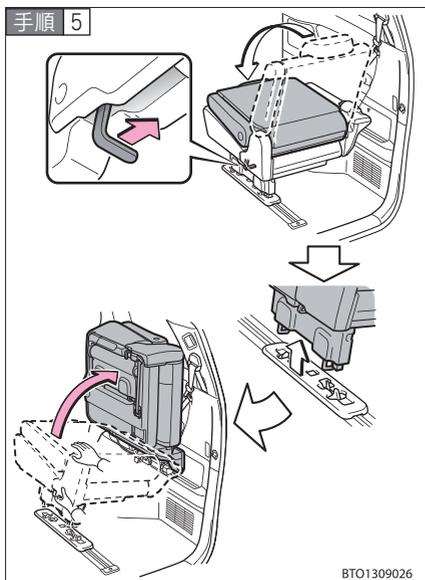
サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

サードシートを格納状態にするとき

- 手順 1** 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。
- 手順 2** サードシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟み、中央席シートベルトを格納する。(→P. 91)
各シートベルトのバックルも格納します。
- 手順 3** サードシート中央席のヘッドレストを取りはずし収納する。(→P. 73)



サードシートを前後に動かし、シート側のマークをトリム側のマークに合わせる。

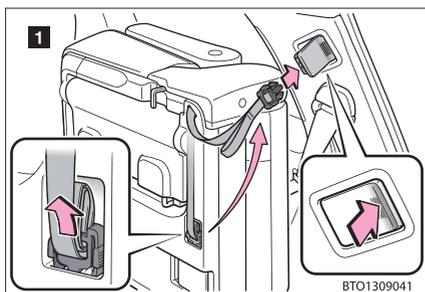


シートをはね上げる。

シート裏側のスペースアップレバーを引いて背もたれを倒し、シートをはね上げます。

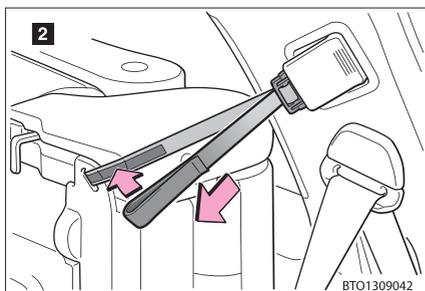
・シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。

手順 6 シートを固定する。



1 シートクッション裏側にあるシート固定ベルトを取り出し、ロック部に差し込みます。

ロック部は押して引き出します。



2 シートを手で押さえながら、シート固定ベルトを引っ張りシートを固定します。

ベルトのたるみを取ったあと、マジックテープを密着させ固定します。

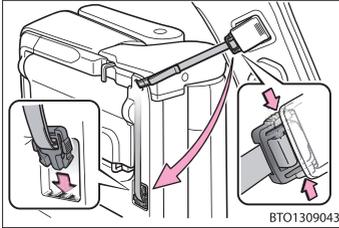
手順 7 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。

知識

■ サードシートを格納するとき

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■ シート固定ベルトをはずすときは



シート固定ベルトのツメを押してはらずし、シートクッション裏側に格納します。

- ・ シートを押し、ベルトをゆるめた状態でツメを押します。

最大ラゲージモードにするときは

▶ 7人乗り車

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

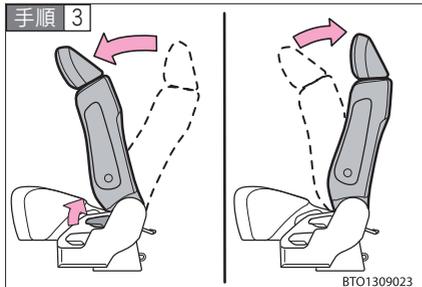
手順 2 サードシートを格納する。(→P. 79)

手順 3 セカンドシートを一番前まで移動させる。(→P. 63)

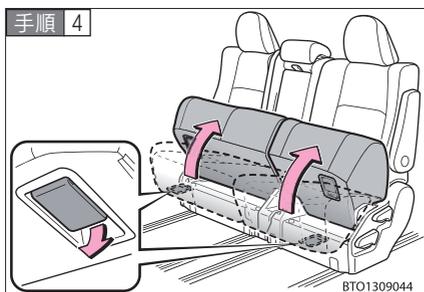
▶ 8人乗り車

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 サードシートを格納する。(→P. 79)



セカンドシートの背もたれを一度前方に倒し、音がするまで少し後方にもどす。



シートクッション下のチップアップレバーを引き、クッションを持ち上げる。

手順 5 セカンドシートを一番前まで移動させる。(→P. 63)

スーパーリラックスモードのしかた (7人乗りマニュアルシート装着車)

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 サードシートを一番うしろまで移動させる。(→P. 70)

手順 3 センターテーブルを格納する。(→P. 287)

手順 4 セカンドシートの左右位置を中央に移動させる。(→P. 64)

手順 5 スライドストッパーをはずす。

手順 6 セカンドシートを後方へ移動させる。(→P. 64)

手順 7 オットマンを引き起こす。(→P. 64)

エグゼクティブモードのしかた (7人乗りパワーシート装着車)

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 サードシートを一番うしろまで移動させる。(→P. 70)

手順 3 セカンドシートを後方へ移動させる。(→P. 63)

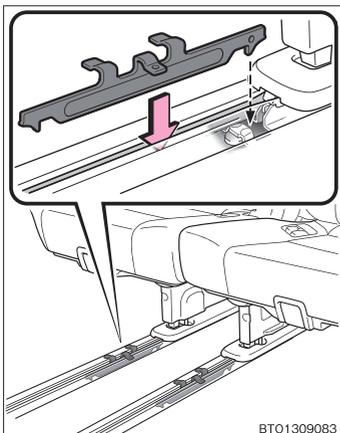
手順 4 オットマンの角度を調整する。(→P. 63)

手順 5 フットレストを引き倒す。(→P. 67)

知識

■ スライドストッパーについて

- スライドストッパーは紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。



- 取りつけるときは、サードシート足元にあるレール内の穴に、スライドストッパーのツメを差し込み取りつけてください。

BT01309083

警告

■ シートアレンジについて

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートの間にシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。

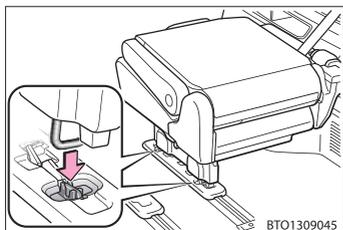
警告

■ **フラットシートについて**

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

■ **シートの格納について**

- ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。
- シートベルトが背もたれや、シートクッションに挟まれていないことを確認してください。
- シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを格納しないでください。
- シート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがををするおそれがあります。シートを格納したときは必ずシートを固定してください。



- シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。

 **注意****■ シートアレンジについて**

- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。
- シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■ フラットシートについて

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。（マニュアルシート）
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

■ シートの格納、ラゲージモードについて

- セカンドシートのシートクッションを持ち上げたときは、シートクッションの土台部分に乗ったり、手や足をいれないでください。
- サードシートをおろすときは、シート脚部と床面ロック部の間に足を挟まないように注意してください。
- サードシートをおろすときは、床面に物が無いことを確認してから行ってください。
- セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートが当たり格納できないことがあります。
- サードシートを持ち上げる時、またはおろすときはスライドレバーを操作しないでください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドライビングポジションメモリー*

お好みのドライビングポジション（運転席、ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

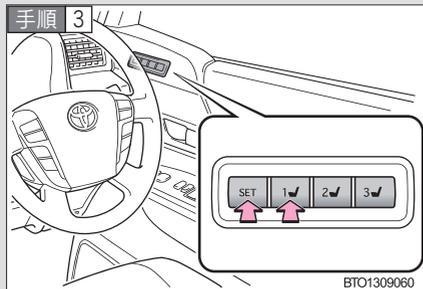
ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

シフトレバーがPの位置にあることを確認します。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 運転席、ドアミラー角度を好みの位置に調整する



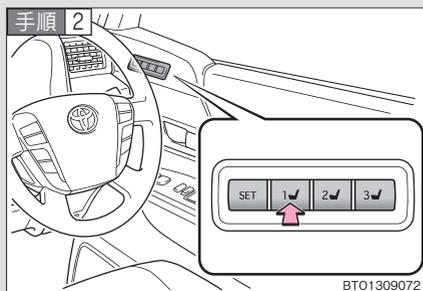
SET ボタンを押しながら、1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーがPの位置にあることを確認します。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする。



1～3のうち呼び出したいポジションのボタン押す。

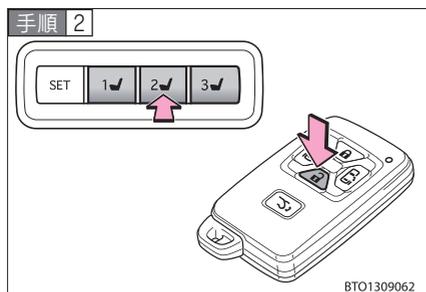
ポジションを呼び出しているときに、ブザーが鳴ります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには

お好みのポジションをあらかじめ1～3のいずれかのボタンに登録しておきます。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。



1～3のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  ボタンをブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー&スタートシステム、またはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2 SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  ボタンをブザーが鳴るまで押す。

■ エンジン停止後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあとに運転席ドアを開けると 30 秒以内ならスイッチ操作（1～3）でポジションの呼び出しができます。

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1～3のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）。

 **警告**

■ **シート調整時の警告**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転者の体がハンドルで
圧迫されたりしないよう注意してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートベルト

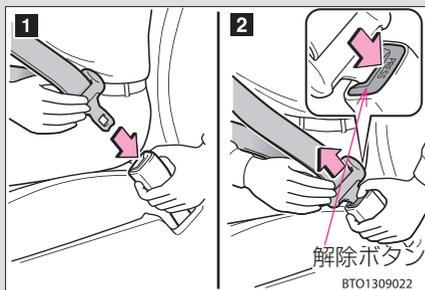
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方（フロントシート、セカンドシート、サードシート外側席）



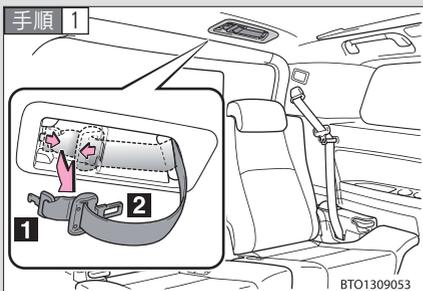
1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

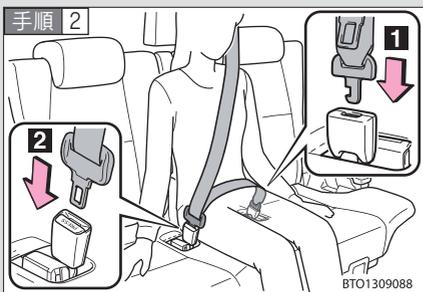
2 解除

解除ボタンを押します。

■ 着け方、はずし方（サードシート中央席）

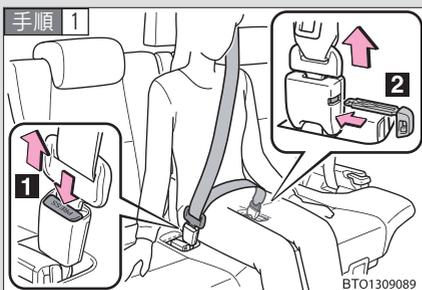


- 1 プレート A
 - 2 プレート B
- プレートを取り出す



- 1 プレート A
 - 2 プレート B
- “カチッ”と音がするまで差し込みます。

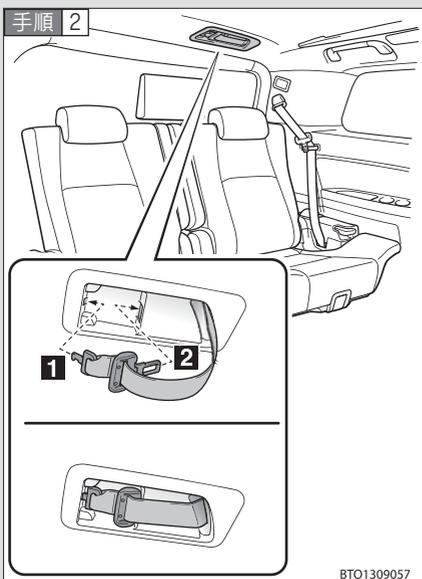
■ 分離・格納のしかた



1 バックルの解除ボタンを押す。

2 メカニカルキーをバックルに差し込む。

メカニカルキー (→P. 22)



プレート A、B をホルダーに格納する

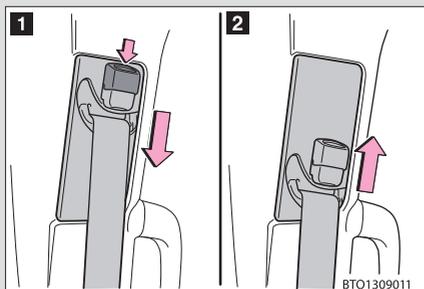
1 プレート A

2 プレート B

ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

・もとにもどすときは、逆の手順でプレートを取り出し、バックルにプレートを差し込みます。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

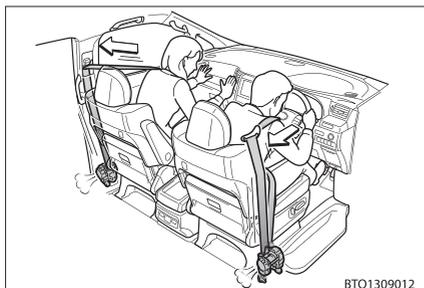


1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確認します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティ装着車のフロント席）

レーダーセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

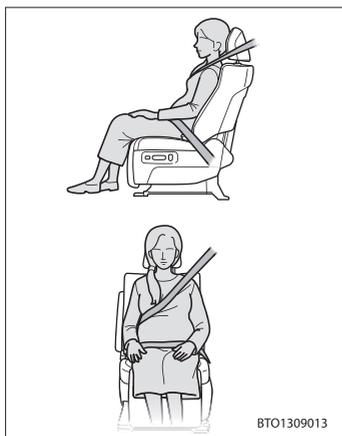
急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。
(→P. 232)

 知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ 妊娠中の女性や疾患のある方の場合

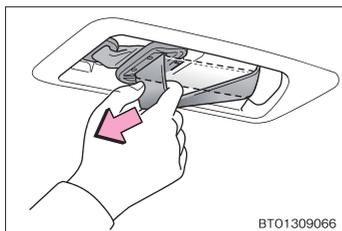


医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 89)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ サードシート中央席のシートベルトが引き出せないときは



シートベルトとホルダーの間に指を入れ、ベルトを矢印の方向に強く引いてからはなすと引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

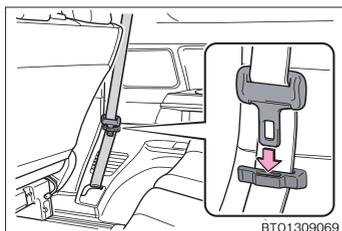
車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 129)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 89)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ セカンドシート左右席のシートベルトについて (8人乗り車)



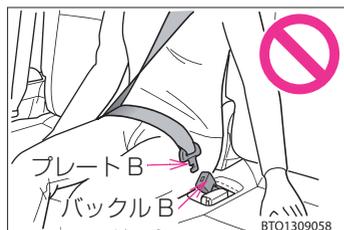
シートベルトを使用しないときは、シートベルトクリップに挟み、プレートをクリックプに差し込んでください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシート、またはサードシートに座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- シートは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させ着用する



- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート B とバックル B を結合してください。

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルからシートベルトがはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

 **警告**

■ **シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **プリクラッシュシートベルトについて**

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

■ **プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

 **注意**

■ **サードシート中央席シートベルトについて**

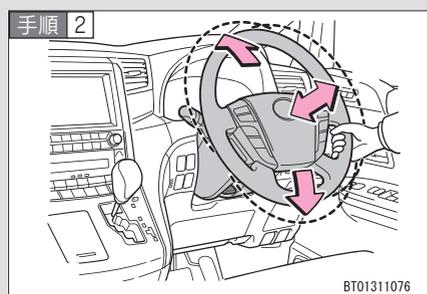
使用しないときは、シートベルトを格納しておいてください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

■ ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



ハンドルを持ち、レバーを下げる



ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

■ 走行中の警告

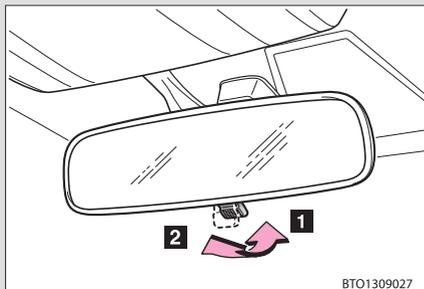
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた インナーミラー

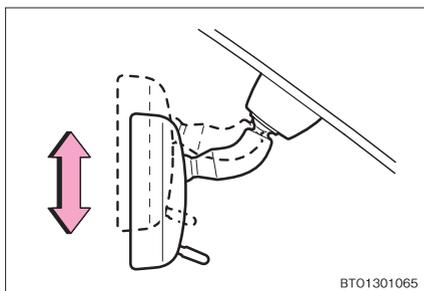
後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。



1 通常使用状態

2 防眩状態

上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

警告

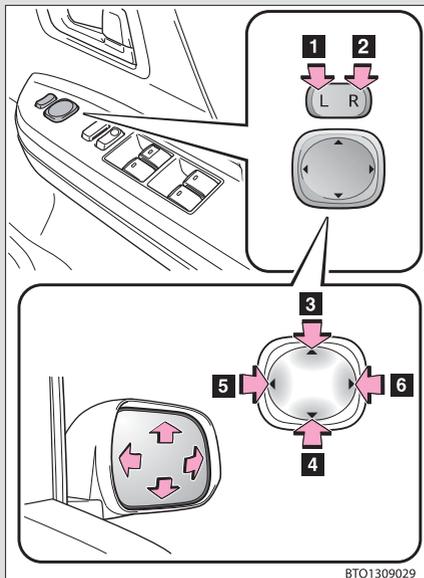
■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき、スイッチで鏡面の角度調整をします。



ミラーを選ぶ

1 L：左

2 R：右

スイッチを操作してミラーを上
下左右方向に調整する

3 上

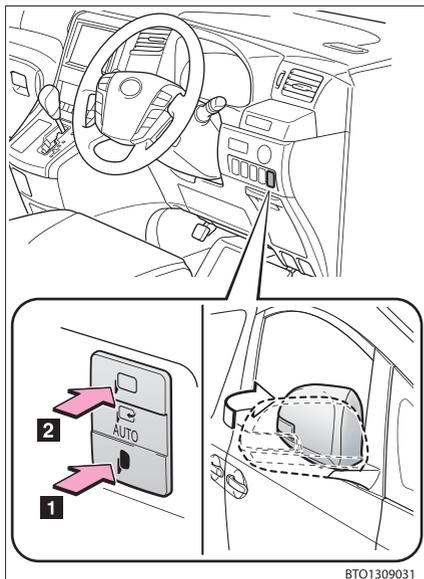
4 下

5 左

6 右

ドアミラーを格納するとき

▶ オート電動格納式ミラー装着車

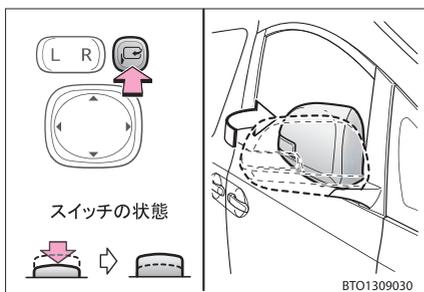


1 格納する

2 もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 (AUTO) にすると自動モードに切り替わり、ドアの施錠・解錠と連動します。

▶ オート電動格納式ミラー非装着車



ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 258）

■ミラー角度の自動調整*

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 86）

■リバース連動機能*

後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rの間）にしておくと、この機能は作動しません。

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

●次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に1・2日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 297）を行ってください。

- ・鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手で触れたり汚れた布などでふいたとき
- ・洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
- ・地下・屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき

●次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

- ・鏡面にシリコン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
- ・鏡面に傷をつけたとき

■ワイドビューミラーについて

通常よりも広い視界が確保できるよう、ミラー下側の曲率が違うため、ミラー下側に映るものは、実際よりも遠くにあるように見えます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **警告**

■ **走行しているときは**

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ **ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）**

鏡面が熱くなるので触れないでください。

 **注意**

■ **ミラーが凍結したとき**

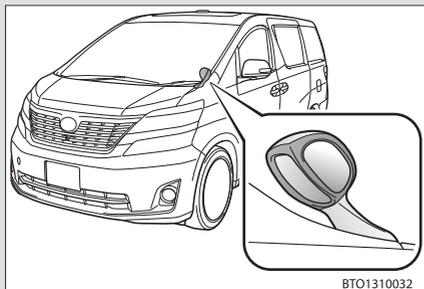
親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。

■ **レインクリアリングミラーの取り扱いについて**

- ミラーが凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂のついた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷つけるものでこすらないでください。

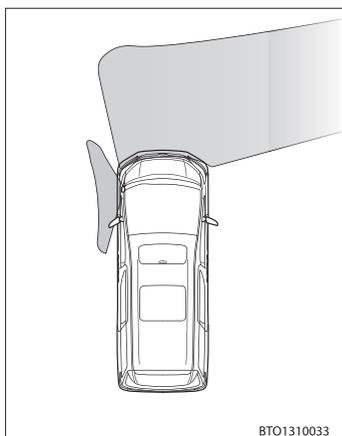
1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた 補助確認装置

発進時またはごく低速時に、車両前方と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。



知識

■ ミラーに映るおよその範囲



身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

- ・ ミラーの鏡面は固定式ですので鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

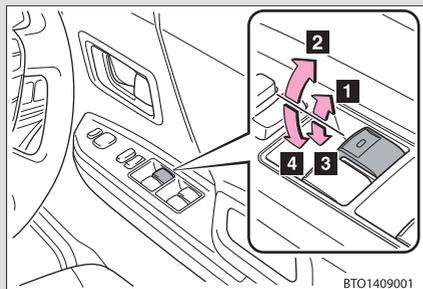
 注意

■ 補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用し十分注意してください。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

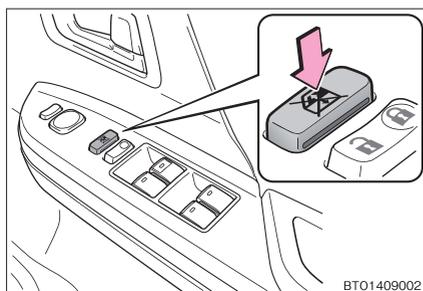
スイッチでドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉*
- 3 開ける
- 4 自動全開*

*途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のドアガラス、リヤムーンルーフ*を作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスやリヤムーンルーフを開閉することを防止できます。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にした後でも、約 43 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能*

- ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでドアガラスを開閉できます。(→P. 33, 380)
- スマートエントリー&スタートシステムでドアガラスを閉めることができます。(→P. 25)

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。また、故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると閉めることができます。ただし、挟み込み防止機能は作動しません。

■ パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードの状態、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 400)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告**■ ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意**■ ドアガラスを開閉するときは**

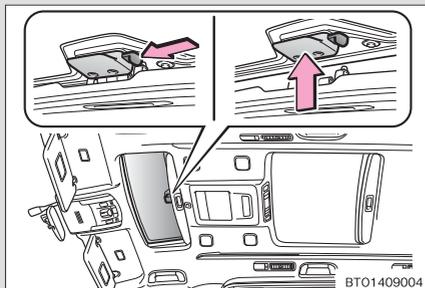
以下のことをお守りください。

- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 ツインムーンルーフ*

フロントムーンルーフのチルトアップ／ダウン、天井にあるスイッチでリヤムーンルーフを開閉できます。

▶ フロントムーンルーフ

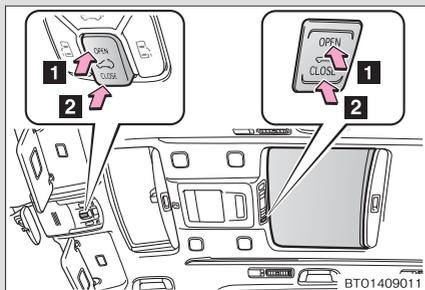


チルトアップ

ボタンを押しながらハンドルを押し上げます。

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。

▶ リヤムーンルーフ



1 開く

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

知識

■ リヤムーンルーフの作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときただし、パワーウィンドウのロックスイッチがロック状態のときは作動しません。

■ 挟み込み防止機能

リヤムーンルーフを閉めるときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤムーンルーフを閉めることができないとき

故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、リヤムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けることで閉めることができます。

■ リヤムーンルーフが反転して閉じ切らないときは

下記の操作を行ってください。

CLOSE 側を押し続ける。*

- ・ スイッチを押し続けている間リヤムーンルーフが開閉作動を繰り返します。
- ・ リヤムーンルーフが全閉したら復帰操作が完了します。

* 復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ サンシェード

手動で開閉できます。リヤサンシェードは、リヤムーンルーフを開けると連動して開きます。

■ ムーンルーフ開警告ブザー

リヤムーンルーフが閉まっていない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

また、同時にメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車
→P. 356

警告

■ **ムーンルーフを開けているときは**

以下のことを必ずお守りください。

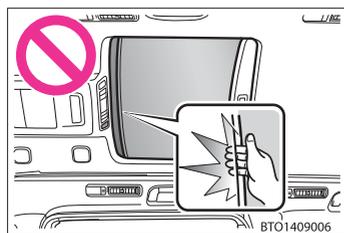
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ **ムーンルーフを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- リヤムーンルーフを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能（リヤムーンルーフ）**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、リヤムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

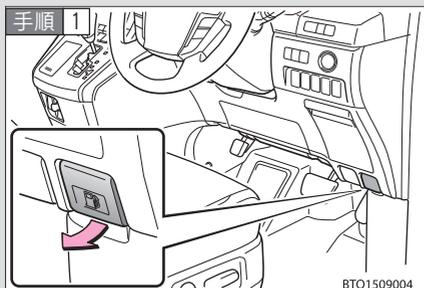
1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

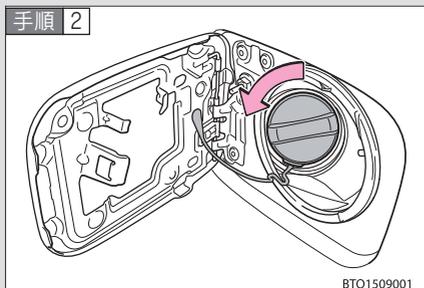
■ 給油する前に

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

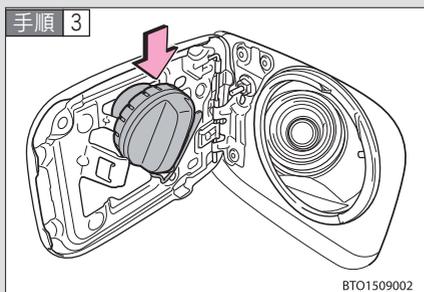
■ 給油口の開け方



給油口を開ける

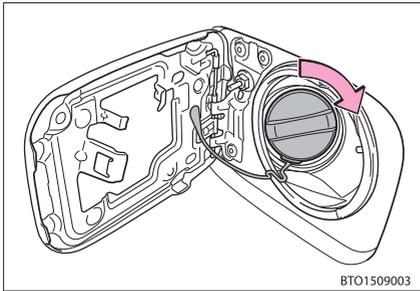


キャップをゆっくり回して開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■ 燃料の種類

2GR-FE エンジン車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。
その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

2AZ-FE エンジン車：無鉛レギュラーガソリン

■ 燃料タンク容量

約 65 L

 **警告****■ 給油について**

給油前には以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近づけない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油をするときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示にしたがってください。

■ キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意**

■ **給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

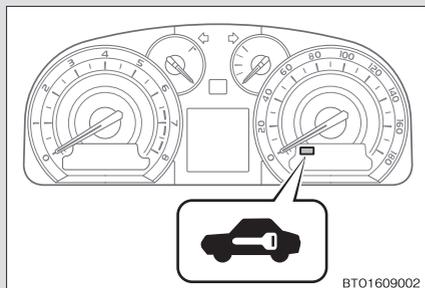
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“エンジン スタートストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 電子キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム*

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

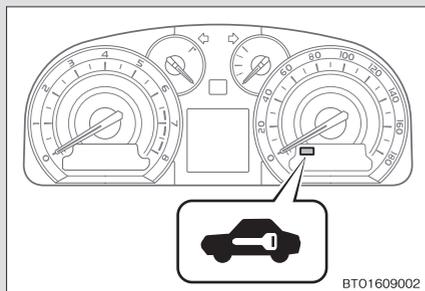
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアがスマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

ナビゲーションシステム装着車で、G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、オートアラームが作動した場合、Eメールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、「ナビゲーションシステム取扱書 /G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・バックドア・ボンネットを閉めスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケータは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除および作動を停止するには

以下のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- エンジンを始動する（数秒後に解除、停止します）

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識**■ メンテナンスについて**

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除、作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドア、ボンネットを開けたとき
- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき
- メカニカルキーによりドアを解錠したとき

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

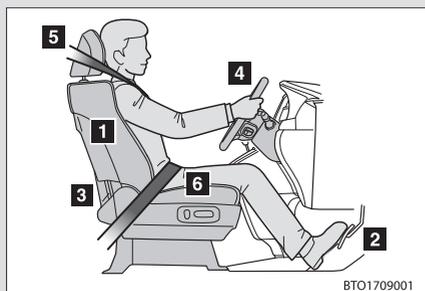
 注意**■ オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない (→ P. 59)
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする (→ P. 59)
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 97)
- 5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる (→ P. 72)
- 6 シートベルトが正しく着用できる (→ P. 89)

 **警告****■ 走行中は**

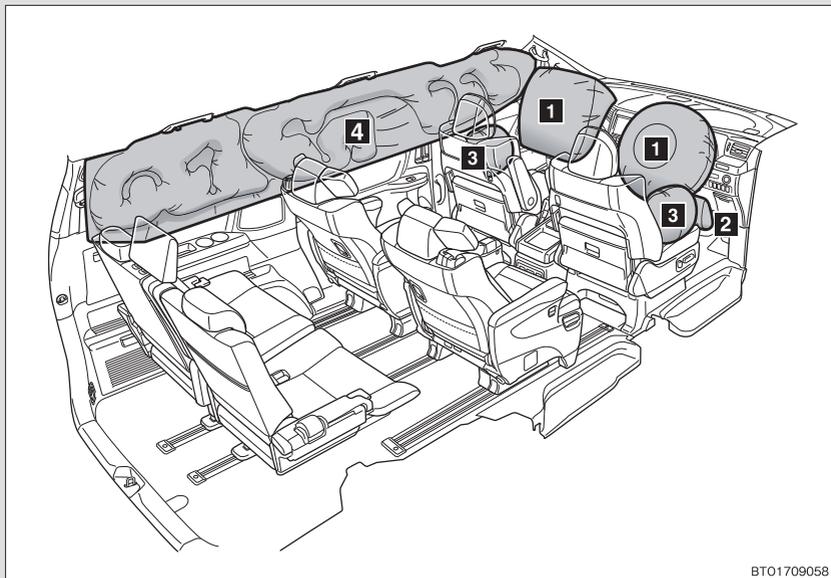
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



BT01709058

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とセカンドシート、サードシート外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和)

 知識**■ SRS エアバッグが展開すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

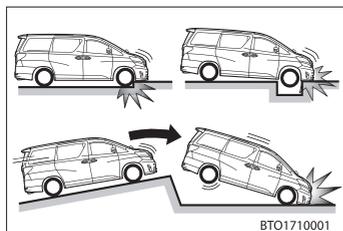
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

**■ SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）**

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき

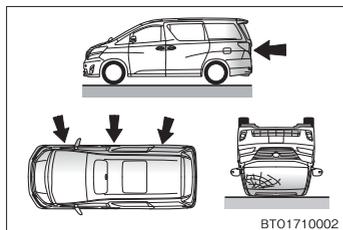
以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRSエアバッグが作動しないとき（フロントSRSエアバッグ）

フロントSRSエアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロントSRSエアバッグが作動することがあります。

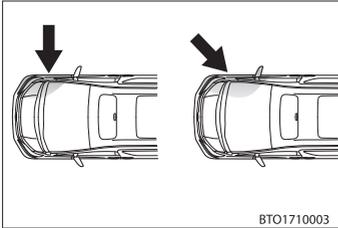


- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき

(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

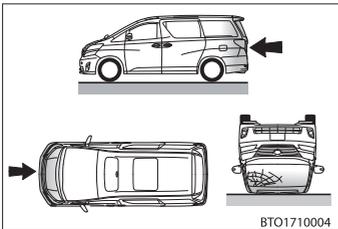
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



BTO1710003

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。



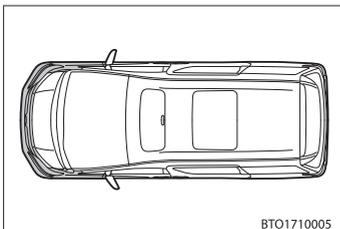
BTO1710004

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

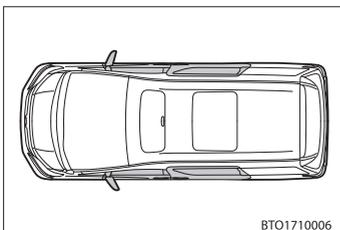
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

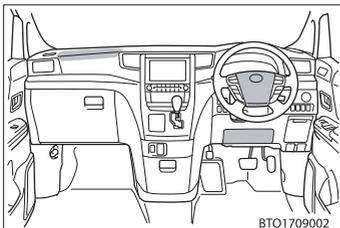
● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



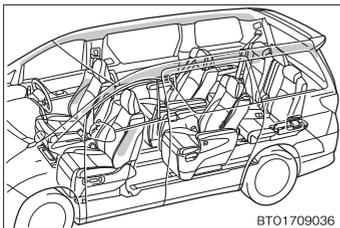
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

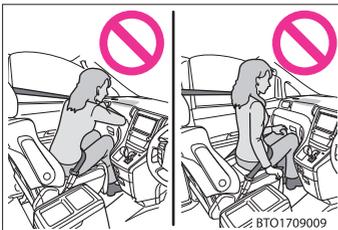
警告

■ SRS エアバッグについて

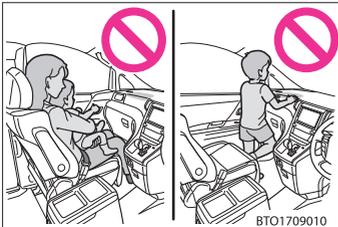
必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員全てがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。(→P. 137)



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



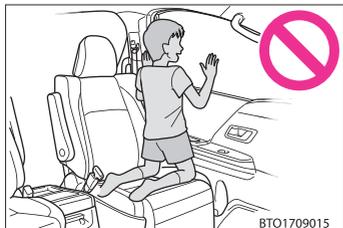
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

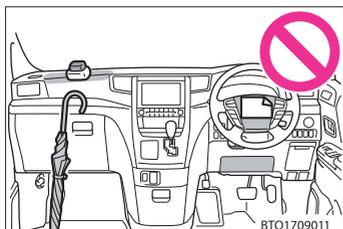
■ SRS エアバッグについて



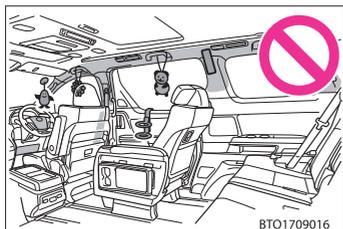
- ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。



- サイドガラスに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。



- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取りついたり、置いたりしない。



- ドア、フロントガラス、サイドガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取りつけない。

 **警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な障害または死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

 **警告**

■ **改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0	: 10kg まで
グループ0 ⁺	: 13kg まで
グループI	: 9 ~ 18kg
グループII	: 15 ~ 25kg
グループIII	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとまなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、Iに相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、IIIに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート		
		7人乗り車	8人乗り車	
	助手席	左右席	左右席	中央席
0 (10kg まで)	×	U	U	U
0 ⁺ (13kg まで)	×	U	U	U
I (9 ~ 18kg)	前向き UF	U	U	U
	うしろ向き ×			
II (15 ~ 25kg)	UF	U	U	U
III (22 ~ 36kg)	UF	U	U	U

質量グループ	着席位置（または他の場所）	
	サードシート	
	左右席	中央席
0 (10kg まで)	U	×
0 ⁺ (13kg まで)	U	×
I (9 ~ 18kg)	U	×
II (15 ~ 25kg)	U	×
III (22 ~ 36kg)	U	×

● 表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取りつけることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

**シート位置別子供専用シートの適合性一覧表
(ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)**

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL
0 ⁺ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF: この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL: ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×: ISOFIX 子供専用シートを取りつけることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認下さい。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取りつけるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 131)を参照し、子供専用シートを取りつけ可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 132)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

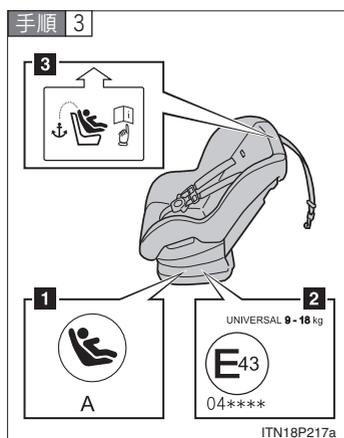
手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。*

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

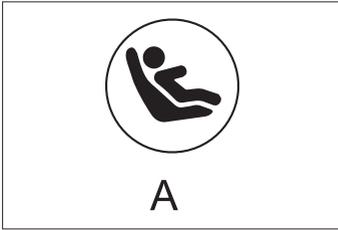
*ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 133)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。*

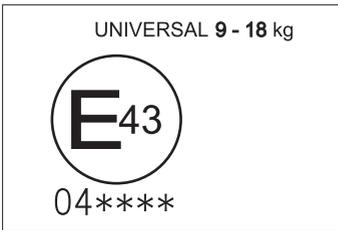
*表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

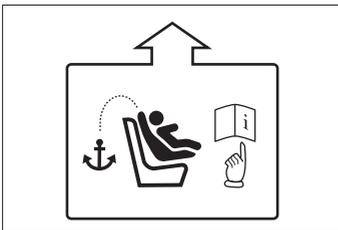
サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



2 汎用 (ユニバーサル) 子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



3 トップテザー (→P. 137) を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

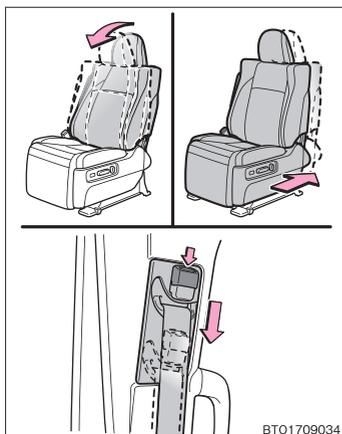
■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類 (サイズ等級別)

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート (キャリコット)
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート (キャリコット)

知識

■ 助手席に子供専用シートを取りつけるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。



- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。シートにしっかりと固定されていない状態で客室内に置くことは避けてください。固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに子供専用シートが動いて乗員に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、荷室内に収納し、しっかりと固定しておいてください。固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに子供専用シートが動いて乗員に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

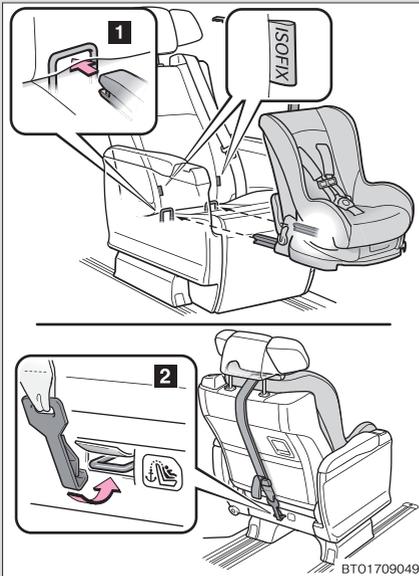
1-7. 安全にお使いいただくために チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、またはサードシートに取りつけてください。

取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。



シートベルトによる取り付け
(→ P. 138)



1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→ P. 140)

セカンドシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。)

2 トップテザーアンカー
(→ P. 141)

テザーベルトを固定するときに使います。

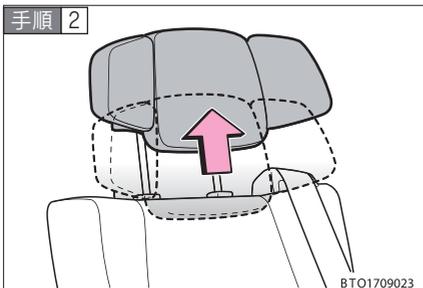
トップテザーアンカーはセカンドシートの外側の座席に装備されています。

シートベルトで固定する

手順 1 背もたれの角度を調整する

- 背もたれを一番前にします。(7人乗りパワーシート装着車)
- いったん背もたれを前に倒してから、一段目の固定位置まで起こします。(7人乗りマニュアルシート装着車、8人乗り車)

手順 2



ヘッドレストを一番上まで上げる。

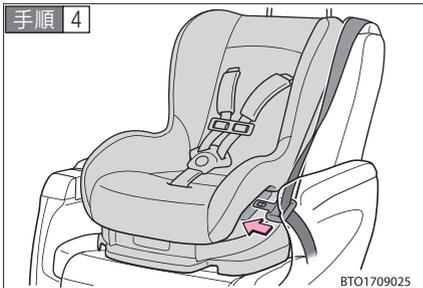
手順 3



チャイルドシート本体をセカンドシートに置く

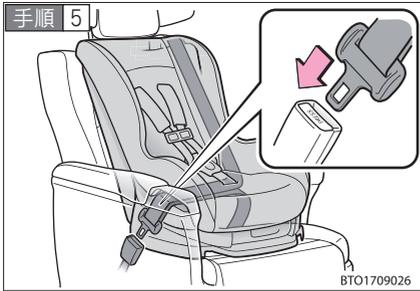
セカンドシートの背もたれとの間にすき間ができないようにしてください。

手順 4



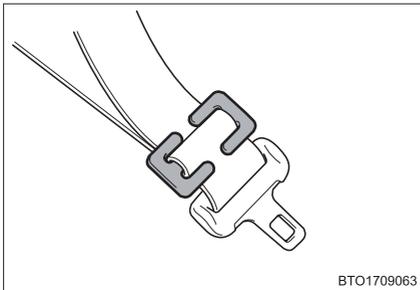
シートベルトを引き出し、ねじれがないか確認しながら、シートベルト通し位置に通す

シートベルトの通し方は、商品によって異なるため、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。



チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

手順 1



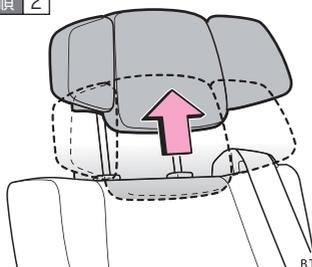
BT01709050

背もたれの角度を調整する

チャイルドシートが取り付けられる角度まで倒します。

・マニュアルシートは、背もたれが固定されていることを確認します。

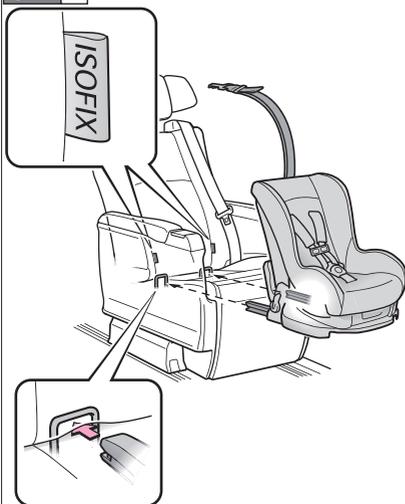
手順 2



BT01709023

ヘッドレストを一番上まで上げる。

手順 3



BT01709051

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける。

固定専用バーは、シートクッションと背もたれの間にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

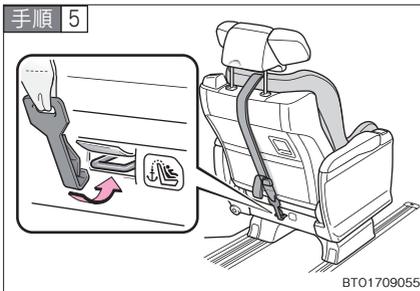
取り付け方法は、それぞれの商品付属の取扱説明書にしたがってください。



背もたれの角度を調整する

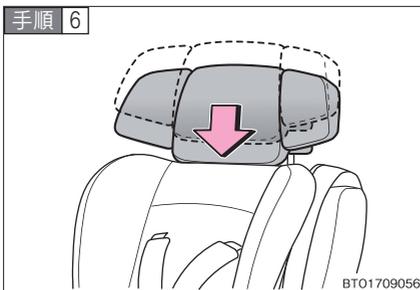
チャイルドシートが安定するまで起こします。

・マニュアルシートは、背もたれが固定されていることを確認します。



トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。



ヘッドレストを一番下まで下げる。



取りつけたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認する。

 **警告**

■ **チャイルドシートについて**

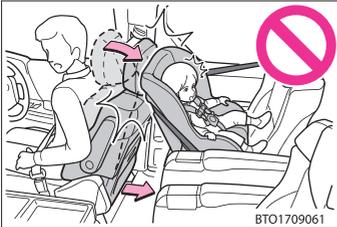
- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してセカンドシートまたはサードシートに取りつけてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **チャイルドシートを取りつけるときは**

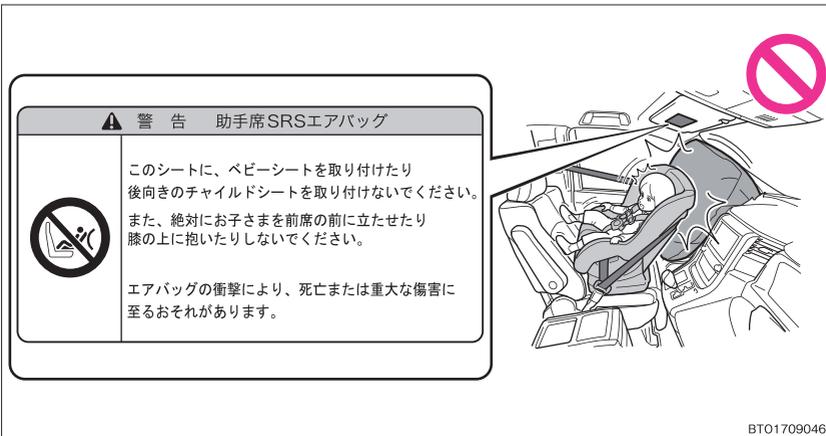
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルからシートベルトがはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているかを確認してください。

警告

■チャイルドシートを取りつけるときは



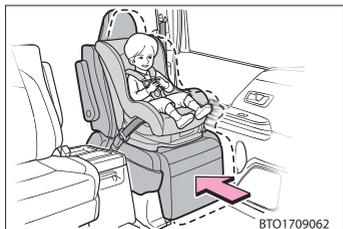
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取りつけてください。



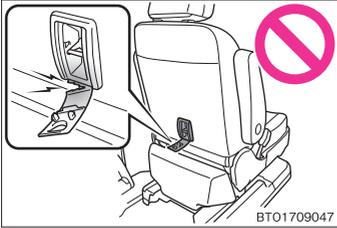
- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。うしろ向きに取りつけていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

警告

■ **チャイルドシートを取りつけるときは**



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取りつける場合には、助手席シートを一番うしろに下げて取りつけてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 注意**■ サイドリフトアップシート装着車のトップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	148
エンジン（イグニッション） スイッチ	157
オートマチック トランスミッション	161
方向指示レバー	167
パーキングブレーキ	168
ホーン	169

2-2. メーターの見方

計器類	170
表示灯／警告灯	175
マルチインフォメーション ディスプレイ	179

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	185
フロントフォグライト スイッチ	188
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	189
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	192

2-4. その他の走行装置の 使い方

4WD オートモード	194
クルーズコントロール	195
レーダークルーズ コントロール	198
LKA（レーンキーピング アシスト）	208
クリアランスソナー	215
運転を補助する装置	225
ヒルスタートアシスト コントロール	230
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	232

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	238
寒冷時の運転	240

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける (→P. 158)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。
(→P. 161)

手順 2 パーキングブレーキを解除する。
(→P. 168)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。
(→P. 161)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。
(→P. 168)

手順 3 シフトレバーを P にする。
(→P. 161)

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてエンジンを止める。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

- 手順 1** パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。
- 手順 2** アクセルペダルをゆっくり踏む。
- 手順 3** 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■ヒルスタートアシストコントロール*について

ヒルスタートアシストコントロールにより、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。(→P. 230)

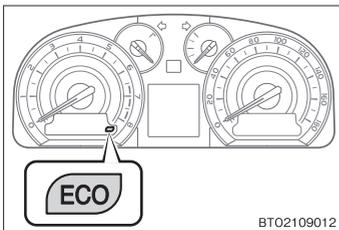
■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転をするには



エコドライブインジケータランプが点灯するとCO₂（二酸化炭素）排出量の少ない運転をしていることをお知らせします。必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。(シフトレバーをDで走行時)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **警告**

■ **発進するときは**

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ **運転するときは**

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

● シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

● 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

● 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

 **警告****■ 運転するときは**

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーをDに入れしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 390を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 163)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、全ての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

■ **すべりやすい路面を運転するときは**

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **停車するときは**

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告****■ 駐車するときは**

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ スプレー缶からガスが漏れたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を貼りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。



警告

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ ブレーキをかけるときは

- 万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

 **警告****■ ブレーキをかけるときは**

- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは（4WD オートモード作動時）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ 運転中は**

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱい回した状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

 **注意**

■ **きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドインジケーター）**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ **走行中にタイヤがパンクしたら**

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 363 をご覧ください。

■ **冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

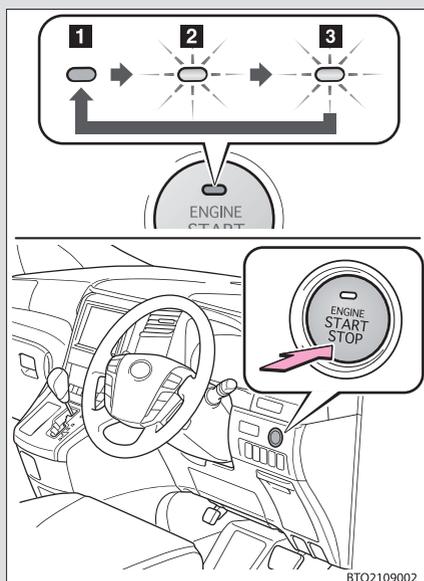
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスアクスル、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切りかえ
ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

シフトレバーが P 以外のときは OFF になりません。

2 アクセサリーモード

アクセサリースocketなどの電装品が使用できます。

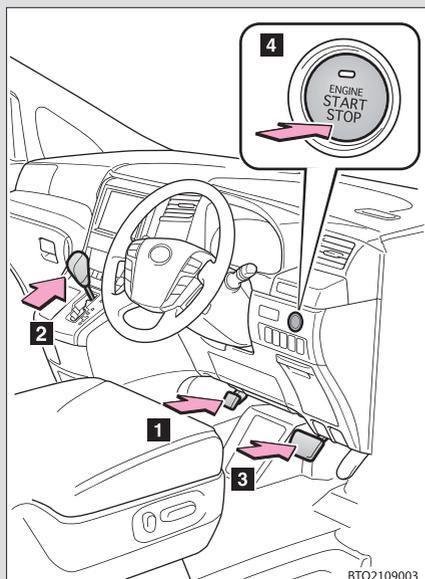
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

全ての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

■ エンジンのかけ方



1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

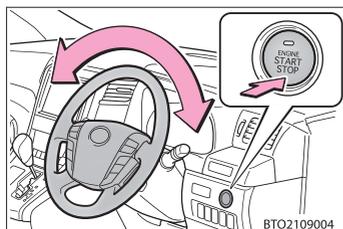
4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

“エンジン スタート ストップ” スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

知識

■ ステアリングロックを解除するには



ステアリングを左右に動かしながら、“エンジン スタート ストップ” スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは“エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 115)

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリモードにしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ” スイッチが自動で OFF になります。

■ クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 25 秒間保持します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 25 秒間です。約 25 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 28

■ 電子キーの電池が切れたときは

→P. 380

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 32

■ ご留意いただきたいこと

→P. 29



警告

■ エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。



注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

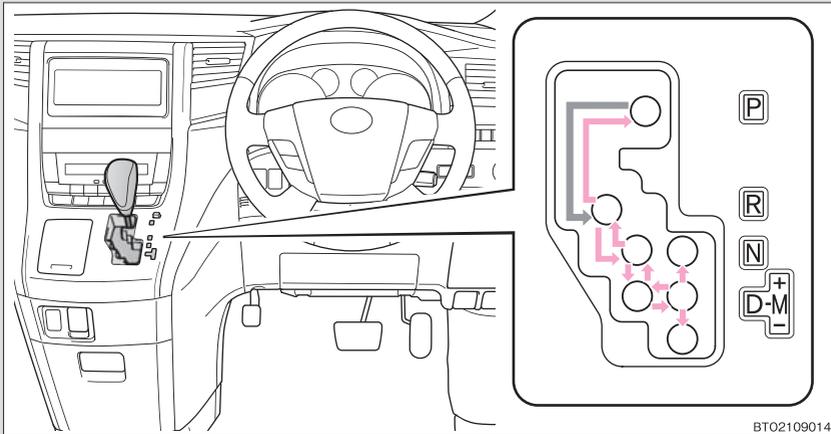
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

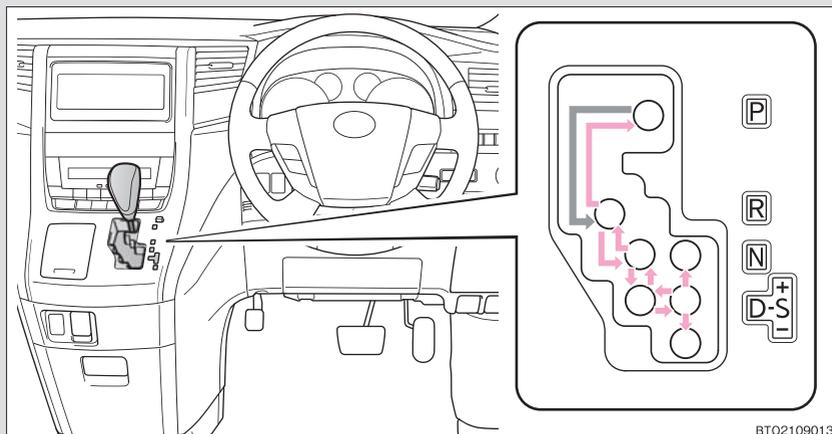
■ シフトレバーの動かし方

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車



← “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車



← “エンジン スタートストップ”スイッチがイグニッションON
モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

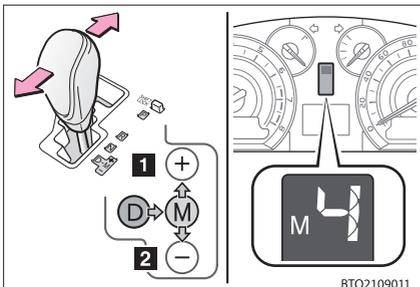
シフトポジション	目的	
	2AZ-FE エンジン搭載車	2GR-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※ ¹	
M	7速スポーツ シーケンシャルシフト マチックモード走行 (→P. 163)	/
S		

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

※² Sモードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキを切り替えたり、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えた走行ができます。

7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーをMの位置にして、シフトレバーを操作します。
(2AZ-FE エンジン搭載車)



1 シフトアップ

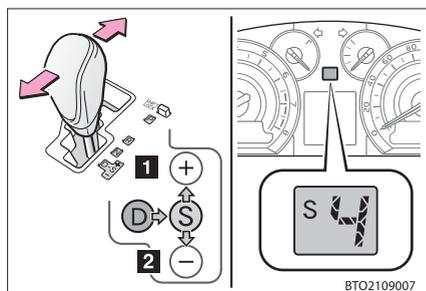
2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに1段ずつ変速します。

1～7の間で選択されている変速段がメーターに表示されます。

Sモードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーをSの位置にして、シフトレバーを操作します。
(2GR-FE エンジン搭載車)



1 シフトレンジアップ

2 シフトレンジダウン

シフトレバーを操作するごとに1レンジずつ変わります。

シフトレバーをシフトレンジアップ側へ保持すると6レンジに設定されます。

1～6の間で選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて5レンジもしくは4レンジに設定されます。ただし、DポジションにてA-SHIFT制御中はそれにしたがって、初期のシフトレンジが3レンジまたは2レンジになる場合があります。(→P. 166)

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
6	スピードや走行条件に応じて、1速から6速のギヤが自動的に変わります。
5	スピードや走行条件に応じて、1速から5速のギヤが自動的に変わります。
4	スピードや走行条件に応じて、1速から4速のギヤが自動的に変わります。
3	スピードや走行条件に応じて、1速から3速のギヤが自動的に変わります。
2	スピードや走行条件に応じて、1速から2速のギヤが自動的に変わります。
1	ギヤが1速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンプレーキ力は大きくなります。

 知識

■ 7速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について (2AZ-FE エンジン搭載車)

- エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。
- エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■ Sモードに関する自動変速について (2GR-FE エンジン搭載車)

- エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に1レンジずつシフトレンジアップされます。
- トランスミッションフルードの温度が高くなると、オートマチックトランスミッションの保護のため、自動的にシフトレンジアップされます。

■ シフトダウン制限警告ブザー

(7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード、またはSモード走行時)

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 378

■ レーダークルーズコントロール*、クルーズコントロール*を使って走行しているとき

2AZ-FE エンジン車：

シフトレバーを D から M へシフトしてもエンジンブレーキは効きません。また、7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中にM6またはM5、M4 へシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。(→P. 195、198)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■レーダークルーズコントロール*、クルーズコントロール*を使って走行しているとき

2GR-FE エンジン車：

シフトレバーを D から S へシフトしてもエンジンブレーキは効きません。また、S モード走行中に 5 レンジまたは 4 レンジへシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。(→P. 195, 198)

■シフトレバーを M、または S にしても、シフトポジション・シフトレンジ表示部に M、または S 表示灯が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■M ポジションで走行中に停車したときは
(7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時)

- ・ 停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
- ・ 停止後走行するときは M1 からの発進となります。
- ・ 停止後は M1 に固定されます。

■NAVI・AI-SHIFT*について

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■AI-SHIFT について (2GR-FE エンジン搭載車)

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切り替えます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。)

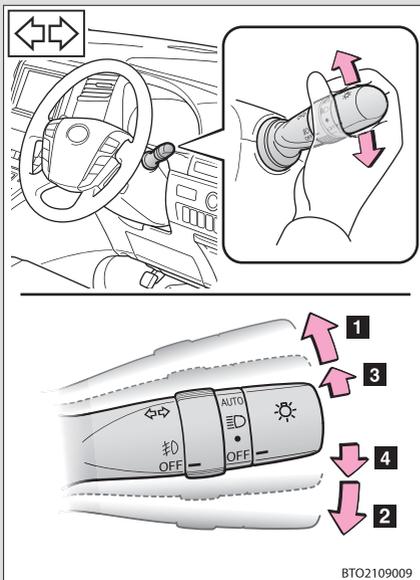
 **警告**

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー



1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更

(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更

(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

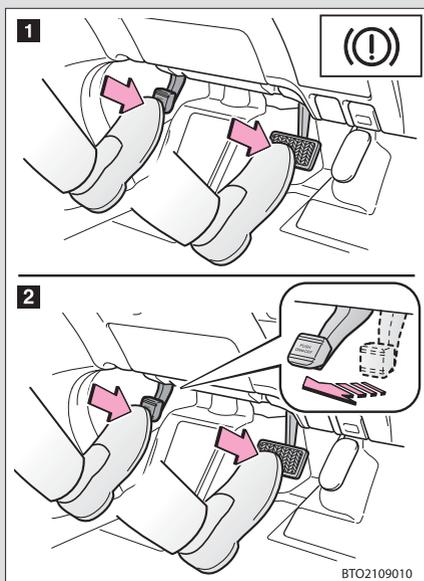
“エンジン スタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



1 パーキングブレーキをかける

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキがかかっている状態で、再度パーキングブレーキを踏み込みます。

知識

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 348

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 240)の記載を参照してください。

警告

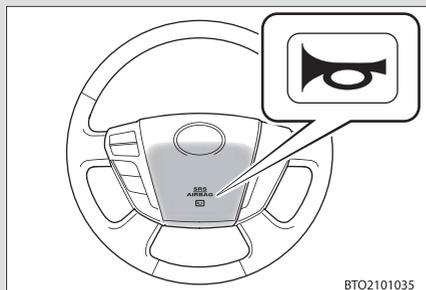
■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



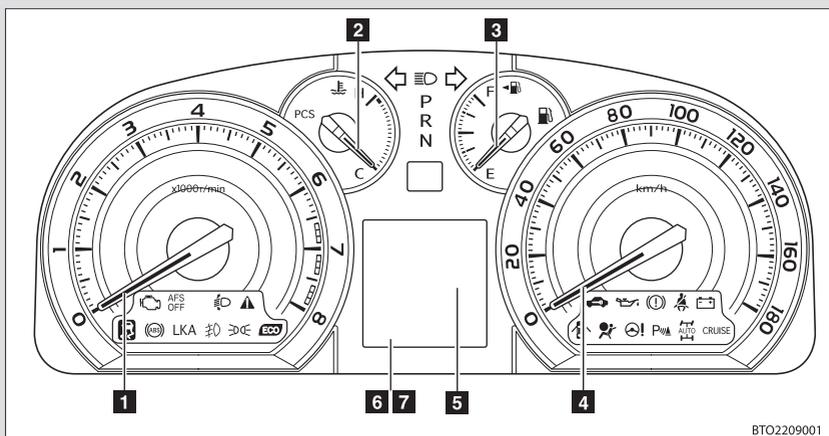
ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 97）

▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車



“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

- 1** タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
- 2** 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
- 3** 燃料計
燃料残量を示します。
- 4** スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- 5** マルチインフォメーションディスプレイ
→P. 179

6 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

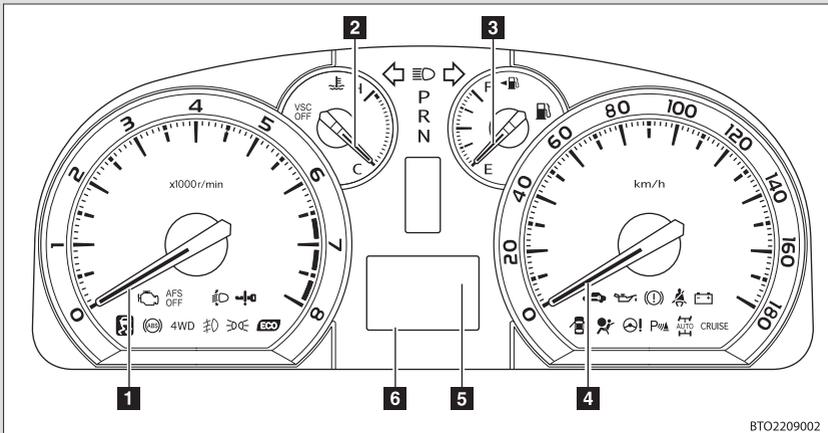
リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップA、トリップBの2種類で使い分けることができます。

7 外気温表示

外気温を表示します。

▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車



BTO2209002

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 179

6 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

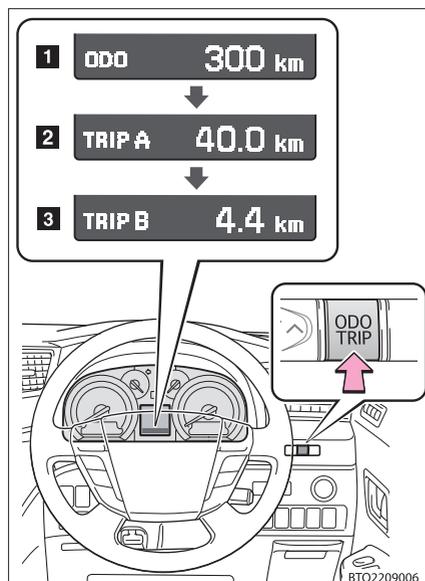
● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップA、トリップBの2種類で使い分けることができます。

表示切り替えボタン

ボタンを押すごとに以下のように切り替わります。



1 オドメーター

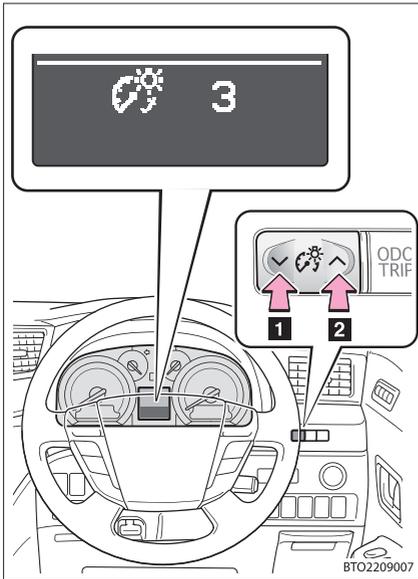
2 トリップメーター A ※

3 トリップメーター B ※

※ 長押しで0にもどります。

メーター照度調整スイッチ

メーター照明の明るさを調整できます。



1 暗くなる

2 明るくなる

スイッチを押すとマルチインフォメーションディスプレイの表示が切り替わります。

・車幅灯消灯時と点灯時それぞれ 8 段階に、明るさのレベルを調整することができます。

知識

■ 減光について

周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。

周囲が明るいとき（昼間など）車幅灯を点灯しても、メータ照明は減光されません。

■ 外気温表示について

- 外気温の測定が正しく行われなときは「—℃」と表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

注意

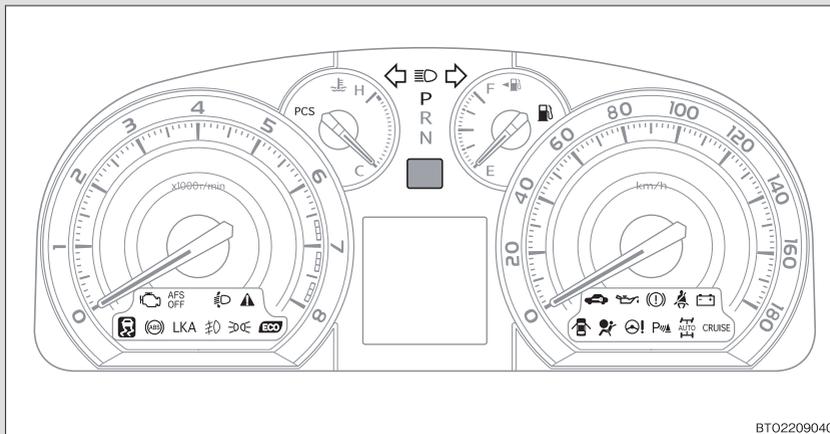
■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 385）

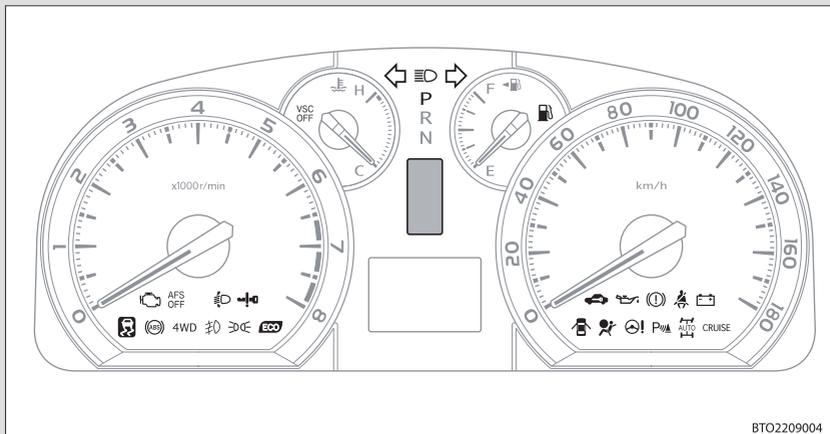
2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

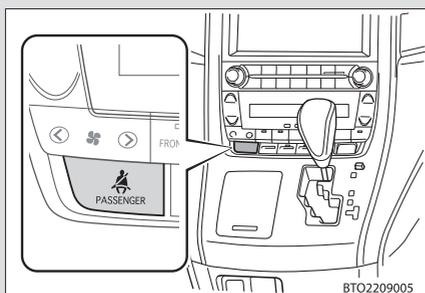
▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車



▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車



▶ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 167)



※ 4WD オートモード
表示灯* (→P. 194)



尾灯表示灯 (→P. 185)



※ スリップ表示灯
(→P. 226)



クリアランスソナー表示灯
(→P. 215)



※ VSC OFF 表示灯*
(→P. 227)



※ AFS OFF 表示灯*
(→P. 186)



クルーズコントロール
表示灯* (→P. 195)
レーダークルーズ
コントロール表示灯*
(→P. 198)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 185)



フロントフォグライト
表示灯 (→P. 188)



セキュリティ表示灯
(→P. 115、116)



LKA 表示灯*
(→P. 208)



※ エコドライブ
インジケーターランプ
(→P. 149)



シフトポジション・シフトレンジ表示
(→P. 161)

※作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのとき、または点滅する場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 348)



※作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

▲ 警告

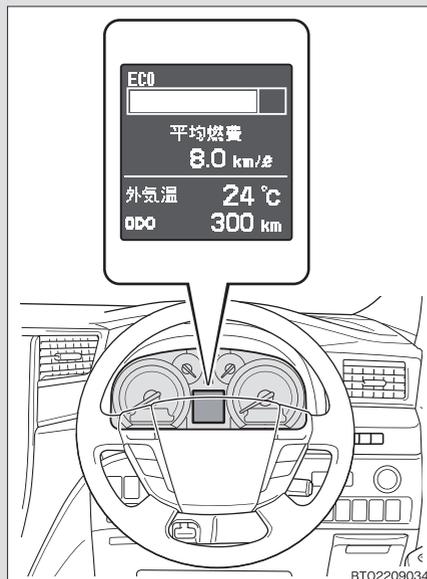
■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

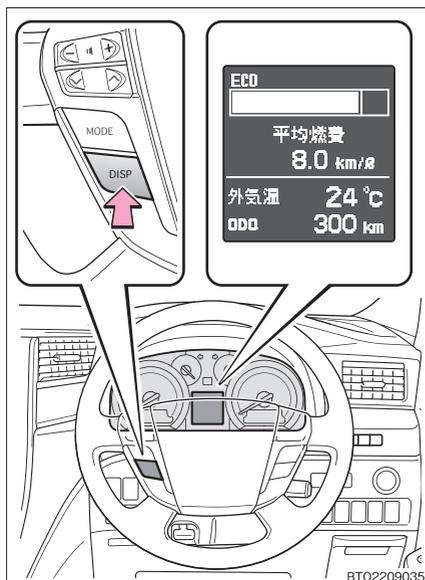
マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。



- トリップインフォメーション (→P. 180)
航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。
- レーダークルーズコントロール表示* (→P. 198)
レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。
- クリアランスソナー表示* (→P. 215)
クリアランスソナー使用時に、障害物を感知すると自動で表示されます。
- レーンキーピングアシスト表示* (→P. 208)
レーンキーピングアシスト使用時に自動で表示されます。
- 警告メッセージ* (→P. 353)
各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示切り替え



表示を切り替えるには、ハンドルにある DISP ボタンを押します。

トリップインフォメーション

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。



(ドット表示式)

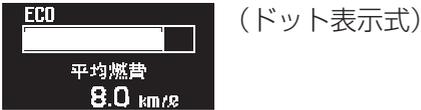


(セグメント表示式)

● 平均燃費・エコゾーン表示

リセットしてからの平均燃費とエコゾーンを表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費・エコゾーン表示中に DISP ボタンを1秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。



● 給油後平均燃費

燃料を補給してからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。



● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。



● 外気温

外気温を表示します。

— 40℃～50℃の間で表示します。



(セグメント表示式)

 知識

■ システムチェック表示*

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため以下の表示になります。チェックが終わると通常の画面表示にもどります。

- ・ VSC システム (FF <前輪駆動>)
- ・ 4WD システムチェック (4WD <4 輪駆動>)

■ 外気温表示について

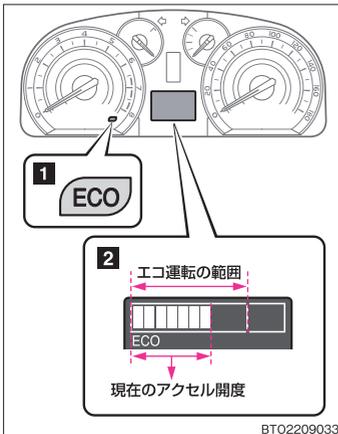
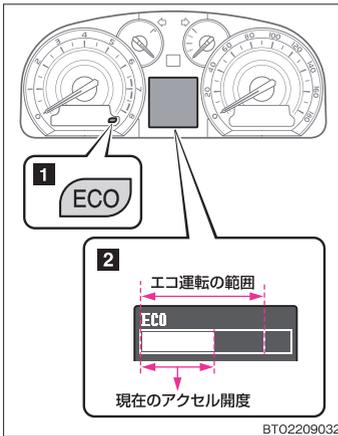
- 外気温の測定が正しく行われなときは「—℃」と表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行 (約 20km/h 以下) のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき (車庫、トンネルの出入り口付近など)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■エコゾーン表示について

環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現在のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケータランプ（**1**）が点灯します。

アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲を超えた場合には、エコゾーン表示（**2**）の右側が点滅し、エコドライブインジケータランプが消灯します。（シフトレバーをDで走行中）



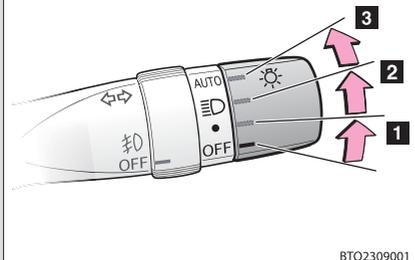
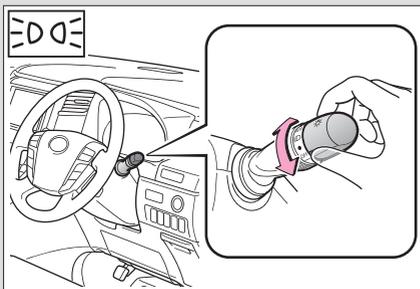
■ バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、以下のデータはリセットされます。

- ・ 平均燃費
- ・ 航続可能距離

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

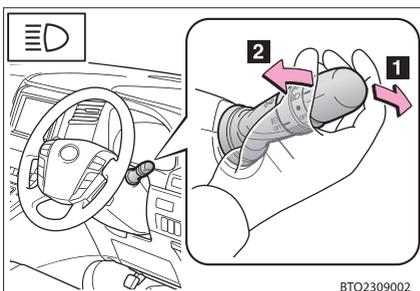


BTO2309001

- 1 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
- 2 上記ライトとヘッドライトを点灯
- 3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯

“エンジン スタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

ハイビームにする



BTO2309002

- 1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

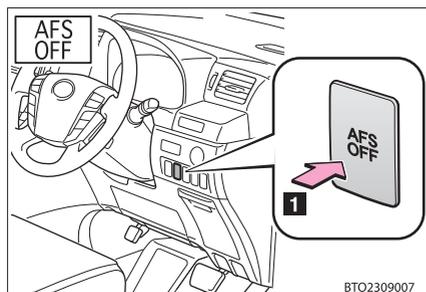
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

AFS (アダプティブフロントライティングシステム) *

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

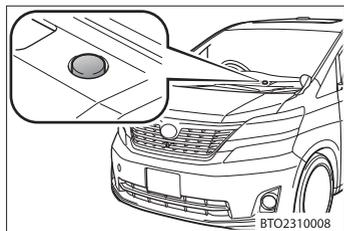
■ AFS を OFF にするには



- 1** スイッチを押して OFF にする
メーター内の AFS OFF 表示灯が点灯します。

知識

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえざられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度

- または  の位置にします。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ライト消し忘れ警告ブザー

ライト消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF のときに働きます。
- ライトスイッチが ● または ≡D の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 400)

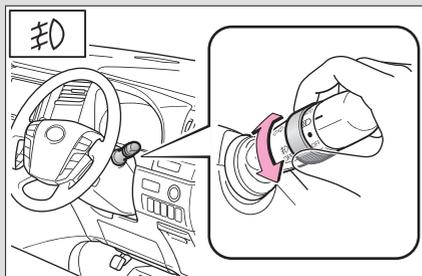
注意

■ バッテリーあがりを防止するために

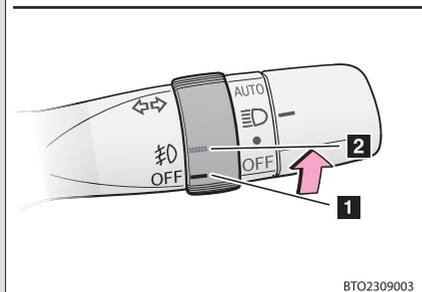
エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フロントフォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。
ライトスイッチ（→P. 185）と同じレバーに装着されます。



- 1 消灯
- 2 フロントフォグライト点灯



知識

■点灯条件

ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

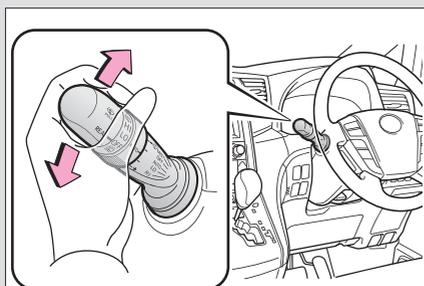
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー（フロント）

▶ 雨滴感知式ワイパー*

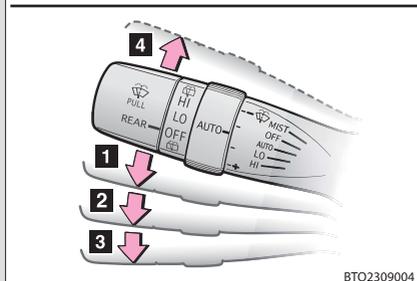
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー*

INT を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。



- 1 雨滴感知式ワイパー：
オート作動（AUTO）
間欠時間調整式ワイパー：
間欠作動（INT）
- 2 低速作動（LO）
- 3 高速作動（HI）
- 4 一時作動（MIST）



- 5 ウォッシャー液を出す
ワイパーが運動して作動します。

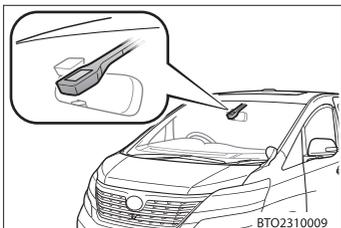
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ 作動条件

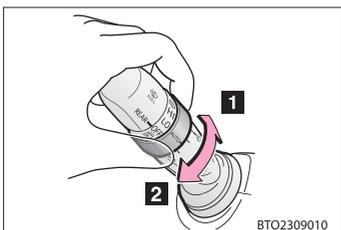
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ AUTO 作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）



- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的に当たるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

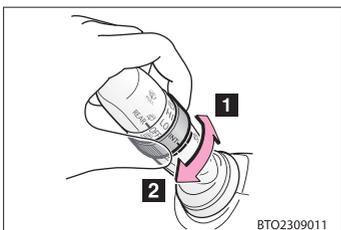


- ツマミを回すとセンサーの感度が調整できます。

- 1 雨滴センサーの感度調整（低）
- 2 雨滴センサーの感度調整（高）

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-10℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ 間欠作動（間欠時間調整式ワイパー装着車）



- 1 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- 2 間欠ワイパーの作動頻度（増）

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

▲ 警告**■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）**

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

▲ 注意**■ 窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

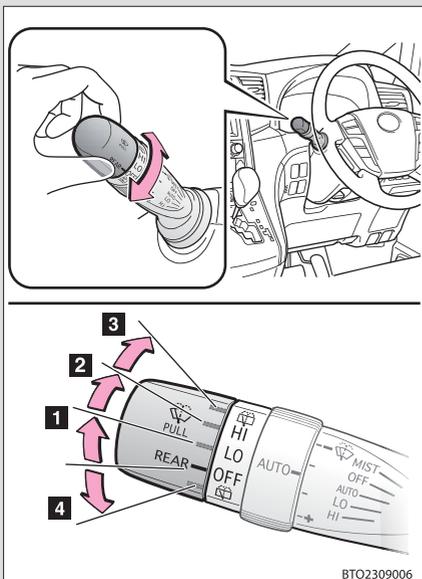
■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー (リヤ)



- 1 間欠作動 (LO)
- 2 通常作動 (HI)
- 3 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- 4 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **注意****■ 窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

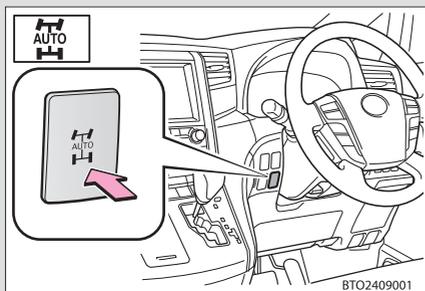
ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

4WD オートモード*

走行の安定性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行と 4WD（4輪駆動）走行を自動的に切り替えます。



4WD オートモードを使用する。

4WD オートモード表示灯が数回点滅後点灯し、4WD オートモードになります。

再度押すと表示灯が消灯し、FF モードになります。

知識

■ 4WD オートモード表示灯について

- 4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。

この場合は、エンジンをかけたまま以下の対応を行ってください。

- ・ 表示灯が点滅しなくなるまで車速を落とす。
- ・ 表示灯が点滅しなくなるまで停車する。（エンジンは停止しない）

- 4WD システムに異常が発生したときには、4WD オートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの位置にかかわらず FF モードとなります。

■ 4WD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めます。

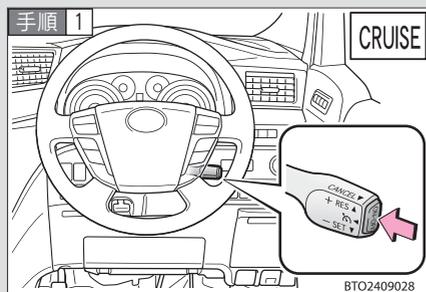
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-4. その他の走行装置の使い方

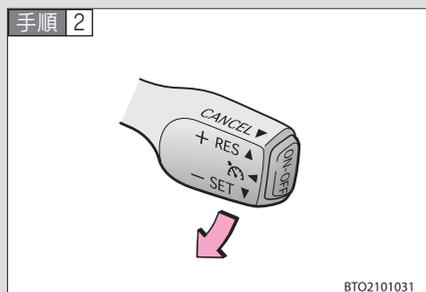
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

■ 速度を設定する



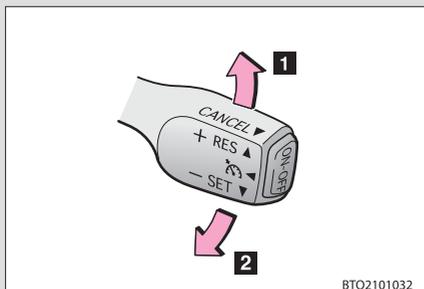
ON-OFFスイッチをONにする
OFFにするには再びON-OFFス
イッチを押します。



希望の速度まで加速／減速し、
レバーを上げて設定する

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変える



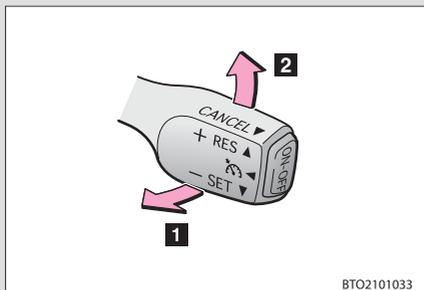
1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1.5km/h ずつ）できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。

□ 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4、5、6 のとき設定できます。（2GR-FE エンジン搭載車）
- シフトレバーが D または M の 4、5、6、7 のとき設定できます。（2AZ-FE エンジン搭載車）
- 車速は約 40km/h から約 100km/h の範囲で設定できます。

■ アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 定速走行の自動解除

走行条件によって以下のようなとき自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以下に低下したとき
- 速度が約 40km/h 以下になったとき
- 車が横すべりして VSC が働いたとき

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

▲ 警告**■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチを OFF にしてください

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

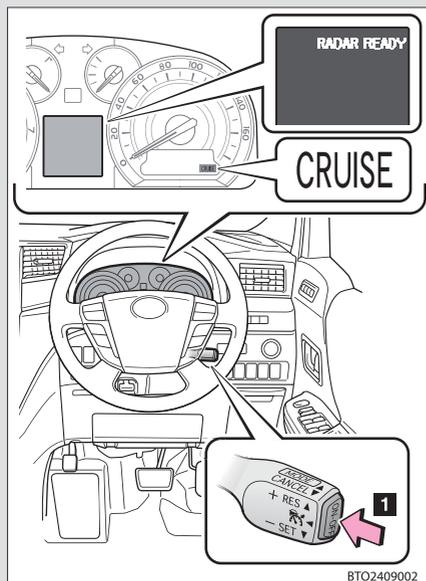
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂

レーダークルーズコントロール *

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の车速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードで一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 制御モードを選択する

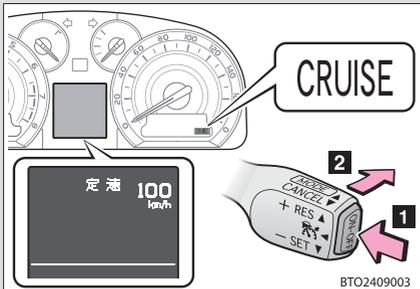


車間制御モードを選択する

1 メインスイッチを ON にする

OFF には再びスイッチを押します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備



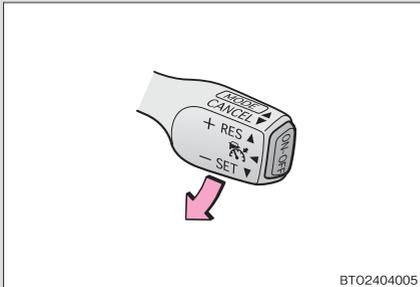
定速制御モードを選択する

- 1 メインスイッチを ON にする
- 2 定速制御モードに切り替え
(約 1 秒間長押し)

OFF には再びスイッチを押します。

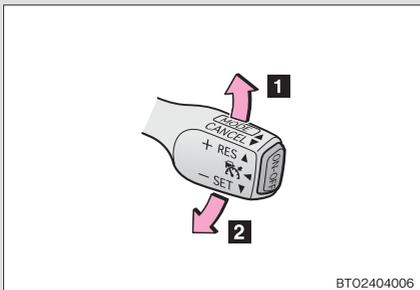
“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

■ 設定速度を変えるには

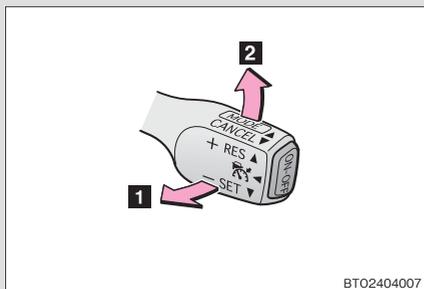


- 1 増速
- 2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

定速制御中にレバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1.5 km/h ずつ）できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



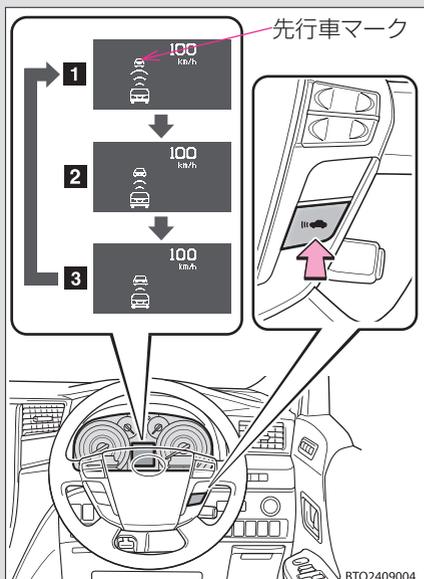
1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切り替える

1 長い

2 中間

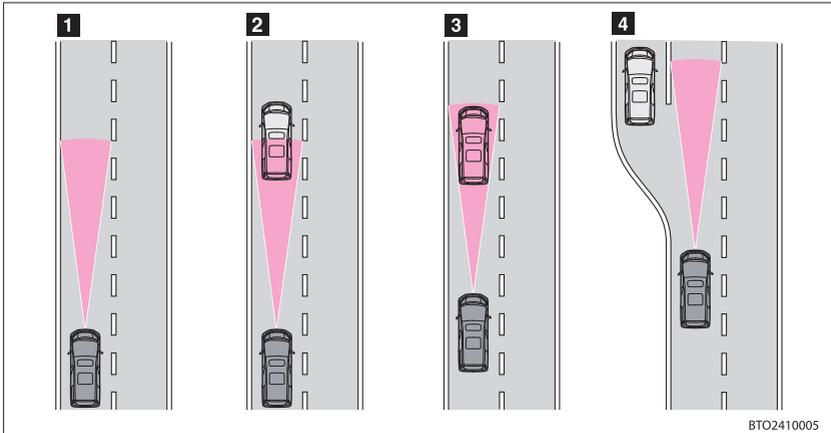
3 短い

“エンジン スタートストップ”スイッチがイグニッションONモードになるたびに**1**に設定されます。

先車がいる場合、先車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。



1 定速走行（先行車がないとき）：

100 km/h に設定した場合

運転者が設定した車速で定速走行します。

2 減速走行（設定した車速より遅い先行車が現れたとき）：

100 km/h で定速走行時に、80 km/h の先行車がいる場合

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報（→P. 202）を鳴らします。

3 追従走行（設定した車速より遅い先行車に追従するとき）：

100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいる場合

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行（セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき）：

100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいなくなった場合

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中に他車の割り込みなどで十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■ レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ、警告ブザーで注意をうながします。(→P. 353)

■ モードの切り替えについて

メインスイッチを ON にしセット操作を行うと、車間制御モードから定速制御モード、また定速制御モードから車間制御モードへの切り替えはできません。システムを OFF にしてから再度操作してください。

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4、5、6 レンジのとき設定できます。
- 車速は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 車間制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

- 車速が約 40 km/h(スイッチを減速側に操作しているときは約 50km/h)以下になった
- VSC が働いた
- レーダーセンサーの汚れが判定された
- ワイパーが高速で作動した

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した
- 車速が約 40 km/h(スイッチを減速側に操作しているときは約 50km/h)以下になった
- VSC が働いた

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 200) (車速 80 km/h で走行している場合)

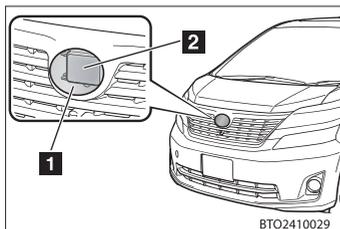
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長	約 50 m
中	約 40 m
短	約 30 m

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



- 1 グリルカバー
- 2 レーダーセンサー

■ 接近警報について

車間距離が短くても以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の车速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常にゆっくりした車のとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりするとおぼえ危険を招くことがあります。

 **警告****■ システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ 誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときはメインスイッチを OFF にしてください。

 **警告**

■ **レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■ **センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 202）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の車両のうしろ部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 **警告****■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルカバーには以下のことをしないでください。

センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 何か貼ったり、取りつける
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白（黄）線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断した場合に、ピピピピ・・・というブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、ハンドルの動きによる体感警報を用いて注意をうながします。

■ 車線維持支援機能

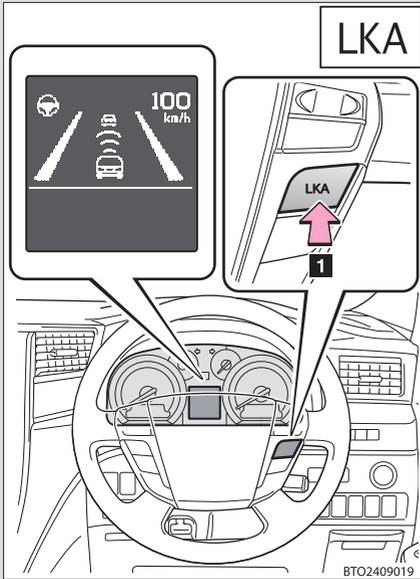
車線の中央付近を走行する際に、小さい力の範囲で操舵力を付加することによりドライバーのハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能作動中は体感警報は作動しません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定のしかた

LKA スイッチを押すと、白（黄）線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）の設定状況に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が作動します。



1 設定

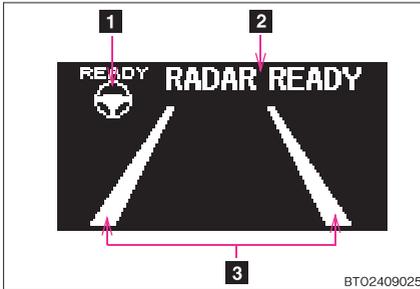
解除するには再度スイッチを押します。

■ 各機能の作動条件

LKA スイッチ 設定	レーダークルーズ コントロールの システム設定	車線逸脱警報機能	車線維持支援機能
		車速が約 50 ~ 120km/h	車速が約 65 ~ 100km/h
ON	OFF	○	×
	ON 設定車速が約 64km/h 以下で 車間制御走行して いるとき	○	×
	ON 設定車速が約 65km/h 以上で 車間制御走行して いるとき	○ (車速約 50 ~ 65km/h、 100km/h ~)	○

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。



BT02409025

1 ハンドル表示

ハンドル表示+READYという表示が出ているとき：車線維持支援機能が開始可能な状態

ハンドル表示のみのとき：車線維持支援機能作動中

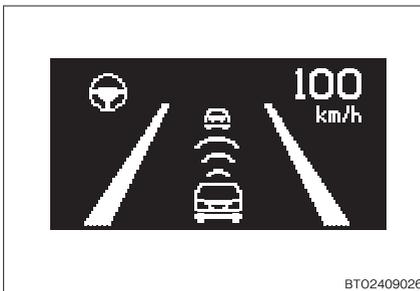
2 レーダークルーズコントロール表示

3 車線表示

線が細いとき：白（黄）線が認識できていないまたは、機能を一時解除している（このときピピッというブザーが鳴ります。）

線が太いとき：車線逸脱警報機能作動中

車線維持支援機能作動中



BT02409026

 知識

■ 機能の一時解除

以下のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。
- 作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- ワイパーが連続で作動したとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
- 車線維持支援機能の作動中に手放し運転警告が作動したとき（ブザーあり）
- 車線逸脱警報機能が作動したとき
車線逸脱警報機能が作動したあとは、数秒間経過するまで機能は再開しません。

■ 手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒手放し運転と判断された場合は、ピピッとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ただし、路面状況により、作動が中断しない場合があります。

■ 炎天下に駐車したとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→P. 214）の温度が適温になると作動開始となるので、一旦 LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■ LKA 作動中について

LKA 作動中にドライバー操舵操作が加えられた場合は、作動を中断しその操作を優先させます。



警告

■ LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。前方不注意を補助するものではないので、常にハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■ 正しく作動させるには

以下の場合に LKA を使用すると、システムが正しく機能しないため、LKA を OFF にして走行してください。なお、手放し運転を行った場合は十分な性能が確保できません。

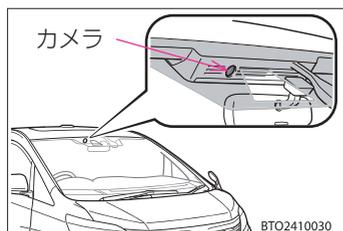
- 白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 雨、雪、霧、逆光などで白（黄）線が見えにくいとき
- ヘッドライトのレンズが汚れていたり、劣化などにより照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設車線を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 反射ポール等の構造物がある場合

⚠ 警告

- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 対向車のヘッドライト光がカメラに入射した場合
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき
- タイヤ、サスペンションの改造など、指定された部品以外を装着した際は、十分な性能を確保できません。

⚠ 注意

■ 白線認識用カメラ



LKA の故障や誤操作を避けるために、以下のことをお守りください。

- フロントガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取りつけを変更したり、取りはずしたりしない
- インナーミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用すると、フロントガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスター（→P. 250）でガラスの曇りを取る
- ダッシュボードの上に物を置かない
フロントガラスに映りこんだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷をつけたりしない
- カメラのレンズ前のフロントガラスにシール等を貼らない

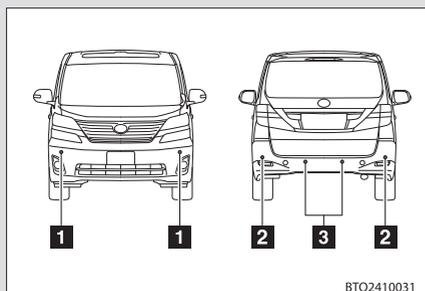
2-4. その他の走行装置の使い方

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内の表示とブザー音で運転者にお知らせします。

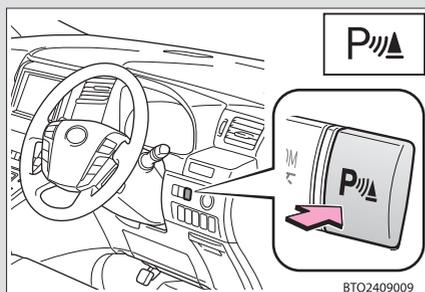
ナビゲーションシステム装着車は、モニター画面でも距離を表示します。

■ センサーの種類



- 1 フロントコーナーセンサー
- 2 リヤコーナーセンサー
- 3 バックセンサー

■ クリアランスソナースイッチ



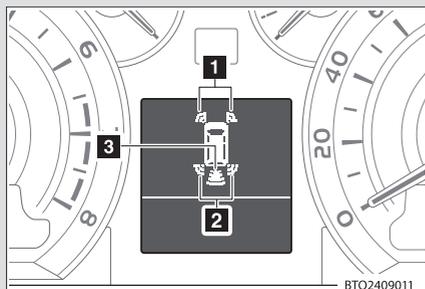
ON / OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーは ON になり、表示灯が点灯します。

OFF には再びスイッチを押します。

■ メーターの表示

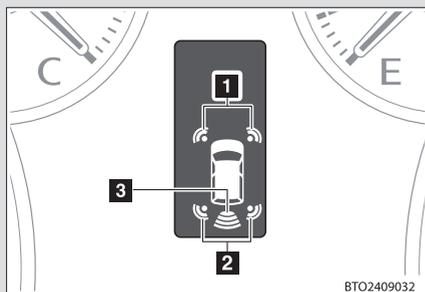
▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車



マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 1 フロントコーナーセンサー作動表示
- 2 リヤコーナーセンサー作動表示
- 3 バックセンサー作動表示

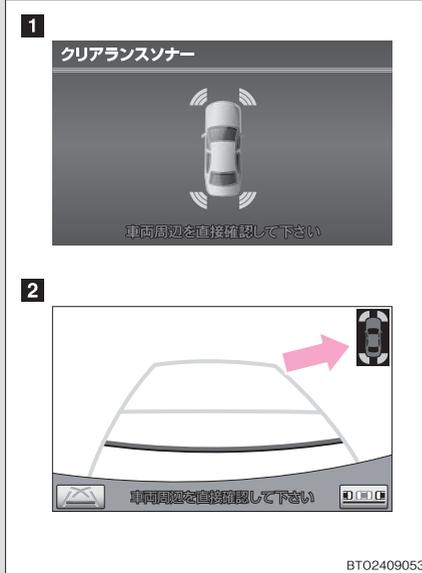
▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車



メーター内に表示されます。

- 1 フロントコーナーセンサー作動表示
- 2 リヤコーナーセンサー作動表示
- 3 バックセンサー作動表示

■ モニター画面の表示（ナビゲーションシステム装着車）



障害物を感知すると自動的に表示されます。

- 1** バックガイドモニター・ワイドビューフロント&サイドモニター非表示時

表示されないように設定することができます。（→P. 222）

- 2** バックガイドモニター・ワイドビューフロント&サイドモニター表示時

画面上に簡略表示されます。
（左の画面はバックガイドモニターの場合です。）

距離表示の見方

■ コーナーセンサー

障害物までの おおよその距離	メーター表示		モニター表示	
	ドット表示式	セグメント 表示式		割り込み表示
約 50 ~ 37.5cm	 (点灯)	 (点灯)	 (点灯)	 (点滅)
約 37.5 ~ 25cm	 (点灯)	 (点灯)	 (点灯)	 (早い点滅)
約 25cm 以下	 (点滅)	 (点滅)	 (点灯)	 (点灯)

■ バックセンサー

障害物までの おおよその距離	メーター表示		モニター表示 (割り込み表示)
	ドット表示式	セグメント 表示式	
約 150 ~ 60cm	 (点灯)	 (点灯)	 (遅い点滅)
約 60 ~ 45cm	 (点灯)	 (点灯)	 (点滅)
約 45 ~ 35cm	 (点灯)	 (点灯)	 (早い点滅)
約 35cm 以下	 (点滅)	 (点滅)	 (点灯)

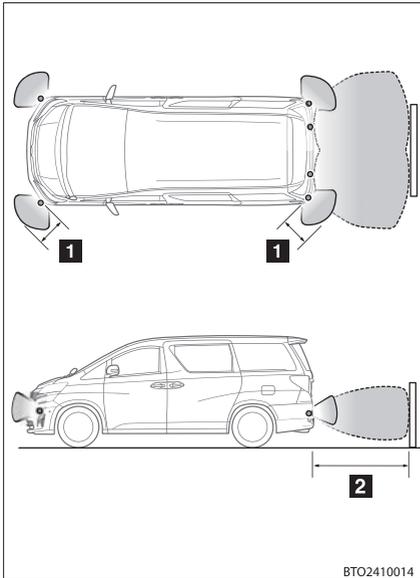
音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 障害物との距離が近づくと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントコーナーセンサーまたはリヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 25cm 以下
 - ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
ただし、感知した障害物のどちらかが上記の距離より近づくと、ブザーは断続音「ピピピピピピ」と連続音「ピー」を繰り返します。また、両方が上記の距離より近づくと、ブザーは断続音「ピピ」と連続音「ピー」を繰り返します。
- ブザーの音量と鳴るタイミングは、変更することができます。(→P. 221)

障害物を感知できる範囲



1 約 50cm (約 0.5m)

2 約 150cm (約 1.5m)

感知できる範囲は左図のとおりです。
ただし、障害物がセンサーに近づきすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

2

運転サポート

音声案内・モニター画面表示・ブザーの設定 (ナビゲーションシステム装着車)

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

手順 1 画面外の **設定・編集** を押す

手順 2 画面内の **運転支援** にタッチする

手順 3 画面内の **クリアランスソナー設定** にタッチする

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF

画面内の **ソナー表示なし** にタッチする

- タッチするごとに、「表示される」と「表示されない」が切り替わります。
- 「表示されない」にすると、タッチスイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の **切り替え** にタッチする

- タッチするごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切り替わります。

バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー・バックセンサー：
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

■ センサーについて

- 以下のときクリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
 - ・ センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
 - ・ センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
とくに低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
 - ・ センサーを手などで覆ったとき
 - ・ 炎天下や寒冷時
 - ・ 凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
 - ・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近づいたとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
 - ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
 - ・ 市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車につけたとき
 - ・ けん引フックを取りつけたとき
 - ・ 標識などの物体によっては感知距離が短くなります
 - ・ バンパー真下付近は感知しません
センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
 - ・ ソナーに障害物が近づきすぎたとき
 - ・ バンパーやセンサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
 - ・ トヨタ純正品以外のサスペンションを取りつけたとき
- 障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

■ センサーについて

- 正確に感知できないことがある障害物

以下のような物は感知しないことがあります。注意して運転してください。

- ・ 針金、フェンス、ロープなどの細いもの
- ・ 綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
- ・ 鋭角的なもの
- ・ 背の低いもの
- ・ 背が高く上部が張り出しているもの

■ クリアランスソナーに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる画面が表示されません。(→P. 353)

警告

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が 10km/h を超えないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリ用品などを取りつけないでください

注意

■ 洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（Steering-assisted Vehicle Stability Control）

ABS、TRC、VSC と EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール*

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。
→P. 230

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

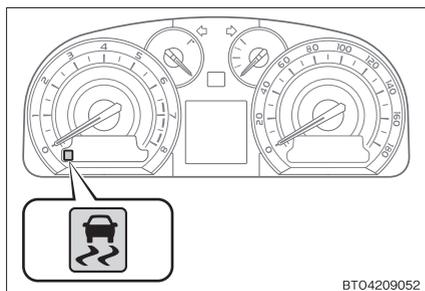
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 232

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



車両が横すべりしそうになったとき、前輪が空転したとき、ヒルスタートアシストコントロールを作動させ坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

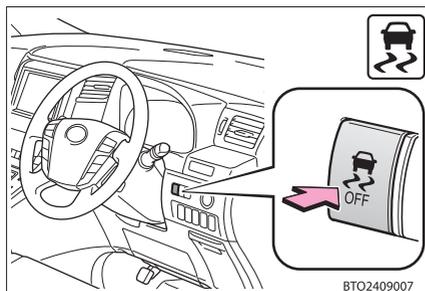
VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。

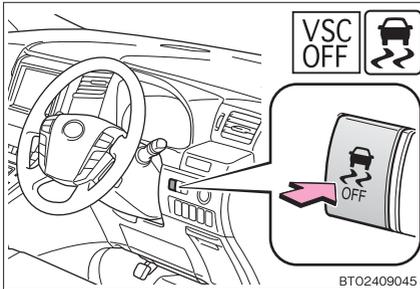
■ TRC を停止するには



TRC を停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには



TRC と VSC を停止するには停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

スリップ表示灯が点灯します。

- ・同時に VSC OFF 表示が表示されま
す。(ドット表示式マルチインフォ
メーションディスプレイ装着車)
- ・同時に VSC OFF 表示灯が点灯しま
す。(セグメント表示式マルチイン
フォメーションディスプレイ装着
車)

もう一度スイッチを押すと、システム
作動状態にもどります。

知識

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止したあと、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動復帰状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

 **警告****■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 398）

異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

ヒルスタートアシストコントロール*

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。
- ブレーキペダルを踏み込んでスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。(車両が後退しない程度) その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。それでも作動しないときは以下の作動条件を確認してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- 以下の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
 - ・ シフトレバーが P 以外の位置のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっていないとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- マルチインフォメーションディスプレイ*にVSCシステムチェックが表示されているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。
- スリップ表示灯が点灯し、VSC OFF 表示灯*が点滅しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

- ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが1回鳴ります。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動中に以下の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。
 - ・ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき
 - ・シフトレバーをPの位置にしたとき
 - ・パーキングブレーキをかけたとき
 - ・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

衝突を予知して、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与するためのシステムです。ドライバーのブレーキ操作に連動して作動する方式（ブレーキ連動方式）と、レーダーセンサーにより、前方の障害物との衝突を予知する方式（レーダー方式）の2つの方法があります。

■ ブレーキ連動方式

ドライバーのブレーキペダルの踏み込み速度や量から、ブレーキ操作が緊急だと判断されたとき、シートベルトをすばやく引きもどし、プリテンショナー（→P. 92）の効果を高めます。また、車が横すべりしたときも同様に作動します。

■ レーダー方式

● プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 92）

● プリクラッシュブレーキアシスト

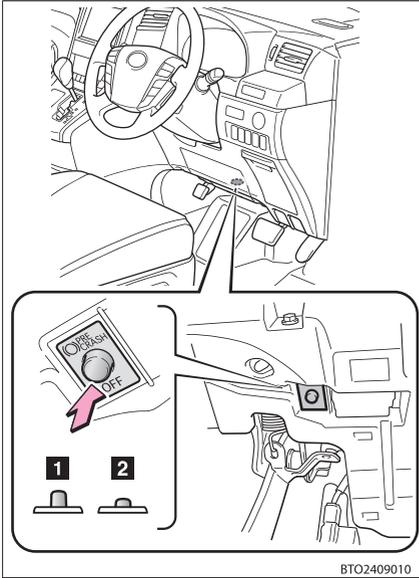
衝突の可能性があると判断したときにブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

● プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性があると判断したときに警告灯、警告表示、ブザー音で警告を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキをかけて、衝突速度の低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキを OFF にすることができます。（→P. 233）

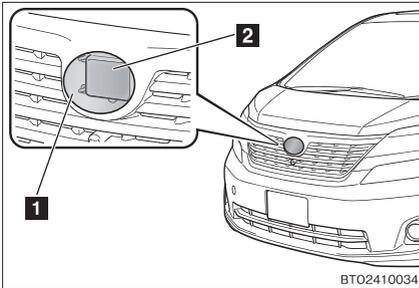
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切り替え



- 1 プリクラッシュブレーキ ON
 - 2 プリクラッシュブレーキ OFF
- OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

プリクラッシュセンサー（レーダー方式のみ）



レーダーセンサーにより、走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突する可能性を事前に判断します。

- 1 グリルカバー
- 2 レーダーセンサー

知識

■ センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（ブレーキ連動方式）：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（レーダー方式）：

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車からみた対向車が障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストへの作動条件（レーダー方式のみ）：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車からみた先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキへの作動条件（レーダー方式のみ）：

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
- ・ 自車からみた先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面状態の場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況
- 車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき（レーダー方式のみ）

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれ違ったとき
- 細い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれ違ったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強かかたりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて（レーダー方式のみ）

レーダーセンサーやフロントグリルのカバーの前後面が雪や氷などで汚れた場合、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「PCS 現在使用できません」と表示されます。雪や氷などの汚れを取りのぞき、走行すると警告灯は消灯します。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯、点滅または表示されます。（→P. 349、354）

 **警告**

■ **安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■ **システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

● **運転者が見る過程での支援内容**

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● **運転者が判断する過程での支援内容**

プリクラッシュセーフティシステムは、検知する前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● **運転者が操作する過程での支援内容**

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 **警告****■ レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない。
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

■ プリクラッシュセーフティシステムの限界

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。運転するときには常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

 **警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（→P. 398）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取りつけ・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

- ・ 安全に作業できる場所で行う
- ・ 前2輪に取りつける
- ・ タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう
- ・ 取りつけ後 0.5 ~ 1.0km 走行したら締めなおしを行う

 **警告**

■ **冬用タイヤ装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■ **タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ **駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

必ずヴェルファイア指定のトヨタ純正合金鋼チェーンスペシャルを使用してください。

上記のチェーン以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまざまなおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

また、235/50R18 タイヤ装着車には、タイヤチェーンを使用することはできません。

■ フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォグガーの 使い方

フロントエアコン	246
リヤエアコン	255
リヤウインドウデフォグガー (曇り取り)	258
フロントワイパー デアイサー	259

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	260
-------------	-----

3-3. 収納装備の使い方

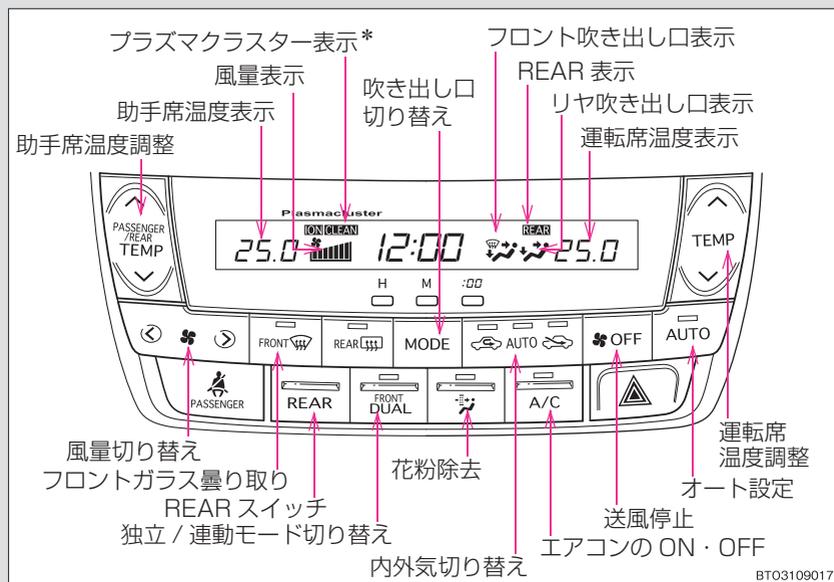
収納装備一覧	265
--------------	-----

3-4. その他の室内装備の 使い方

サンバイザー	277
バニティミラー	278
時計	279
コンビニック	280
アシストグリップ	281
コートフック	282
アクセサリーソケット	283
アクセサリーコンセント	284
センターテーブル	287
センターアームレスト	288
シートヒーター	289
フロアマット	291
ラゲージルーム内装備	292
ステアリングスイッチ	294

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方 フロントエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1  を押す

吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 設定温度を上げるときは  の△を、下げるときは▽を押す

手順 3  を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1  を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2  を押す

手順 3 運転席側は 、助手席側は  を押し、温度を調整する

再び  を押すと、連動モードになります。

手順 4  を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

 を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は 、助手席側は  を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の  を押すと独立モードに切り替わります。

■ 風量をかえるには

 の > (増) か < (減) を押す

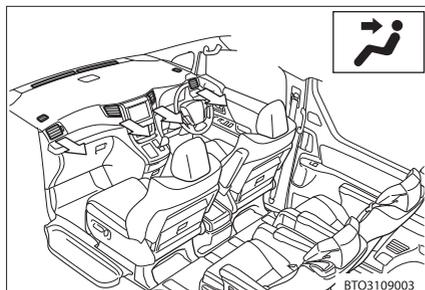
風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは  を押す

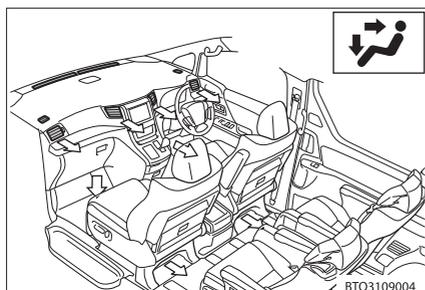
■ 吹き出し口を切り替えるには

MODE を押す

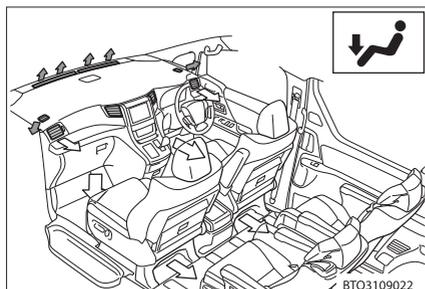
押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。



上半身に送風

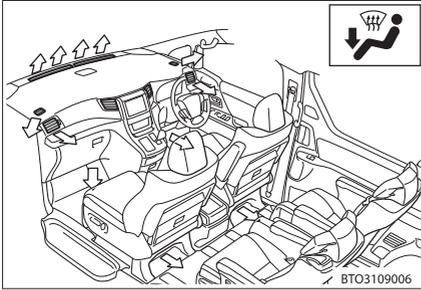


上半身と足元に送風



足元に送風

← : AUTO モードのとき



足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

▶ AUTO 内外気切り替え装着車

 を押しごとに次のように切り替わります。

外気導入モード → 内気循環モード → AUTO モード

フロントエアコンが作動しているときに AUTO モードにすると、車両外気（排気ガスなど）の状態などにより、外気導入と内気循環を自動で切り替えます。

▶ AUTO 内外気切り替え非装着車

 を押し

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。

前席からリヤエアコンを操作するには

 を押し

表示部に **REAR** が表示され、前席からリヤエアコンが操作できます。

■ 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは  の△を、下げるときは▽を押す

■ 風量をかえるには

 の > (増) か < (減) を押す

風量は 7 段階に調整できます。

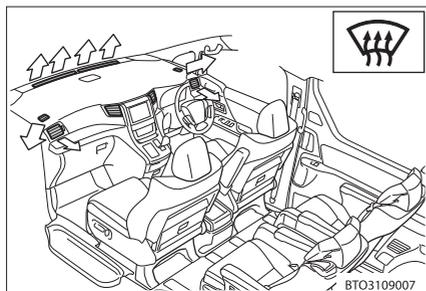
送風を停止するときは、 を押します。

■ 吹き出し口を切り替えるには

 を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。(→P. 256)

フロントガラスの曇りを取るには



 を押す

エアコンが作動します。

花粉除去機能を使うには

 を押す

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約3分後に(外

気温が低いときは 約1分後に)  を押す前のモードにもどります。

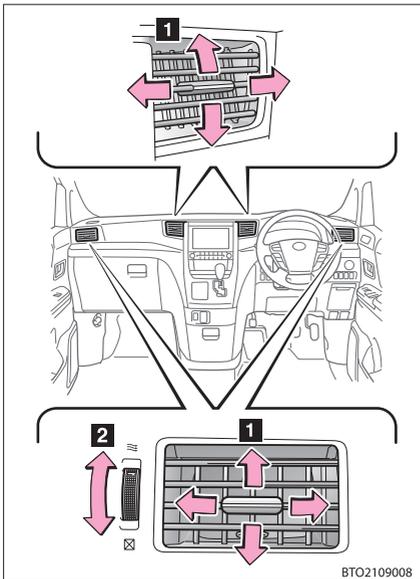
途中で動作を止めるときは、再度  を押すと前のモードにもどります。

プラズマクラスター[®]を使うには*

 を押してファンを作動させる

ファンが作動すると、自動的にプラズマクラスターが作動します。
モードの切り替えは自動で行われます。プラズマクラスター[®] イオンのときは
CLEAN、マイナスイオンモードのときは ION の表示が表示されます。

風向き調整と吹き出し口の開閉



- 1** 風向きの調整
- 2** 吹き出し口の開閉

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。

-  を押した直後しばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■ 外気温度が0℃以下のとき



を押してもエアコンは作動しない場合があります。

■ フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■ AUTO 内外気切り替えのセンサー感度調整

内外気切り替えの AUTO は、センサーにより外気導入と内気循環を自動で切り替えます。センサーの感度は調整できます。

手順 1  を AUTO の表示灯が点滅するまで長押しします。

手順 2  を押して感度を調整します。

スイッチ	V			^			
表示	-3	-2	-1	0	1	2	3
感度	低い			高い			

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

- 内気循環に切り替わらない
- エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードがOFFのときも花粉はエアコンフィルターで取り除かれています。

■プラズマクラスター[®]について（プラズマクラスター装着車）

- 運転席側吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster は シャープ株式会社の商標です。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■リヤエアコンの操作について



を押して約 10 秒間操作を行わないと、フロントエアコン操作にもどります。

 **警告**

■ **フロントガラスの曇りを防止するために**

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ **プラズマクラスター[®] について（プラズマクラスター装着車）**

- プラズマクラスター[®] は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 運転席側吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

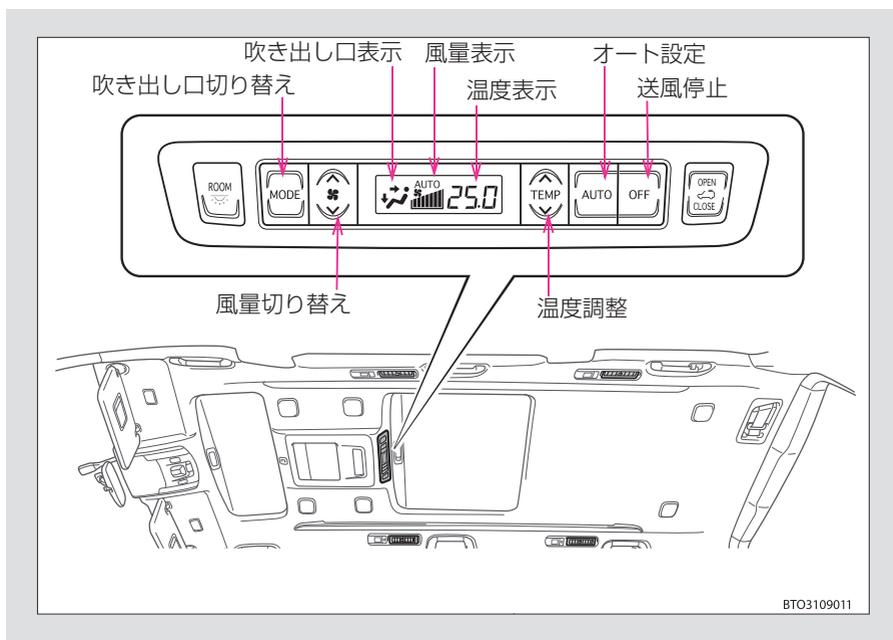
 **注意**

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

リヤエアコン



オート設定を使うとき

手順 1



を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2

設定温度を上げるときは



の△を、下げるときは▽を押す

お好みの設定で使うとき

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは  を△を、下げるときは▽を押す

■ 風量をかえるには

 の△（増）か▽（減）を押す

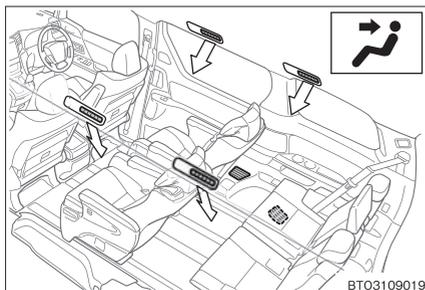
風量は7段階に調整できます。

送風を停止するとき、 を押します。

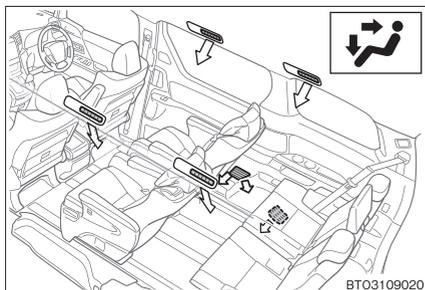
■ 吹き出し口を切り替えるには

 を押す

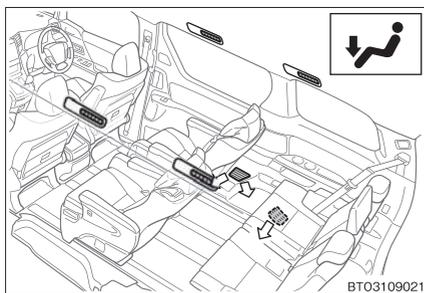
押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。



上半身に送風

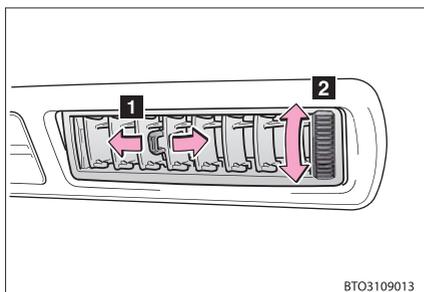


上半身と足元に送風



足元に送風

風向きの調整と吹き出し口の開閉



1 風向きの調整と吹き出し口の開閉

2 風向きの調整

知識

■ オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

-  を押した直後しばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る
- フロントエアコンが停止しているときは、暖房と送風の制御のみとなります。

⚠ 注意

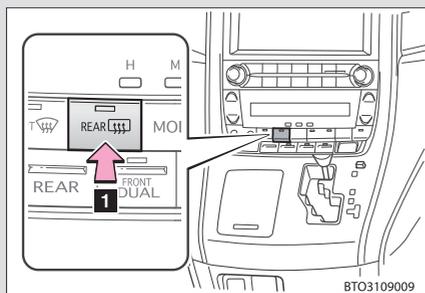
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

3-1. エアコン・デフォグラーの使い方

リヤウインドウデフォグラー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。



1 オン／オフ

押すごとにオン／オフに切り替わり、作動中はインジケーターが点灯します。

リヤウインドウデフォグラーとミラーヒーターは自動的にオフになります。

作動時間は外気温度や車速によって変わります。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ミラーヒーターについて

ミラーヒーター装着車は、リヤウインドウデフォグラーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

注意

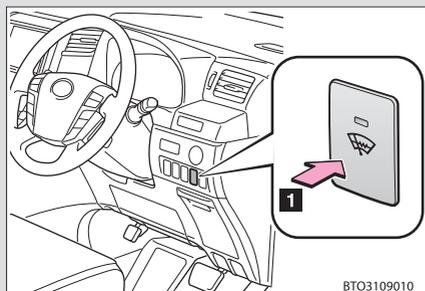
■ バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

フロントワイパーデアイサー*

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。



1 オン/オフ

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

⚠ 警告

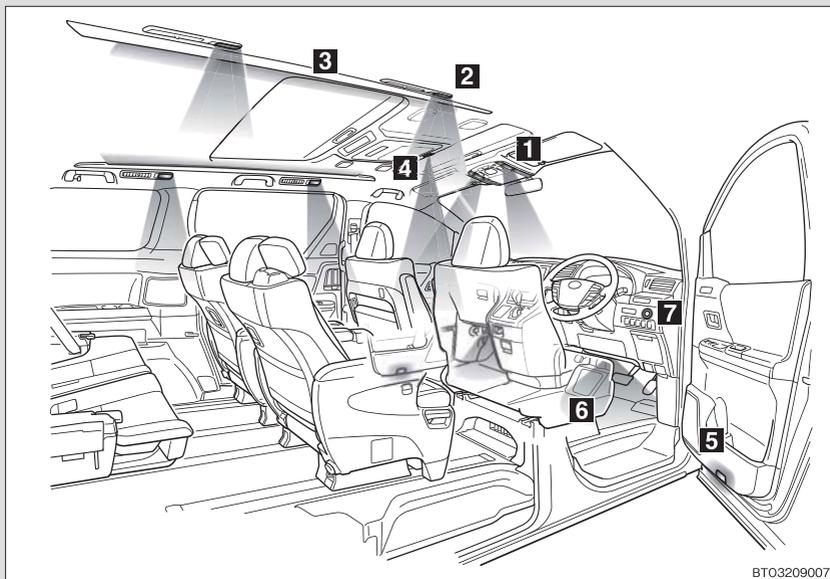
■ 作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

3-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧



BT03209007

- 1 マップライト (→P. 262)
- 2 リヤルームライト (→P. 263)
- 3 天井イルミ (→P. 264)
- 4 ダウンライト
- 5 ドアカーテシライト*
- 6 フロント足元照明*
- 7 “エンジン スタート ストップ” スイッチ照明

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でマップライトのメインスイッチがドア連動のときに、各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 販売店で設定可能な機能

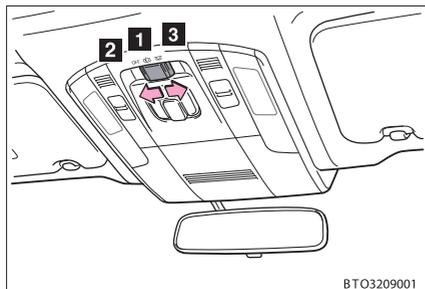
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 400)

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、“エンジン スタート ストップ” スイッチにより、各部照明が自動的に点灯、消灯します。

マップライト

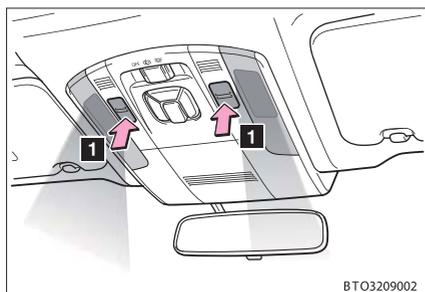
▶ メインスイッチ



BTO3209001

- 1 ドア連動
- 2 消灯
- 3 点灯

▶ スポットライトスイッチ



BTO3209002

- 1 点灯 / 消灯

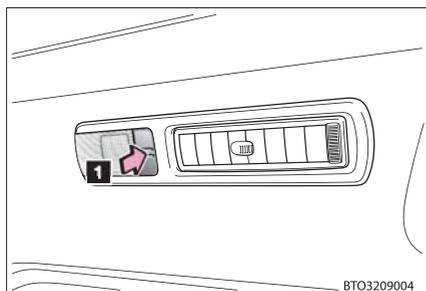
知識

■ マップライトについて

メインスイッチがドア連動のとき、イルミネーテッドエントリーシステムにより自動的に点灯、消灯します。

リヤルームライト

リヤルームライト

**1** 点灯 / 消灯 知識

■ セカンドシート側のリヤルームライトについて

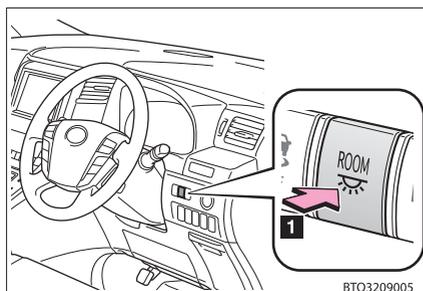
マップライトのメインスイッチがドア連動のとき、イルミネーテッドエントリーシステムにより自動的に点灯、消灯します。

3

室内
装
備
の
使
い
方

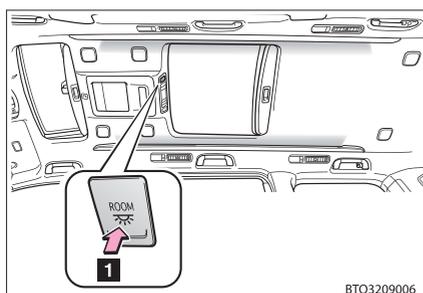
天井イルミ

▶ フロントスイッチ



1 点灯 / 消灯

▶ リヤスイッチ



1 点灯 / 消灯

押すたびに明るさを 4 段階に切り替えることができます。

 知識

■ 天井イルミについて

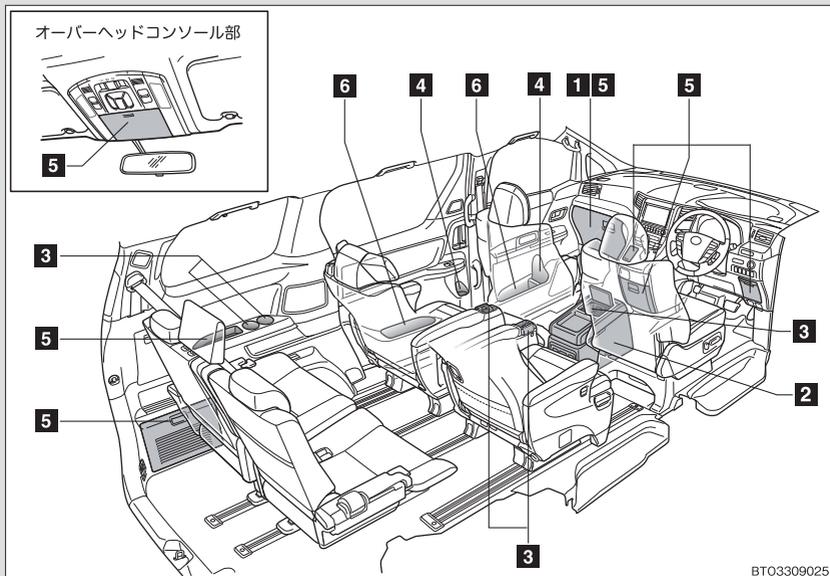
イルミネーテッドエントリーシステムにより自動的に点灯、消灯します。

 注意

■ 天井イルミについて

天井と天井イルミのすき間（発光部分）にものを引っかけたり、強く引っ張ったりしないでください。破損するおそれがあります。

収納装備一覧



- 1 グローブボックス
- 2 コンソールボックス
- 3 カップホルダー
- 4 ボトルホルダー
- 5 小物入れ*
- 6 ドアポケット

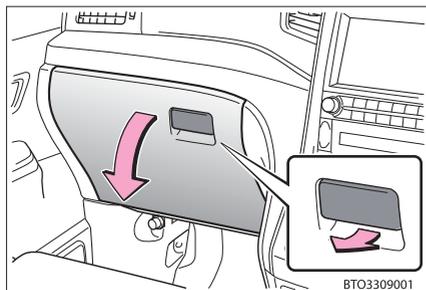
⚠ 警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

グローブボックス

レバーを引き、開ける

知識**■グローブボックスライトについて**

車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとライトが点灯します。

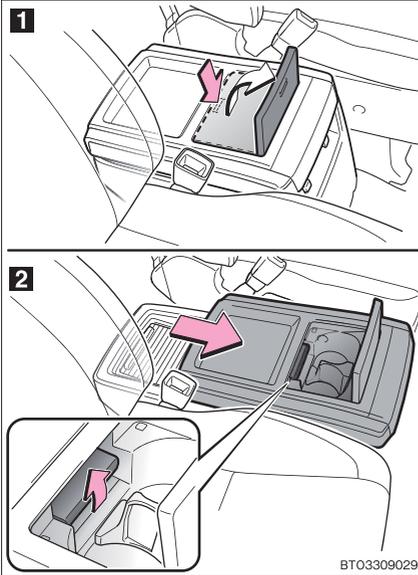
警告**■走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

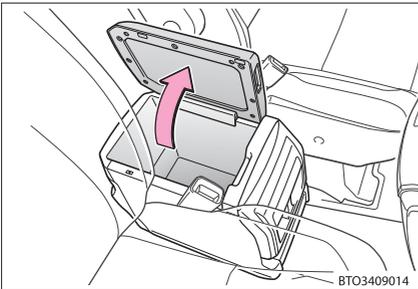
コンソールボックス

▶ スライド式コンソールボックス



- 1 カップホルダーのフタを押し
開ける
- 2 中のレバーを引きスライドさせ
る

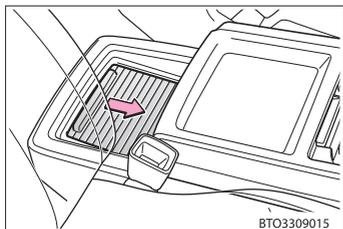
▶ 回転式コンソールボックス



フタを持ち上げる

知識

■ スライド式コンソールボックスの下段トレイについて



トレイ部分をスライドさせることもできます。

警告

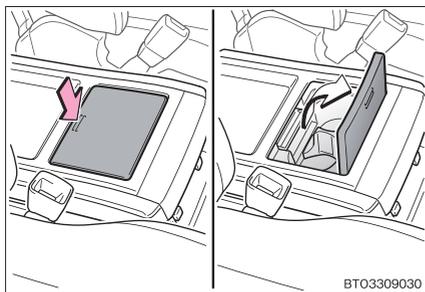
■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

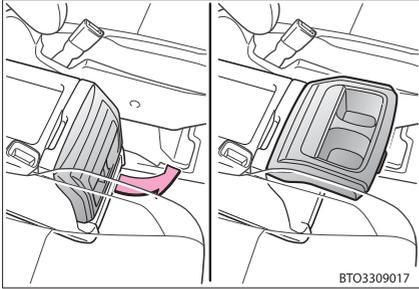
▶ フロント（スライド式コンソールボックス）



フタを押して開ける

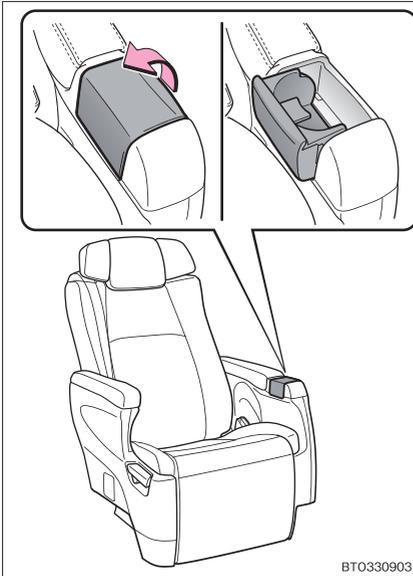
カップホルダー

▶ フロント（回転式コンソールボックス）



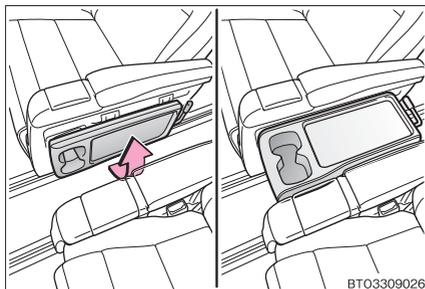
カップホルダーを回転させる
格納方法（→P. 271）

▶ セカンドシート（7人乗りセカンドシートパワーシート）



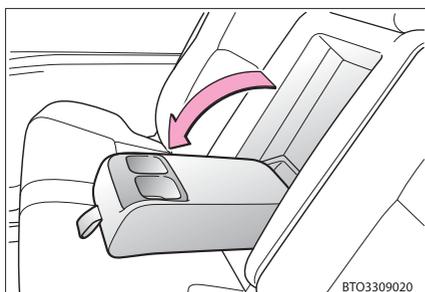
カップホルダーを回転させる

▶ セカンドシート（7人乗り車）



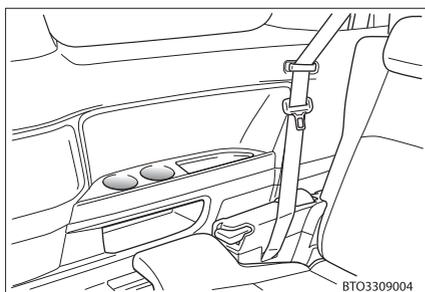
センターテーブルを引き起こす

▶ セカンドシート（8人乗り車）



センターアームレストを引き出す

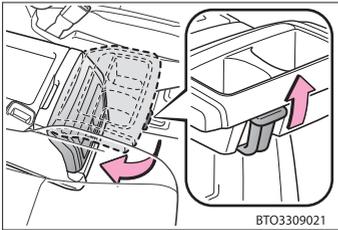
▶ サードシート



カップホルダー

知識

■ フロントカップホルダー（回転式コンソールボックス）について



格納するときは、カップホルダー下部のレバーを引きながら下に回転させます。

警告

■ 収納してはいけない物

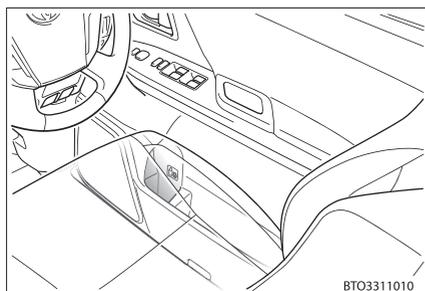
カップホルダーにはカップや飲料缶以外のものを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをすることがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしておいてください。

■ 使わないときは

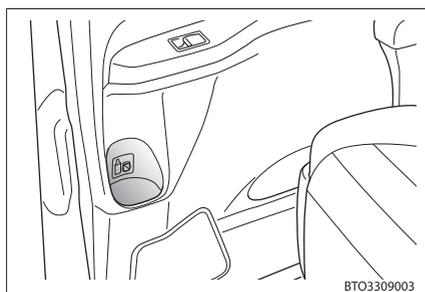
カップホルダーのフタを閉めておいてください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、開いたカップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをすることがあり危険です。

ボトルホルダー

▶ フロントドア



▶ スライドドア

 **知識**

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

 **注意**

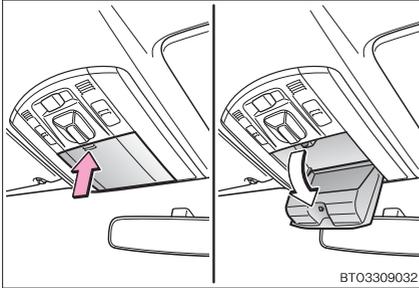
■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

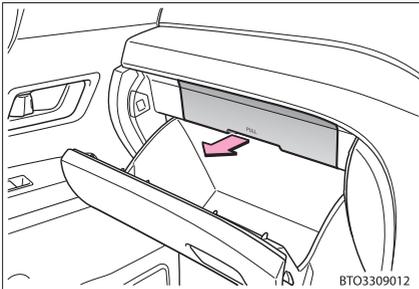
小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール*



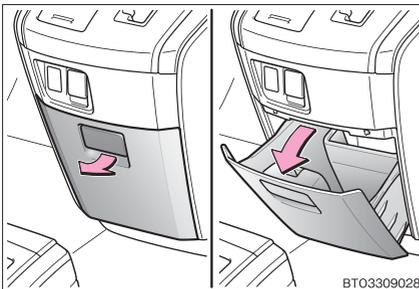
押して開ける

▶ シークレットボックス



グローブボックスを開け、手前に引き出す

▶ センターロアボックス



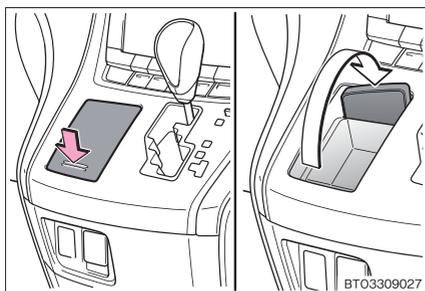
レバーを引いて開ける

3

室内装備の使い方

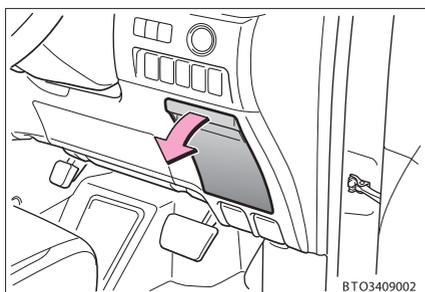
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ センターアッパーボックス



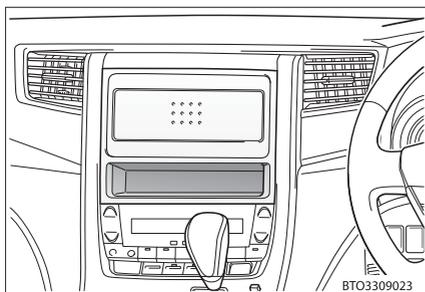
フタを押して開ける

▶ 運転席ロアボックス



手前に引いて開ける

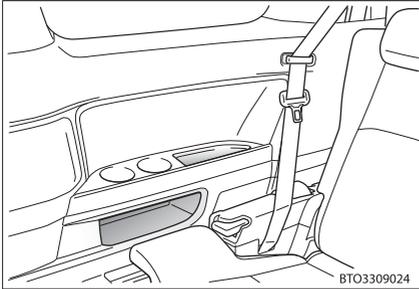
▶ センタートレイ*



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

小物入れ

▶ サードシートトレイ、ポケット


 知識

■ 運転席ロアボックスについて

運転席ロアボックスの中に ETC ユニット*、またはカードホルダー*が装着されています。

 警告

■ 走行中の警告

小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

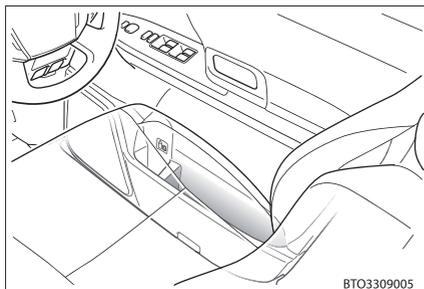
■ 収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

200 g 以上のものを入れないでください。200 g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

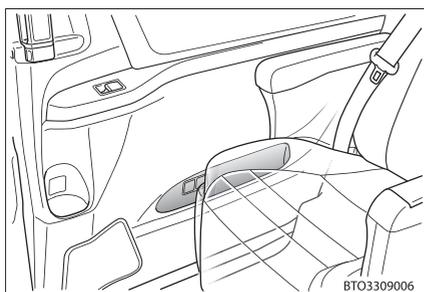
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアポケット

▶ フロントドア

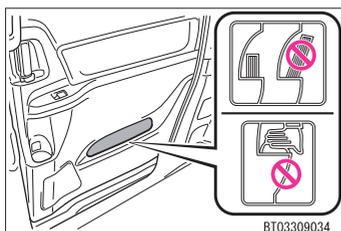


▶ スライドドア



⚠ 注意

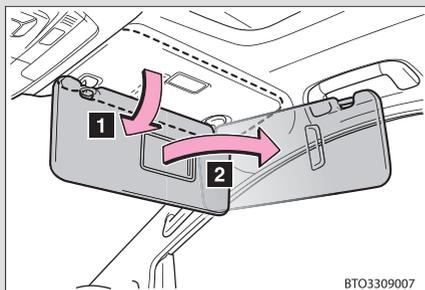
■ スライドドアポケットに収納するときは



スライドドアのドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりでなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷がついたり、故障につながるおそれがあります。

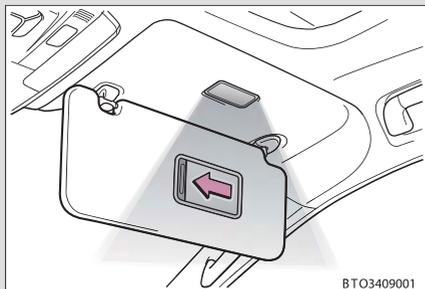
3-4. その他の室内装備の使い方

サンバイザー



- 1 おろす
- 2 おろした状態でフックからはずし、横へ回す

バニティミラー



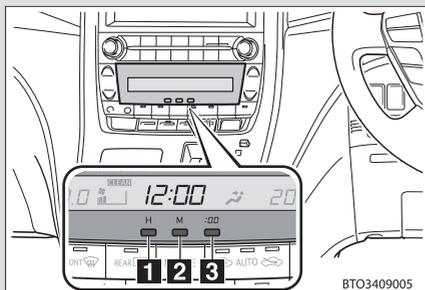
カバーを開けるとライトが点灯します。

 知識

■ 使用条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

時計



- 1 “時”を調整する (H)
- 2 “分”を調整する (M)
- 3 “分”を00にする※ (:00)

※ (例) 1:00 ~ 1:29→1:00
1:30 ~ 1:59→2:00

知識

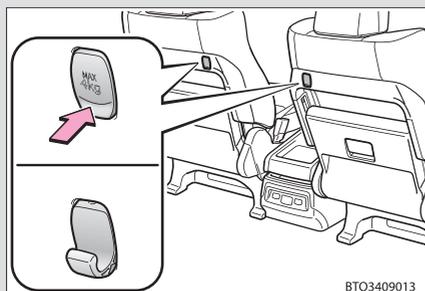
■時刻が表示されるとき

“エンジン スタートストップ”スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

3-4. その他の室内装備の使い方

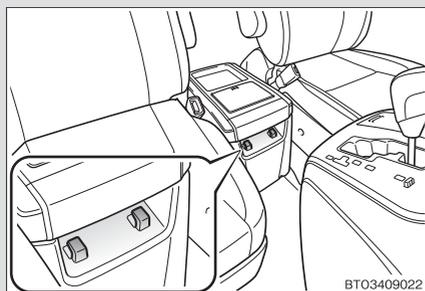
コンビニフック

▶ フロントシートうしろ側



フックを引き起こします

▶ スライド式コンソールボックス前側*



⚠ 警告

■ 使用しないときは

格納しておいてください。
指を挟むなどして、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

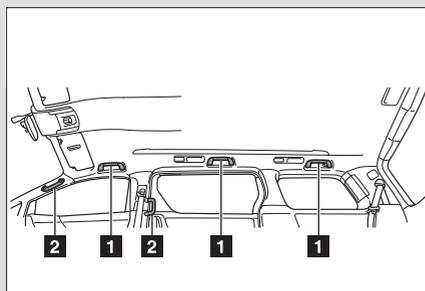
4kg 以上のものや大きいものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

アシストグリップ

天井に取りつけられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、ピラーに取りつけられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。



1 アシストグリップ（回転式）

2 アシストグリップ（固定式）

⚠ 警告

■ アシストグリップ（回転式）について

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

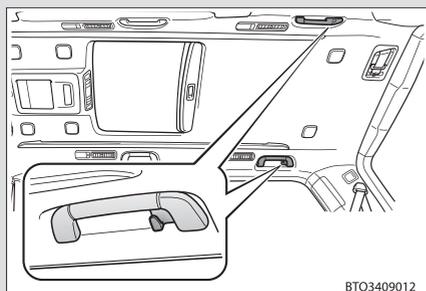
⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

リヤのアシストグリップにはコートフックがついています。



⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

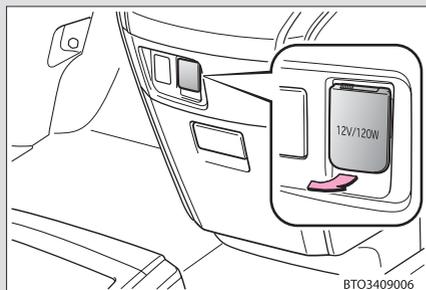
■ 破損を防ぐために

コートフックに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

3-4. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



フタを手前に引いて開ける

知識

■使用条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A を超えないようにしてください。

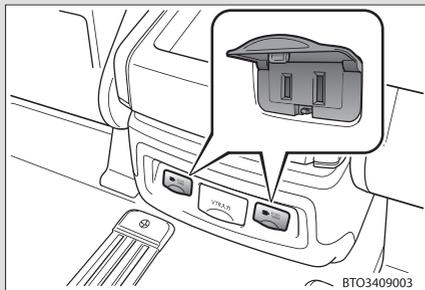
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

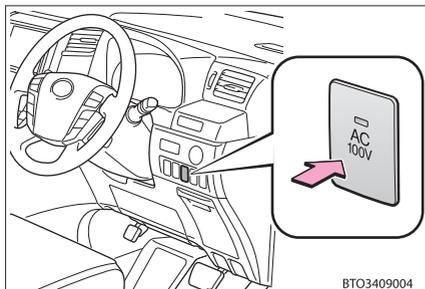
3-4. その他の室内装備の使い方

アクセサリーコンセント*

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



メインスイッチ



メインスイッチを ON にする。
ON にすると作動表示灯が点灯します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 使用条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ アクセサリーコンセントについて

- AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使用してください。
最大消費電力が 100W を超える電気製品を使用すると、保護回路が働き、使用できなくなります。この場合、コンセントをはずして消費電力が 100W 以下になれば使用することができます。
- 消費電力が 100W 以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。
 - ・ 起動時の消費電力が大きい機器（ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など）。
 - ・ 電源周波数(50 / 60Hz)の切り替えのある機器(時計、オーディオなど)。
 - ・ 精密なデータを計測する機器（医療機器、計量器など）。
 - ・ その他（マイコン制御式電気毛布、タッチセンサー付ライトなど）
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧を測定できません。
- メインスイッチを ON にしたままにしておくと、アイドル回転が下がらず、燃費の悪化につながることがあります。

 **注意**

■ **ショートや故障を防ぐために**

コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ **ヒューズが切れるのを防ぐために**

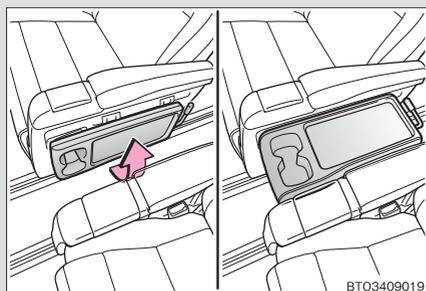
AC100V で最大消費電力 100W をこえないようにしてください。

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンを停止した状態でアクセサリコンセントを長時間使用しないでください。

センターテーブル

▶ 7人乗り車セカンドシート

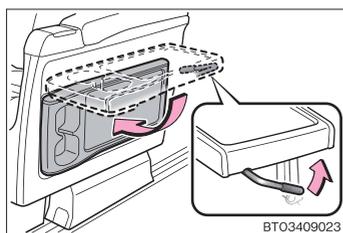


引き上げて使用します。

知識

■ センターテーブルについて

- セカンドシートの左右位置が外側にあるときに使用できます。(マニュアルシート装着車)



- もとにもどすときは、テーブル下部のレバーを引いておろします。

注意

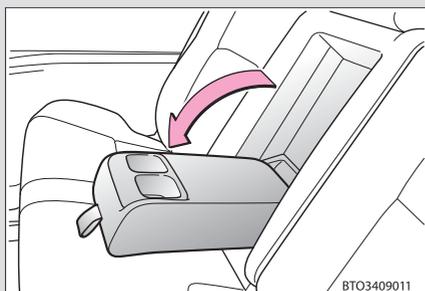
■ シートテーブルの破損を防ぐために

テーブルの上に乗ったり、重いものを置かないでください。

3-4. その他の室内装備の使い方

センターアームレスト

▶ 8人乗り車セカンドシート



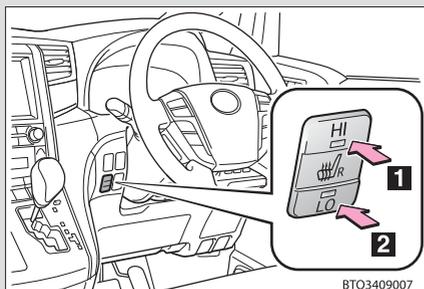
引き出して使用します。

注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

シートヒーター*

▶ 運転席用スイッチ

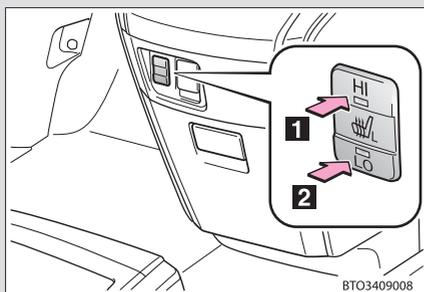


1 HI (強)

2 LO (弱)

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。

▶ 助手席用スイッチ



1 HI (強)

2 LO (弱)

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。

知識

■ 使用条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ シートヒーターについて

- HI (強) にすると、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。
- LO (弱) にすると、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **警告**

■ **やけどを防ぐために**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたはとくにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

 **注意**

■ **シートヒーターの故障を防ぐために**

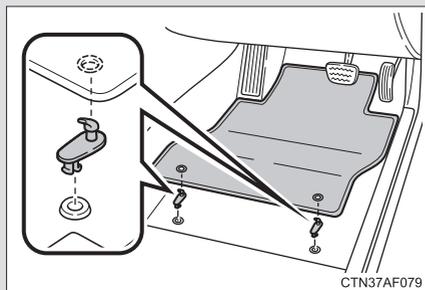
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはスイッチをオフ（中立）にしてください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。



フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

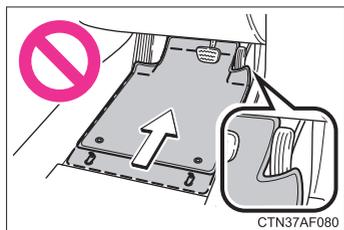
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットを使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にとしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

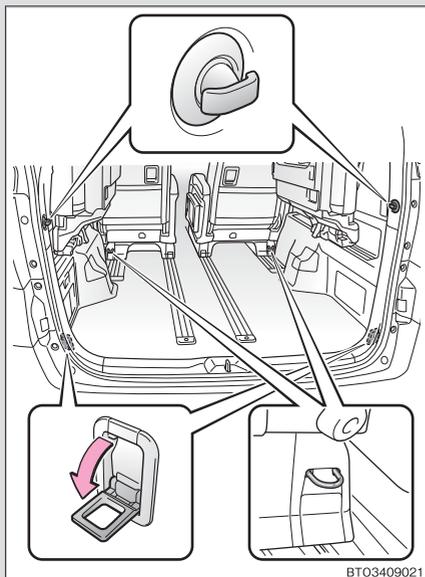
■ 運転する前に



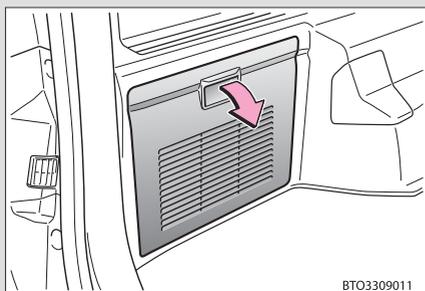
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にとしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

ラゲージルーム内装備

■ ラゲージフック



■ 小物入れ



取っ手を引きカバーをはずす

 **警告****■ ラゲージフックについて**

必ずもとの位置にもどしておいてください。

■ 小物入れについて

カバーを必ず閉めてください。

急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

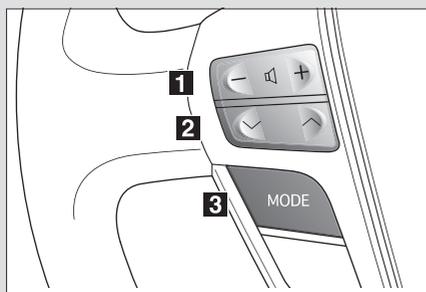
3-4. その他の室内装備の使い方

ステアリングスイッチ

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

モードの切り替えや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

- メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。
- 販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください



- 1 音量を調節する
- 2 CD、ラジオなどの操作
- 3 電源を入れる、モードを切り替える

電源を入れる

 を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

- ・ 装着されたオーディオにより “ピッ” と音が鳴ることがあります。

モードを切り替える

電源が ON のとき  を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切り替わります。

音量を調節するには

 の + または - を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

選局または選曲するには

電源が ON のとき  を押す

スイッチを押して、お聞きになりたい放送局や CD で再生したい曲を選択します。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	296
内装の手入れ.....	299
タイヤについて.....	302

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	309
ガレージジャッキ.....	311
電球（バルブ）の交換.....	313
ヒューズの点検、交換.....	323
キーの電池交換.....	332
ウォッシャー液の補給.....	334
エアコンフィルターの 清掃、交換.....	335

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

ボディの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボディコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラーが引っかかり、洗車できない場合や、傷ついたりするおそれがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■ 高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■ レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

ミラーの親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します(→P. 101)が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

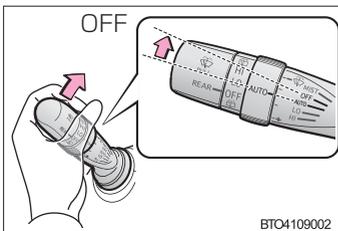
- 手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 手順 2 水を含ませたきれいな柔らかい布などで汚れを落とす
- 手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 手順 4 きれいな柔らかい布などで鏡面についた水をふき取る
- 手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
(汚れの量や種類により、回復時間は異なります)

▲ 警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウィンドウガラスを清掃するときは(雨滴感知式ワイパー装着車)



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっているときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウィンドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近づけたとき
- フロントウィンドウガラスに衝撃をあたえたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃をあたえたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

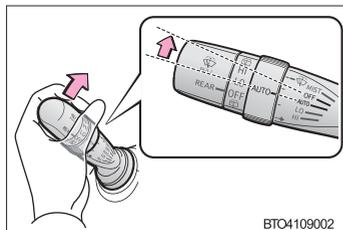
■ ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ ルーフの上を清掃するときは

ルーフの上に手をついたり、重いものをのせないでください。
ルーフがへこむなど損傷させるおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施してください。

■ 室内の手入れ

- カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ります。
- リヤウインドウガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

 知識**■ 本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 89)

 警告**■ 車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグの構成部品やワイヤーを濡らさないでください。(→P. 120)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

■ シート周辺の注意

室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

4-1. お手入れのしかた

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

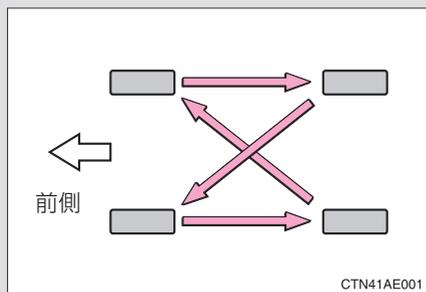
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

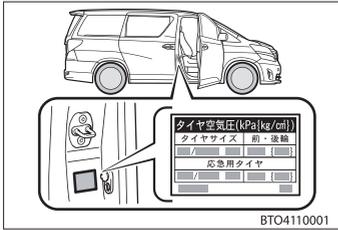


図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■ タイヤ空気圧の数値



タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm ²)]
	前後輪
235/50R18 97V	240 (2.4)
215/60R17 96H	240 (2.4)
215/65R16 98H	240 (2.4)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm²)

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。



警告

■ 日常点検について

- 日常点検として必ずタイヤを点検してください。
- タイヤの点検は法律で義務付けられています。
タイヤは以下の点について点検してください。
 - ・ タイヤの空気圧
 - ・ タイヤの亀裂・損傷の有無
 - ・ タイヤの溝の深さ
 - ・ タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

■ 指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または P. 398 で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。

指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

日常点検で、応急用タイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

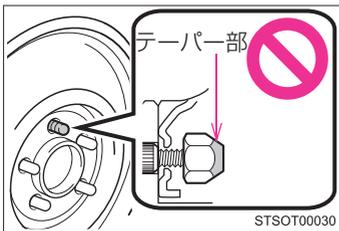
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因になることがあります。

■タイヤ交換時の注意



- 必ずナットのテーパ部を内側にして取りつけてください。テーパ部を外側にして取りつけると、ホイールが破損はすれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■タイヤのサイズ、種類について

- タイヤはすべて指定サイズで、同一のサイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**
■ タイヤのサイズ、種類について

● 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤ空気圧の点検は必ず行ってください。

- ・ 4 輪の空気圧の差が著しいとき
- ・ 空気圧が指定値からはずれているとき

● タイヤの摩耗を 4 輪とも均等にし、寿命を延ばすためにタイヤのローテーションを行ってください (→P. 302)

● ディスクホイールを交換するときも指定以外のディスクホイールを装着しないでください。

● 指定以外のタイヤおよび 4 輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能 (燃費・車両の安定性・制動距離など) が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があります、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS & ブレーキアシスト
- ・ VSC
- ・ レーダークルーズコントロール*
- ・ AFS *
- ・ ナビゲーションシステム*
- ・ ワイドビューフロント&サイドモニター*
- ・ TRC
- ・ クルーズコントロール*
- ・ LKA (レーンキーピングアシスト) *
- ・ PCS *
- ・ バックガイドモニター*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ 4WD システム*

■ 冬用タイヤについて

冬用タイヤ装着時も、必ず標準タイヤと同じサイズで同一種類のタイヤを装着し、指定空気圧で走行してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **警告****■ 摩耗限度について**

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、雨の日に制動距離が長くなったり、ハイドロブレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

*水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

■ タイヤサイズの変更について

新車時に装着されているタイヤサイズによってホイールサイズやステアリングギヤの設定*が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなるおそれがあり危険です。

例えば 215/65R16 タイヤ装着時に 235/50R18 タイヤを装着することはできません。

*ハンドルを操作した量に対してタイヤが切れる角度

 **注意**

■ **タイヤ空気圧が低いとき**

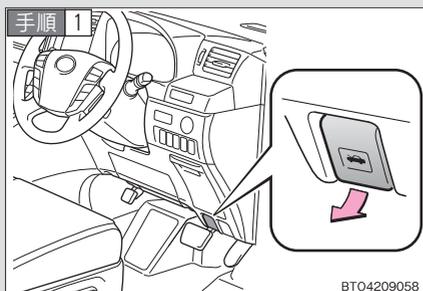
走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ **悪路走行に対する注意**

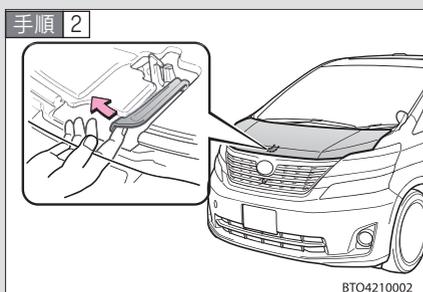
段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

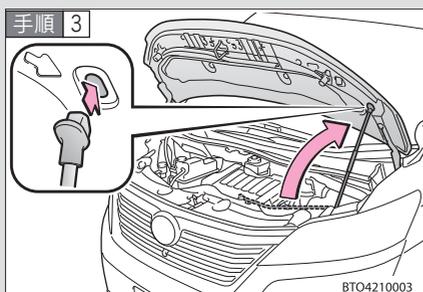
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネットオープナーを引く。
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げてボンネットを開ける。



ボンネットステーをステー穴に差し込む。

知識

■ バッテリー端子をはずすときは

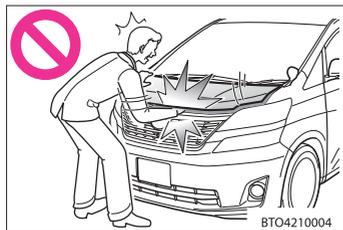
バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていて、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ けがを防ぐために

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ボンネットを開ける前に“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに電動ファンはエンジン停止後も最大 8 分間作動しますので、しばらくたってからボンネットを開けてください。

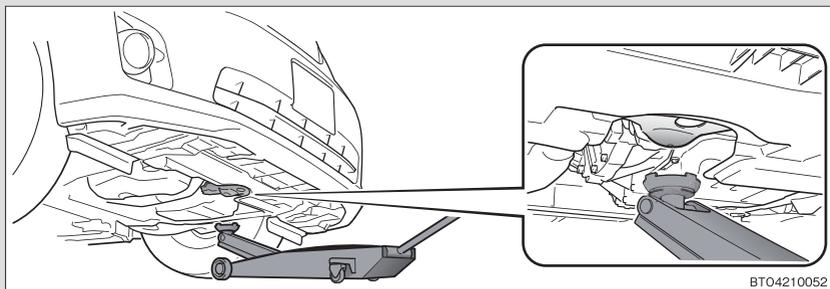
注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

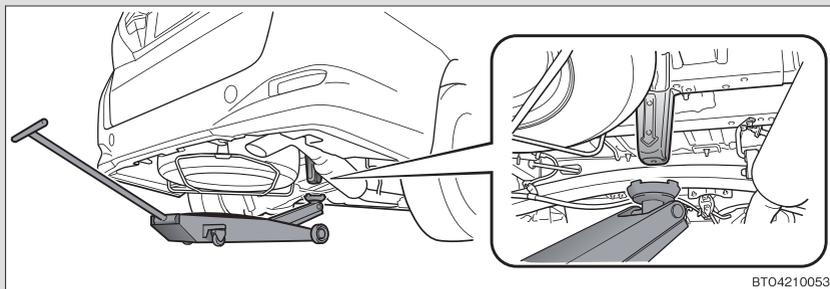
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取りつけてください。正しい位置に取りつけないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

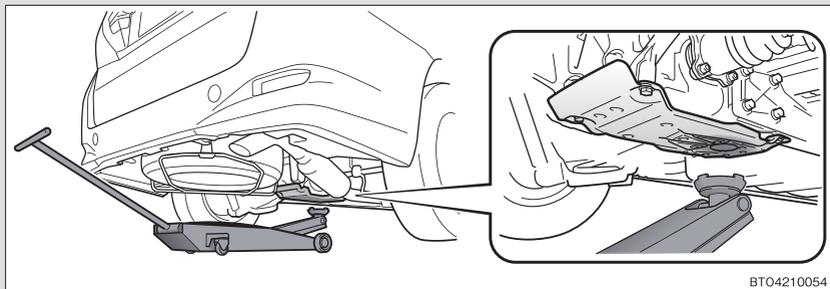


■ リヤ側

▶ FF 車（前輪駆動）



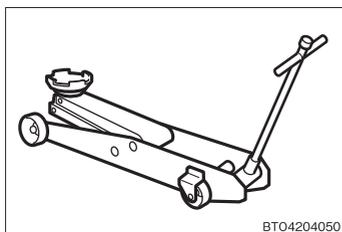
▶ 4WD 車（4 輪駆動）



⚠ 警告

■ 車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する
- 車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ガレージジャッキおよび自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない
- 平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに使用する
- ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ちあげない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

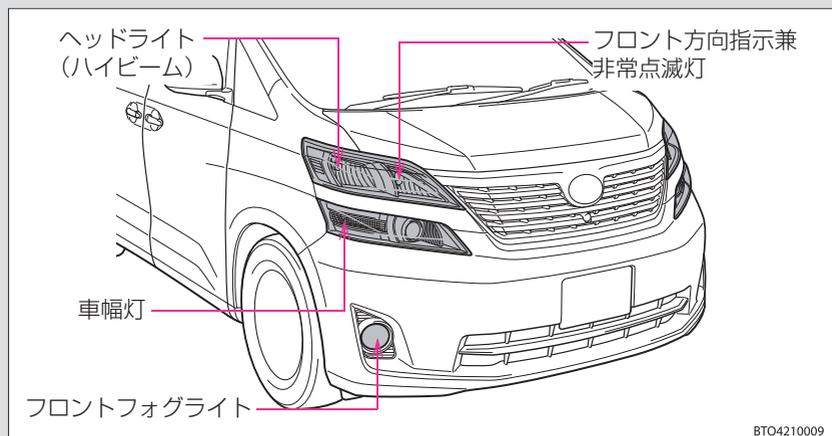
4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

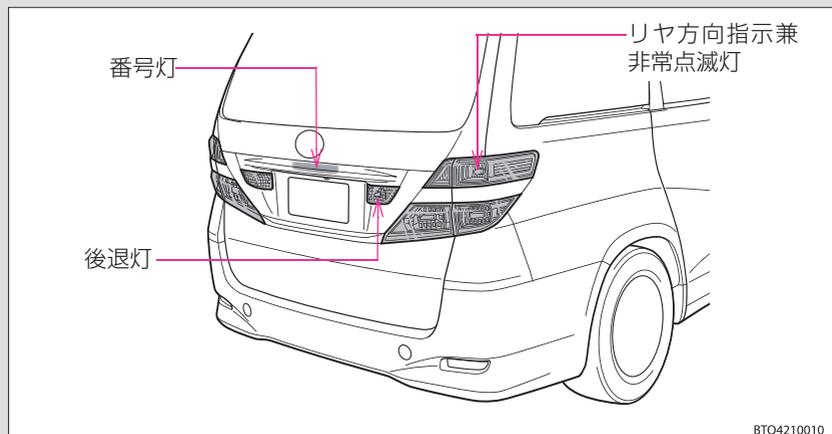
■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 398）

■ フロントのバルブ位置



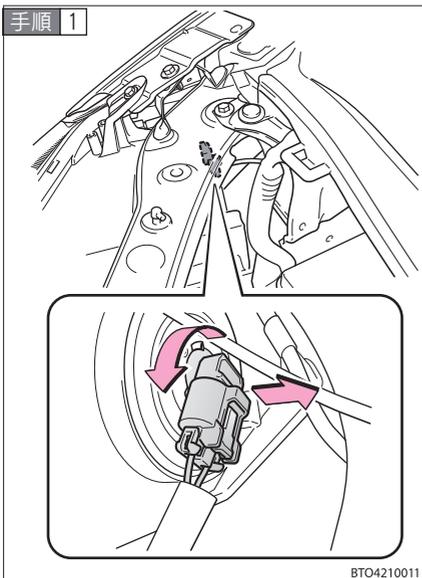
■ リヤのバルブ位置



電球交換の仕方

■ ヘッドライト（ハイビーム）

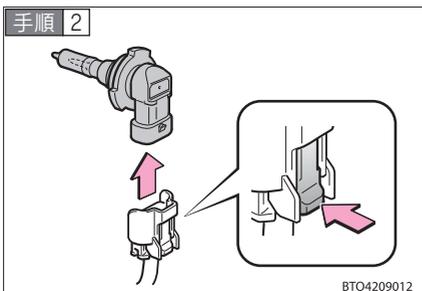
手順 1



BTO4210011

ソケットを取りはずす。

手順 2

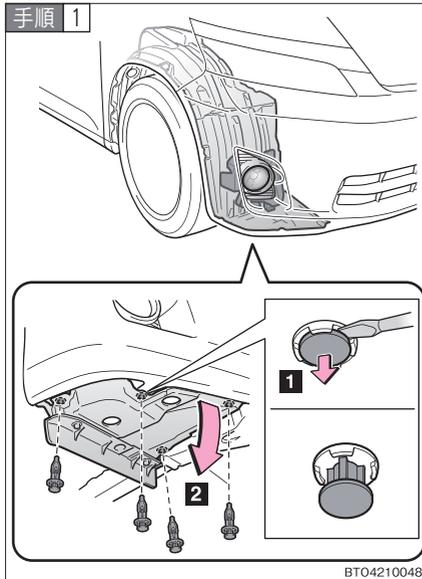


BTO4209012

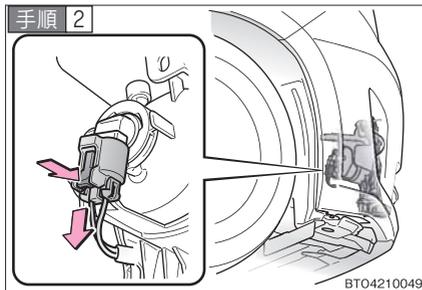
電球を取りはずす。

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

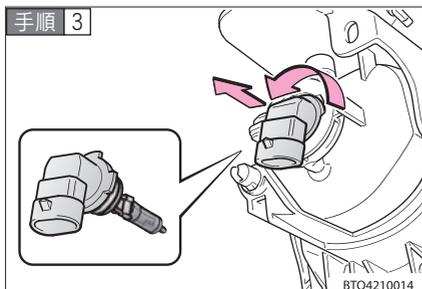
■ フロントフォグライト



- 1 クリップの中心を引き出し、クリップを引き抜く
- 2 フェンダーライナーをめくる



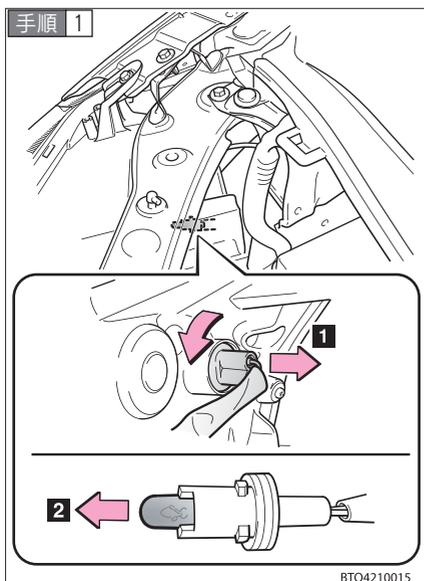
コネクターを引き抜く。



電球を取りはずす。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 車幅灯



- 1 ソケットを取りはずす
- 2 電球を取りはずす

手順 2 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

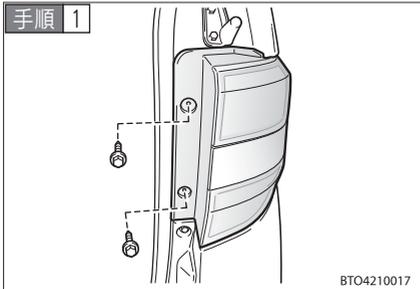
■ フロント方向指示 兼 非常点滅灯



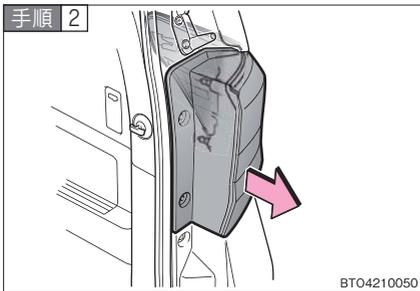
- 1 ソケットを取りはずす
- 2 電球を取りはずす

手順 2] 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

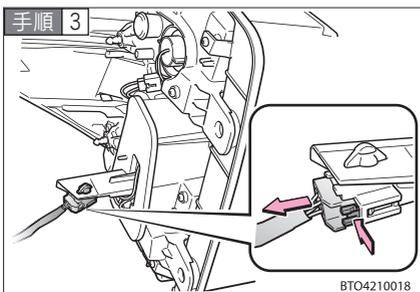
■ リヤ方向指示 兼 非常点滅灯



バックドアを開け、ボルト 2 本をはずす。



ライト本体を取りはずす。



コネクターのツメを押し、コネクタをはずす。

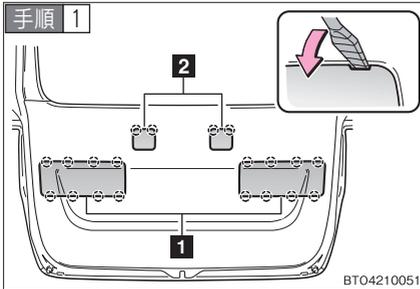


1 ソケットを引き抜く

2 電球を取りはずす

手順 5] 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ 後退灯、番号灯



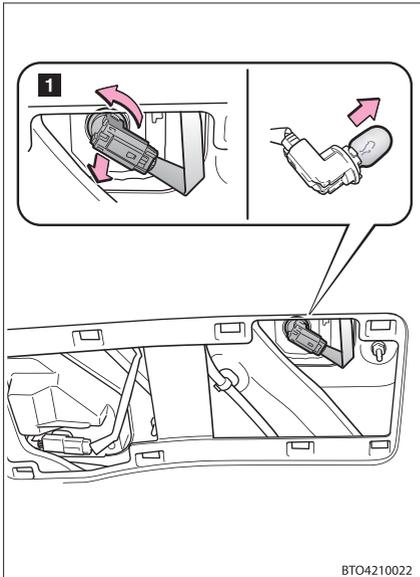
バックドアを開け、交換したい電球のカバーをはずす。

1 後退灯

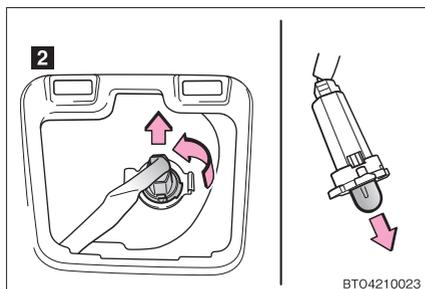
2 番号灯

手順 2 ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

▶ 後退灯



▶ 番号灯



2 番号灯

手順 3] 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップライト

知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常にもどると再点灯します。

 **警告****■ 電球を交換するときは**

- ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取りつけてください。取りつけが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ **お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

4-2. 簡単な点検・部品交換

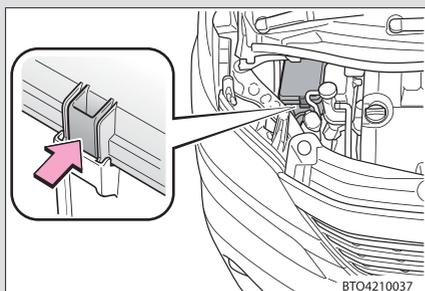
ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする。

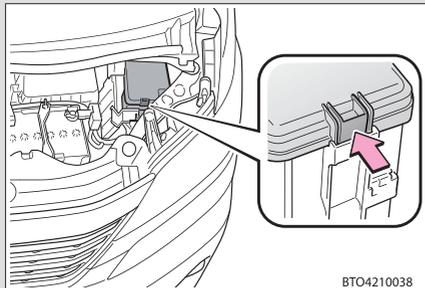
手順 2 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス A)



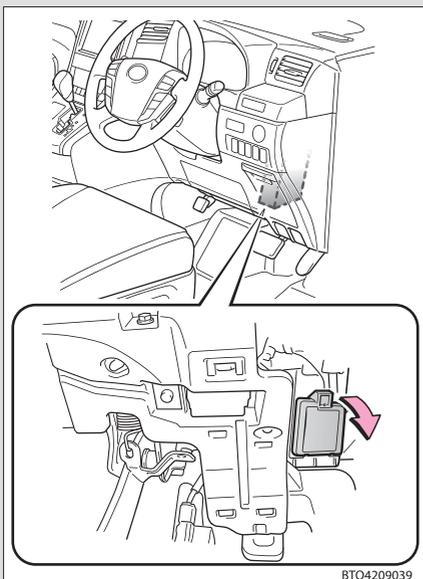
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス B)



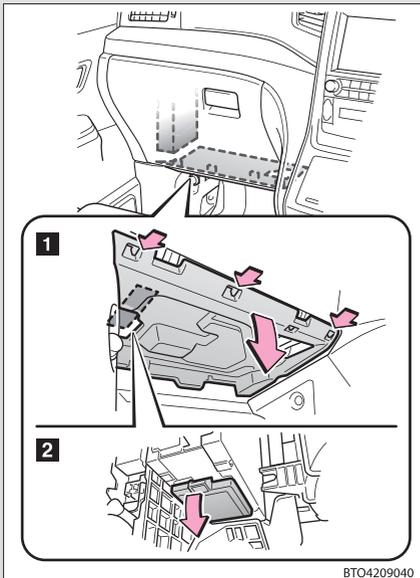
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元



カバーを取りはずす。

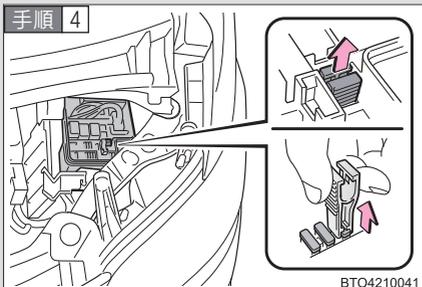
▶ 助手席足元

**1** 足元のカバーを取りはずす

カバーには足元照明がついていま
す。強く引っ張らないでください。
(フロント足元照明装着車)

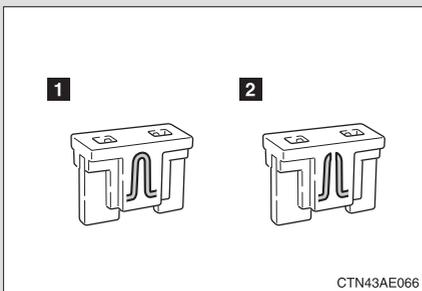
2 ヒューズボックスカバーを取
りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 327)で確認する。



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

手順 5 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する。



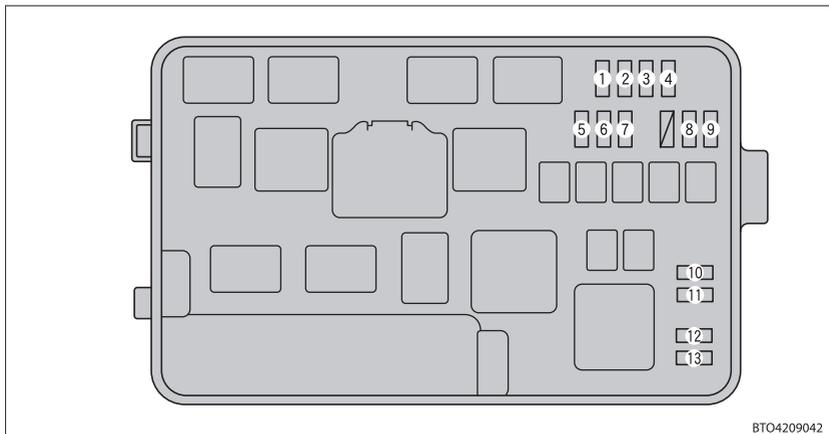
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

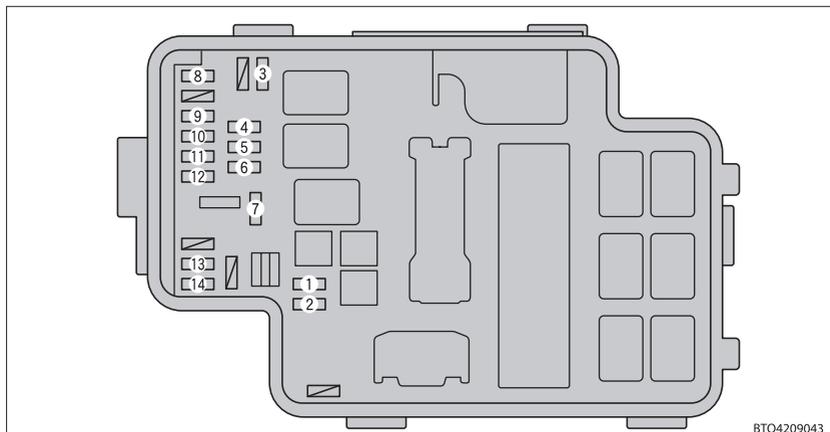
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム (ヒューズボックス A)



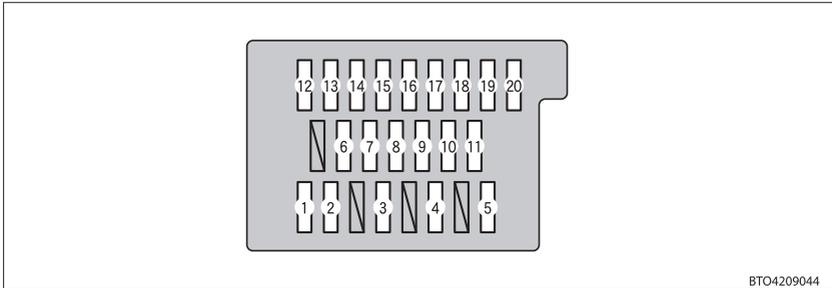
ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1 HORN	10 A	ホーン
2 STRG LCK	20 A	ステアリングロック
3 AMP NO.2	30 A	オーディオアンプ
4 AMP NO.1	30 A	オーディオアンプ
5 ECU-B3	7.5 A	スマート ECU
6 ECU-B2	7.5 A	パワーウインドウ
7 S/HORN	10 A	セキュリティホーン
8 DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
9 FOG	20 A	フロントフォグライト
10 H-LP RL	15 A	右側ヘッドライト (ロービーム)
11 H-LP LL	15 A	左側ヘッドライト (ロービーム)
12 H-LP RH	15 A	右側ヘッドライト (ハイビーム)
13 H-LP LH	15 A	左側ヘッドライト (ハイビーム)

■ エンジンルーム (ヒューズボックス B)



ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称	
1	ABS NO.2	30 A	VSC アクチュエーター
2	DEF	30 A	リヤウインドウデフォグガー
3	EFI	20 A	EFI
4	ECU-B	10 A	パワースライドドア
5	DOME	7.5 A	室内灯
6	RAD NO.1	15 A	ナビゲーションシステム
7	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
8	SLOPE NO.2	30 A	スロープ
9	ETC-S	10 A	EFI
10	AM2 NO.2	7.5 A	ボデー ECU
11	TRN HAZ	15 A	方向指示 兼 非常点滅灯
12	IG2	15 A	インジェクション
13	FR DOOR	30 A	ボデー ECU
14	A/F	30 A	EFI

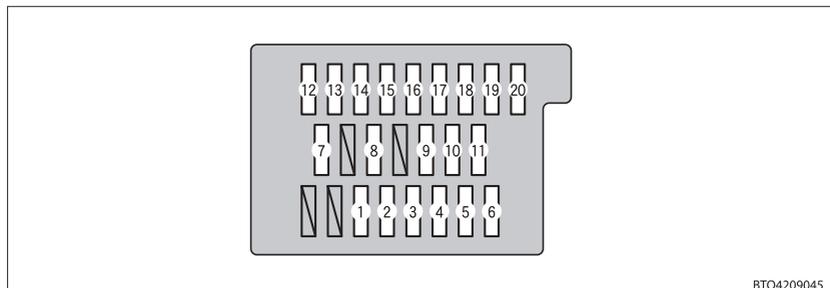
■ 運転席足元



BTO4209044

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR WIP	30 A	フロントワイパー
2	SEAT HTR RH	10 A	シートヒーター（運転席側）
3	RH ECU-IG	10 A	エアコン
4	P/SEAT RL	20 A	助手席側セカンドシート
5	P/SEAT RR	20 A	運転席側セカンドシート
6	P/POINT	15 A	アクセサリースOCKET
7	CIG	15 A	アクセサリースOCKET
8	RAD NO.2	7.5 A	ナビゲーションシステム
9	ECU-ACC	7.5 A	ドアミラー
10	IGN	10 A	イグニッション
11	MET	7.5 A	メーター
12	PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト
13	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
14	P/W FR	20 A	パワーウインドウ
15	P/SEAT RH	30 A	運転席シート
16	AM1	7.5 A	ドライビングポジションメモリー
17	STOP	15 A	制動灯
18	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
19	PSD RH	30 A	パワースライドドア
20	P/W RR	20 A	パワーウインドウ

■ 助手席足元



BTO4209045

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	LH ECU-IG	10 A	ボデー ECU、パワースライドドア
2	SEAT HTR LH	10 A	シートヒーター
3	GAUGE NO.2	10 A	後退灯
4	STP RR	7.5 A	制動灯
5	STP HI MT	7.5 A	ハイマウントストップライト
6	STP RL	7.5 A	制動灯
7	RR WIP	15 A	リヤワイパー
8	GAUGE NO.1	10 A	メーター
9	PANEL	10 A	スイッチ照明
10	TAIL2	10 A	尾灯
11	TAIL	10 A	尾灯
12	P/SEAT LH	30 A	助手席シート
13	4WD	7.5 A	4WD システム
14	AC INV	15 A	アクセサリーコンセント
15	DR LOCK	30 A	ボデー ECU
16	P/W FL	20 A	パワーウインドウ
17	S/R	20 A	ムーンルーフ
18	PSD LH	30 A	パワースライドドア
19	P/W RL	20 A	パワーウインドウ
20	PBD	30 A	パワーバックドア

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P. 313)
- 取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

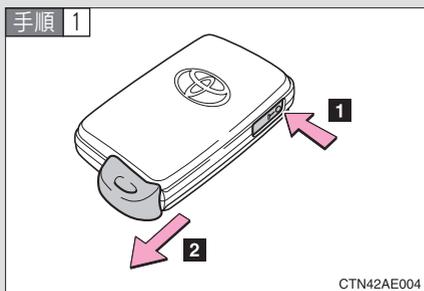
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- テープを巻いたマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換の仕方

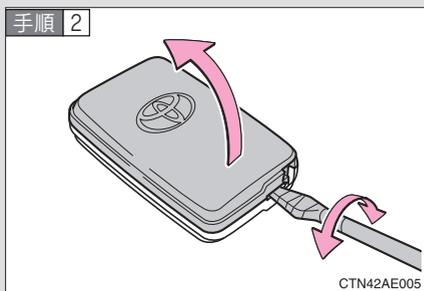
手順 1



CTN42AE004

メカニカルキーを抜く。

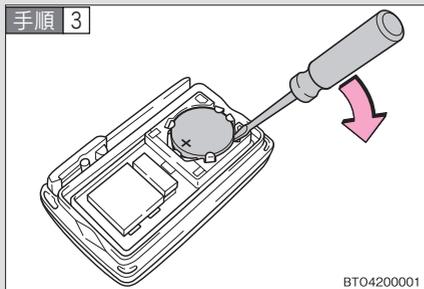
手順 2



CTN42AE005

カバーをはずす。

手順 3



BT04200001

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り
つけます。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

 知識**■ 電池が消耗していると**

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体のLEDが点灯することを確認します。

 **警告****■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

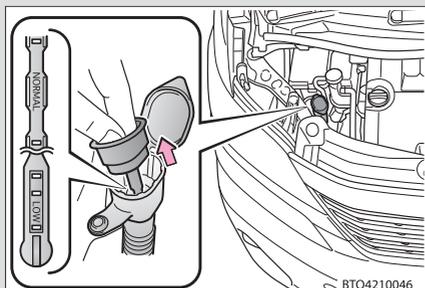
 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり布きれを当ててからはずしてください。
カバーに傷がつくおそれがあります。

4-2. 簡単な点検・部品交換

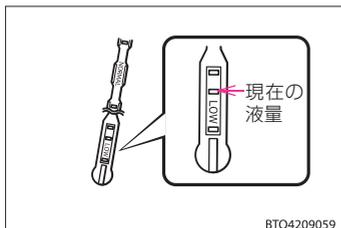
ウォッシャー液の補給



液面がLOWの位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

知識

■ ゲージの使い方



ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下回った（LOWの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

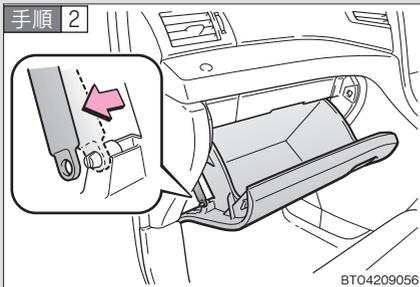
エアコンフィルターの清掃、交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

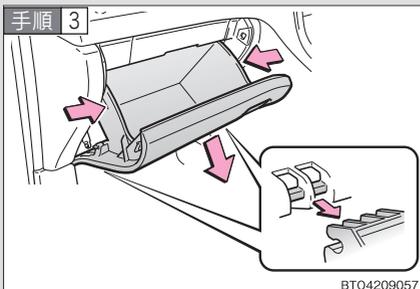
手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2



グローブボックスを開きダンパーのピンをはずす。

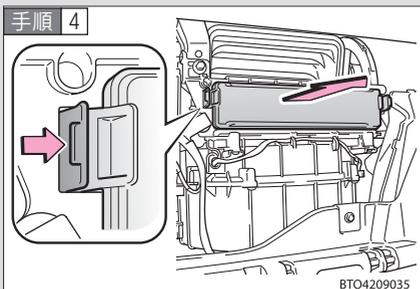
手順 3



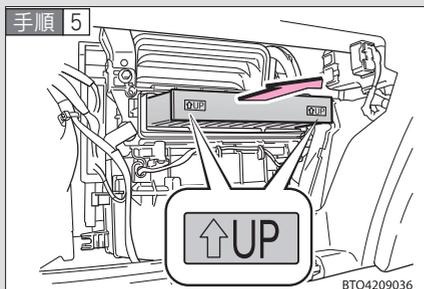
グローブボックス側面を押してツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす。

下部のツメを取りはずすときは、グローブボックスを水平に引き出して取りはずします。

手順 4



フィルターカバーを取りはずす。



フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 6] 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

知識

■ エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km[7,500km*]ごと

交換：30,000km[15,000km*]ごと

*大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

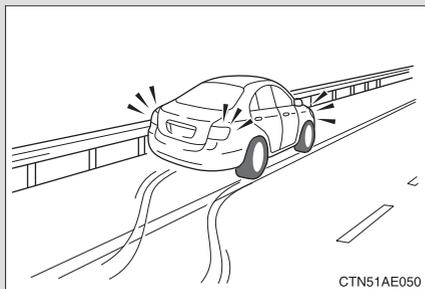
故障したときは.....	338
非常点滅灯	339
発炎筒	340
けん引について.....	342
イベントデータ レコーダー	346

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	348
警告メッセージが 表示されたときは	353
パンクしたときは	363
エンジンが かからないときは	376
シフトレバーが シフトできないときは	378
キーを無くしたときは	379
電子キーが正常に 働かないときは	380
バッテリーが あがったときは	382
オーバーヒートしたときは ..	385
スタックしたときは	388
車両を緊急停止するには	390

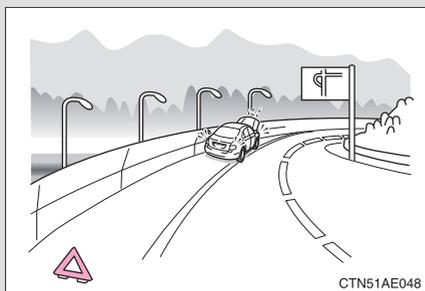
5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

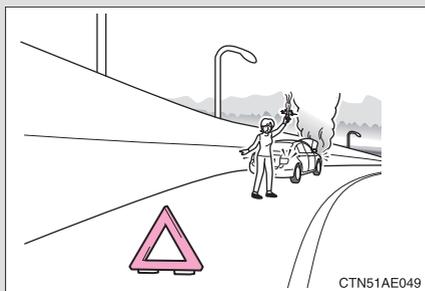


非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 339)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



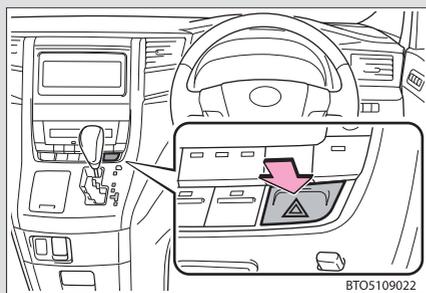
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 340)

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

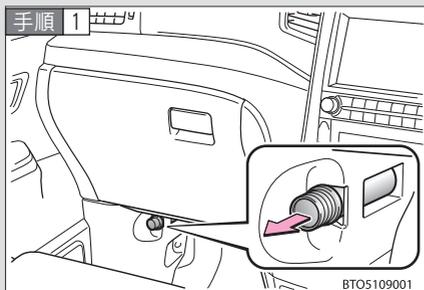
⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

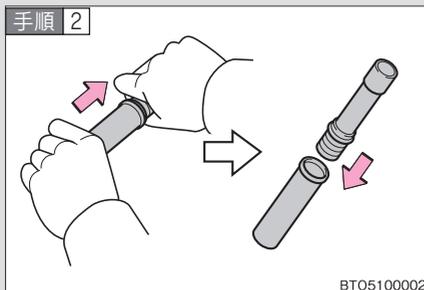
エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

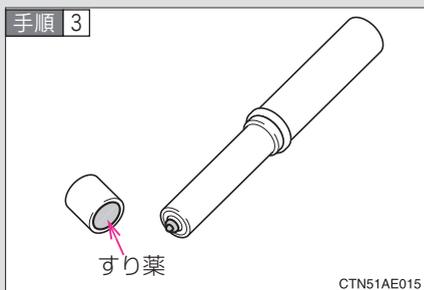
事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してお使いください。



助手席足元の発炎筒を取り出す。



本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む。



先端のフタをとり、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でのお求めください。

 **警告****■ 発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

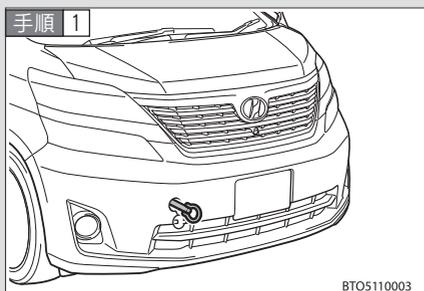
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

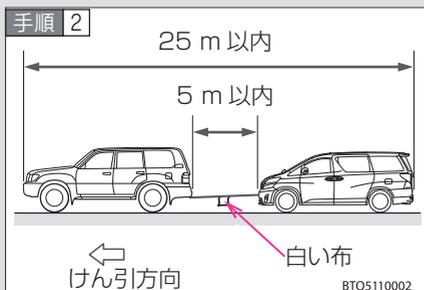
- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは



車体に傷つかないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。



ロープの中央に白い布をつける。

布の大きさ：
0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm)
以上

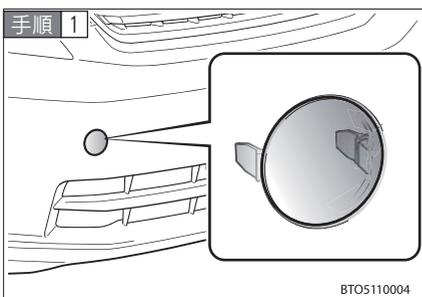
手順 3 | けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

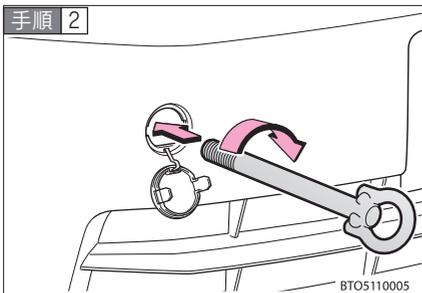
手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しローブをたるませないようにしてください。

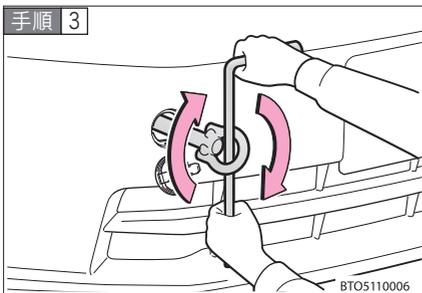
けん引フックの取り付け方



運転席側のフタをはずす。



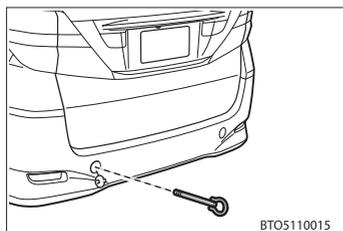
けん引フックを穴に差しこみ軽く締める。



ホイールナットレンチを使い確実に取りつける。

知識

■ 他車をけん引する



リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するとき 사용합니다。(助手席側)

■ けん引フックの収納位置

→P. 363

警告

■ けん引フックを車両に取りつけるとき

指定の位置に指定のけん引フックをしっかりと取りつけてください。指定位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 車両を運搬するときは（4WD 車 < 4 輪駆動車 >）

必ず 4 輪接地または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。駆動装置が焼きつきを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■ 他車をけん引するときは

自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとする、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

 **警告****■けん引中の運転について**

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

 **注意****■車両の損傷を防ぐために**

けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転席および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。（車種によっては記録される項目が異なります。）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキシステムの異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
4WD	4WD 警告灯* <ul style="list-style-type: none"> ・4WD システムの異常
	ディスチャージヘッドライト オートレベリング警告灯* <ul style="list-style-type: none"> ・自動光軸調整システムの異常
PCS (点滅)	PCS 警告灯* <ul style="list-style-type: none"> ・プリクラッシュセーフティシステムの異常（→P. 235） プリクラッシュブレーキを OFF にしたときは点灯します。（→P. 233）
AFS OFF (点滅)	AFS OFF 表示灯* <ul style="list-style-type: none"> ・AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常（→P. 187）
CRUISE (点滅)	クルーズコントロール表示灯* <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズコントロールシステムの異常（→P. 197）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
 LKA (点滅)	LKA 表示灯* LKA (レーンキーピングアシスト) の異常 (→P. 358)

知識

■ パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯/ 半ドア警告表示* (警告ブザー)	開いているドアを閉める
	※ 1 いずれかのドアが確実に閉まっていない	
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	助手席シートベルト 非着用警告灯（警告ブザー）※2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	燃料残量警告灯 燃料の残量 （約 10L 以下）	燃料を補給
	マスターウォーニング* システムの異常時にブザーと ともに点灯・点滅しマルチ インフォメーションディス プレイ上に警告メッセージを 表示します。	→P. 353

※1 半ドア走行時警告ブザー：

車速が 5km/h を超えると警告ブザーが鳴ります。

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。*

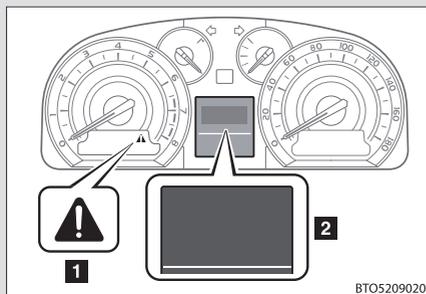
それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		スマートエントリー&スタートシステム警告灯	警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	なし	 (8秒間点灯)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1回	3回		電子キーを携帯していない状態かつ“エンジンスタートストップ”スイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーがPの状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにする または電子キーを携帯する
連続	連続		電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーがP以外の状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージが表示されたときは*

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



1 マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
<div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> 4WD システムチェック </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<p>4WD システム*の異常 警告ブザーが鳴ります。</p>
<div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> ステアリングロック システム確認 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<p>ステアリングロックシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。</p>
<div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> USC システムチェック </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<p>TRC、VSC の異常 警告ブザーが鳴ります。</p>
<div style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> PCS システムチェック </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; display: inline-block;">PCS (点滅)</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<p>PCS (プリクラッシュセーフティシステム) *の異常 警告ブザーが鳴ります。</p>

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
<div data-bbox="146 248 359 357" style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> クルーズ システムチェック </div> <div data-bbox="204 368 296 427" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> CRUISE (点滅) </div> <div data-bbox="204 440 296 499" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div>	<p>レーダークルーズコントロールシステム*の異常</p> <p>安全な場所にお車を止め、エンジンを再度かけなおしてレーダークルーズコントロールシステムを再セットしてください。</p>
<div data-bbox="146 536 359 644" style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;">  ソナー チェック </div> <div data-bbox="204 655 296 715" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div>	<p>クリアランスソナーの異常</p> <p>異常のあるソナーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴りま す。</p>

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	<p>各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。</p> <p>各ドアが確実にしまっていない状態のまま、車速が5km/hを超えたときには  が点滅し、警告ブザーが鳴ります。</p>	各ドアを閉める
	<p>パーキングブレーキをかけたまま、車速が5 km/hを超えた 警告ブザーが鳴ります。</p>	パーキングブレーキを解除する
	<p>ムーンルーフ*が確実に閉まっていない状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにして運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。</p>	ムーンルーフを閉める

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
<p>給油して下さい</p> 	<p>燃料の不足</p>	<p>燃料残量を点検し、燃料を補給する。</p>
<p>PCS 現在使用できません</p> 	<p>PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*が現在機能していない 警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>グリルまたはセンサーの汚れを取り除く プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると PCS 警告灯は点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。</p>
<p>レーダー汚れ 清掃必要</p>  	<p>レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>汚れおよび氷などを取り除く</p>
<p>悪天候 クルーズできません</p>  	<p>レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可 警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>システムが悪天候と判断したため、使用できません。</p>

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 <p>(点滅)</p>	<p>(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性がある 警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>ブレーキペダルを踏む</p>
	<p>衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ*が作動していることを示す</p>	<p>ブレーキペダルを踏む</p>
	<p>LKA (レーンキーピングアシスト) *の異常</p>	<p>エンジンを再始動後、LKAを再起動する</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・白線認識用カメラの異常高温 ・EPSの作動制限中 	<p>LKA *を再起動する</p>
	<p>ソナー部に雪氷や泥などの付着 汚れが付着しているソナー部が点滅し、警告ブザーが鳴ります。</p>	<p>汚れを取りのぞく。 ソナー部が汚れていないのに表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常にゆっくりした車のとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

ただちに処置してください

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし		電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回		電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジンスタートストップ”スイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーがPの状態、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせず、運転席ドアが開閉された	“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにする または電子キーを携帯する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	なし	<p>Pレンジに 入れて下さい</p>  (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	シフトレバーをPにする
連続音	連続音	<p>キーが見つかりません</p> <p>Pレンジに 入れて下さい</p> <p>(交互に表示)</p>  (点滅)	電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーがP以外の状態で、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	<ul style="list-style-type: none"> ・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する
1回	なし	<p>キーバッテリー 残りわずか</p> 	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する。 (→P. 332)

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	始動時は ブレーキを踏みなが らエンジンスイッチ を押して下さい	“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFの状態です。いずれかのドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードに2回した	ブレーキを踏んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押す
1回	なし	ステアリングロック 未解除 	“エンジンスタートストップ”スイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら“エンジンスタートストップ”スイッチを押す
1回	なし	始動時は ブレーキを踏みなが らエンジンスイッチ を押して下さい	電子キーが正常に 作動していない	→P. 380
1回	なし	ブレーキを 踏みながらキーで エンジンスイッチに 触れて下さい		

※ 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 32)

5-2. 緊急時の対処法

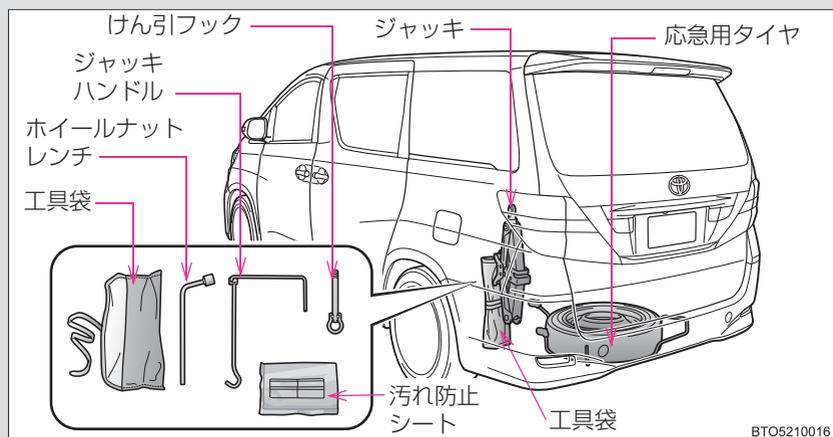
パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備えつけの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 302をご覧ください。)

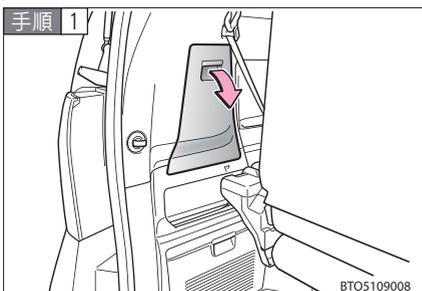
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

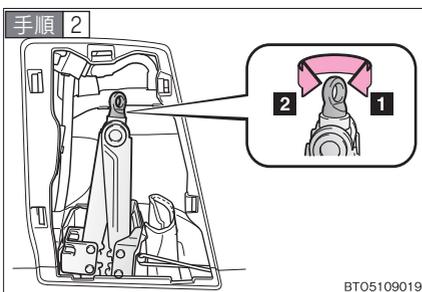
■ 工具とジャッキ位置



工具袋、ジャッキの取り出しかた

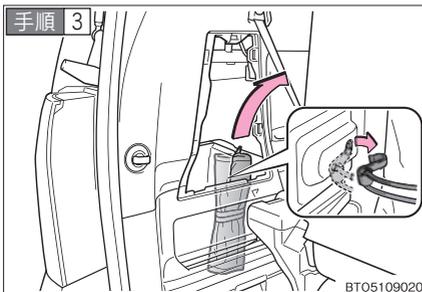


カバーをはずす。



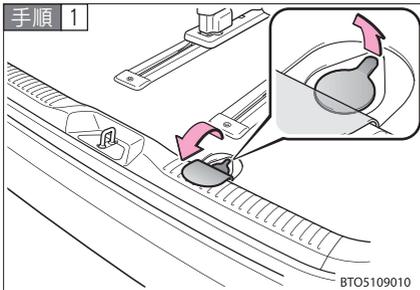
ジャッキを取り出す。

- 1 締める
- 2 ゆるめる

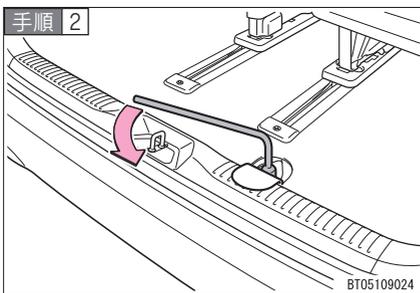


固定バンドをはずし、工具袋を取り出す。

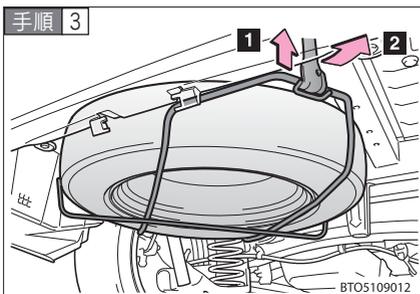
応急用タイヤの取り出し方



ラゲジルーム後部床上にある
マットの切り欠き部分をめくり、
キャップをはずす。



ホイールナットレンチを使用し、
ボルトを応急用タイヤ格納具が
フックから取りはずせるぐらいま
でゆるめる。



格納具をフックからはずす。

- 1 格納具を少し持ち上げる
- 2 フックをはずす

手順 4 格納具を地面におろし、応急用タイヤを両側から持ち、手前に引き出す。

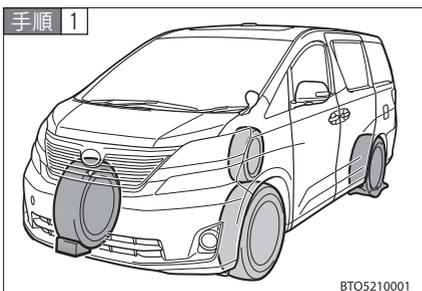
応急用タイヤを少し引き出すと、応急用タイヤが格納具から落下します。そのまま引き出してください。

手順 5 格納具をもとにもどす。

格納具をフックにかけ、ボルトを十分に締めつけて、もとにもどします。

パンクしたタイヤの交換

手順 1

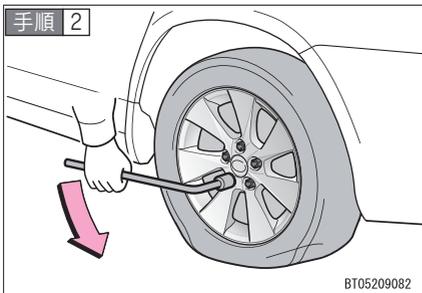


輪止め*をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪 うしろ
	右側	左側後輪 うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

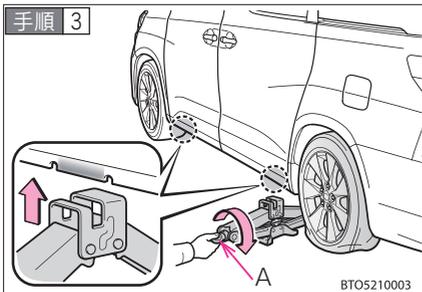
* 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

手順 2

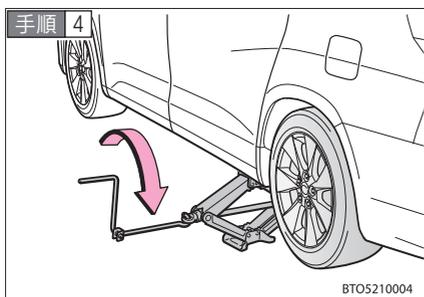


ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

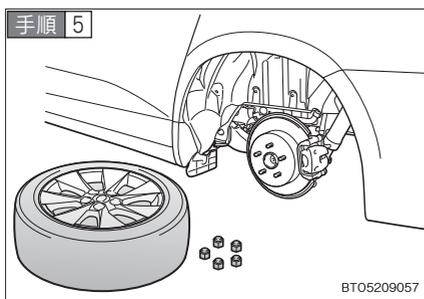
手順 3



ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

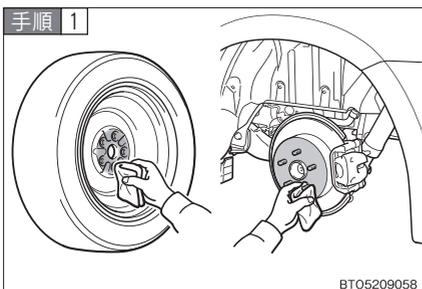


ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないように意匠面を上にする。

タイヤの取り付け

手順 1

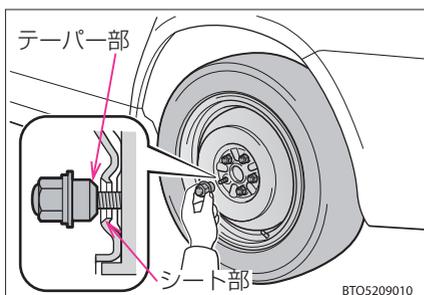


ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

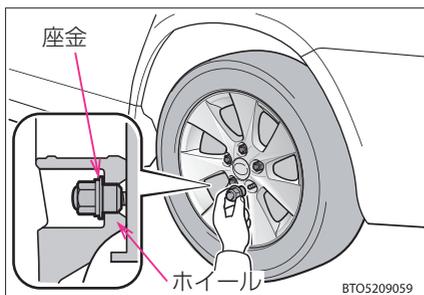
手順 2 ② タイヤを取りつけ、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

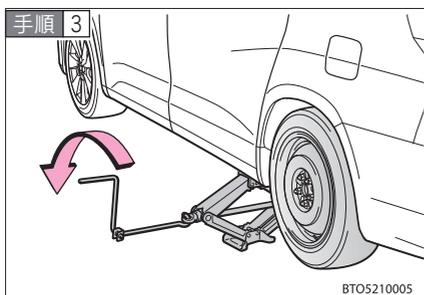


ナットのテーパ部分がホイールのシート部に軽く当たるまで回す。

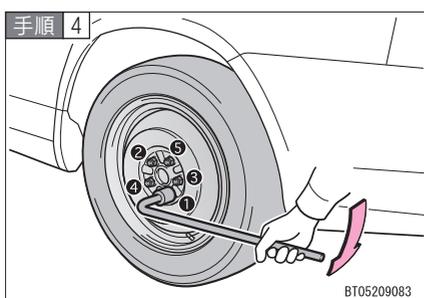
▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき



ナットの座金がホイールに当たるまで回す。



車体を下げる。



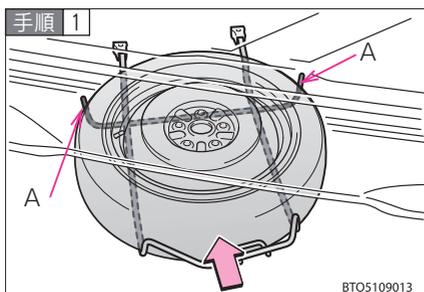
図の番号順でナットを2、3度しっかり締めつける。

締めつけトルク：

103 N · m (1050 kgf · cm)

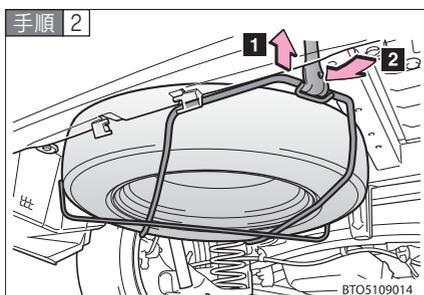
手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

応急用タイヤの格納



タイヤを格納具にのせる。

ホイールの意匠面を上にしてタイヤを格納具の奥 (A 部) に当たるまで押し込みます。



格納具を持ち上げてフックをかけ、ボルトを締めつける。

- 1** 格納具を少し持ち上げる
- 2** フックをかける

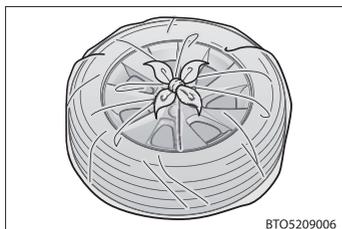
格納具を持ち上げて、タイヤがボデー側に収まっていることを確認してからフックをかけてください。

知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用のみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 398)

■ 標準タイヤの格納について



標準タイヤは、応急用タイヤ格納具に格納できません。パンクなどではずした標準タイヤは、汚れ防止シートにつつんでラゲージルームに格納してください。

 **警告****■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。



警告

■ タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ホイールの交換後はすぐに $103 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1050 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ナットを取りつけるときは、必ずテーパー部を内側にして取りつける。
(→P. 305)

上記のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告****■ 応急用タイヤを取り出すときは**

- 格納具からタイヤを落とすなどして手や腕、足を挟まないように注意してください。
- ステップ内のボルトをゆるめるときは、20回転程度にしてください。50回転以上まわすとフックがはずれてタイヤが落下し、思わぬけがをするおそれがあります。
- 応急用タイヤはジャッキアップする前に必ず取り出してください。ジャッキアップしたあとに応急用タイヤを取り出すと、作業中にジャッキがはずれるなどして思わぬけがをするおそれがあります。
- 格納具のボルトをホイールナットレンチでまわすときは、ゆっくりとまわしてください。勢いでホイールナットレンチが車体に当たり傷ついたり、手や指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。
- 応急用タイヤを取り出すときは、応急用タイヤ上面とボデーの間に手を入れないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



警告

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS & ブレーキアシスト
- TRC
- VSC
- クルーズコントロール*
- レーダクルーズコントロール*
- LKA (レーンキーピングアシスト) *
- AFS *
- PCS *
- ナビゲーションシステム*
- バックガイドモニター*
- ワイドビューフロント&サイドモニター*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム*

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 **注意****■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

■応急用タイヤの格納について

応急用タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 158）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 158）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 158）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 115）

■ スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 382）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターが回らない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 382）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時エンジン始動

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 シフトレバーを P に入れる

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間 “エンジン スタート ストップ” スイッチを長押しする。

上記の手順にしたがいエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

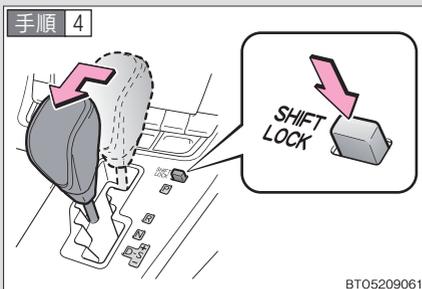
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4



BT05209061

シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

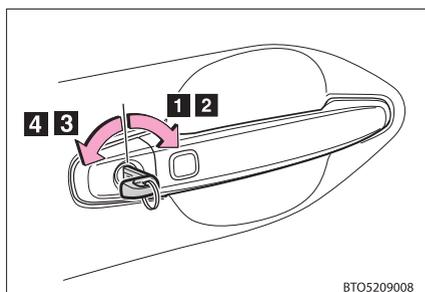
キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

(→P. 22)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P. 32)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアの解錠・施錠、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠



メカニカルキー (→P. 22) を使ってドアを解錠・施錠する

1 全ドア施錠

2 ドアガラスが閉まる (長押し)

販売店で設定することにより、作動させることができます。(→P. 400)

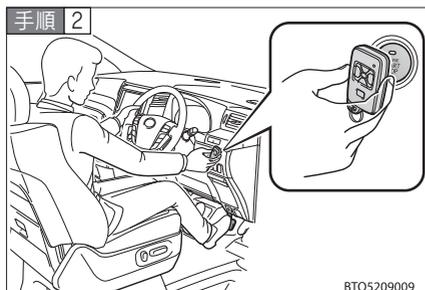
3 全ドア解錠

4 ドアガラスが開く (長押し)

販売店で設定することにより、作動させることができます。(→P. 400)

エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む。



手順 2

電子キーのトヨタエンブレム面で“エンジンスタートストップ”スイッチに触れます。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジンスタートストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 次の操作を行う

モードの切り替え：

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。
“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→P. 157)

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

 **知識****■ エンジン停止のしかた**

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

■ 電池交換について

前ページのエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池を交換することをおすすめします。(→P. 332)

バッテリーがあがったときは

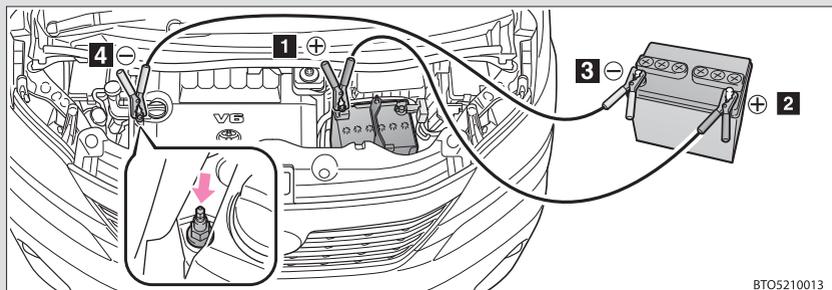
バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

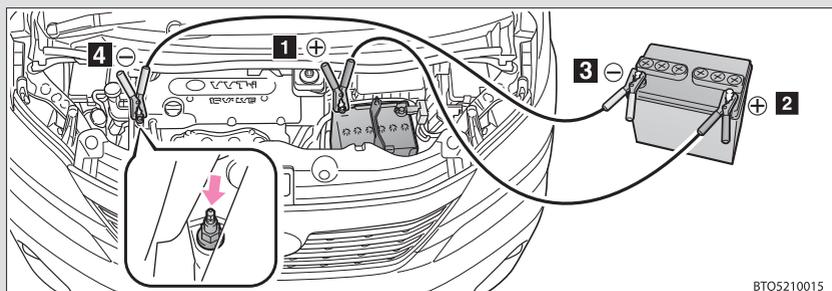
手順 1 ブースターケーブルを次の順につなぐ。

- 1** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- 2** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ 2GR-FE エンジン搭載車



▶ 2AZ-FE エンジン搭載車



手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が身体についたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

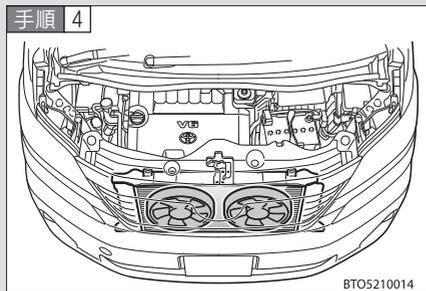
ファンが作動している場合：

水温計の針がHの位置から下がってきってからエンジンを止める。

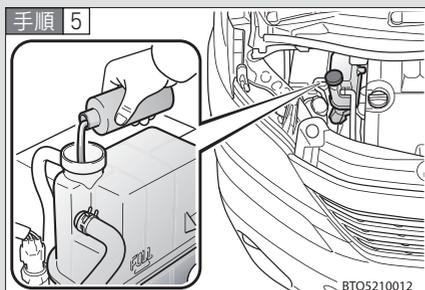
ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

手順 4



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

 **警告****■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重症を負うおそれがあります。
- 冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内に触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
冷却ファンはエアコンが作動しているときや、冷却水の温度が高いときに自動で作動します。また、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしても最大8分間作動することがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

 **注意****■ 冷却水を入れるときの注意**

冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

▶ FF車（前輪駆動）

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにする

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーをDまたはRに確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSCの作動で脱出しにくいときは、TRCまたはVSCを停止してください。（→P. 226）

▶ 4WD車（4輪駆動）

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにする

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 4WDオートモードになっていることを確認する。
（→P. 194）

手順 6 シフトレバーをDまたはRに確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSCの作動で脱出しにくいときは、TRCまたはVSCを停止してください。（→P. 226）

 **警告****■ 脱出するときの警告**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

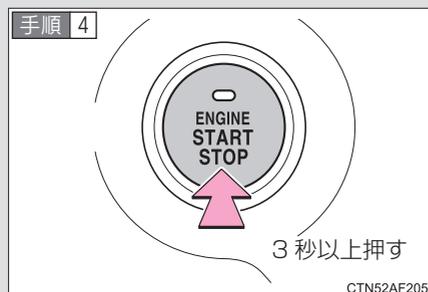
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。



“エンジン スタートストップ”スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止させる。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両の仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(油脂類の容量と銘柄) 392

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧..... 400

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 402

メンテナンスデータ (油脂類の容量と銘柄)

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
無鉛プレミアムガソリン※ (無鉛ハイオク)	2GR-FE	65
無鉛レギュラーガソリン	2AZ-FE	

※ 無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

エンジンオイル

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)	
		オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 ^{※1} —API SL, EC SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	2GR-FE	5.7	6.1
トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20 ^{※2} —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	2AZ-FE	4.1	4.3

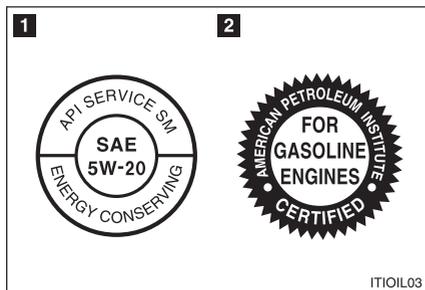
※ 1 : 5W-20 は、新車時に充填されている最も省燃費性に優れるオイルです。

※ 2 : 0W-20 は、新車時に充填されている最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークがついています。

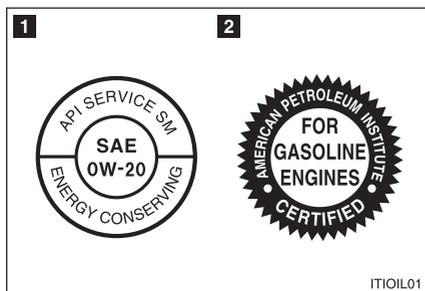
▶ 2GR-FE エンジン搭載車



1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車



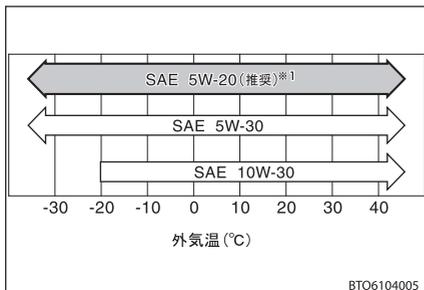
1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

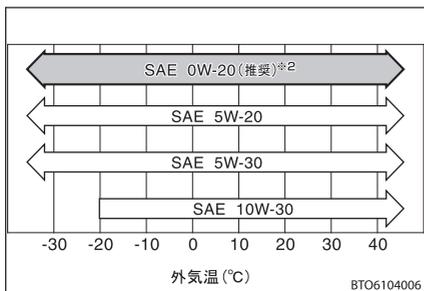
下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車



※ 1 : 5W-20 は、新車時に充填されている最も省燃費性に優れるオイルです。

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車



※ 2 : 0W-20 は、新車時に充填されている最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について :

- オイル粘度表示の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度	2GR-FE	10.6
濃度 30% -12℃	2AZ-FE	8.2
濃度 50% -35℃		

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値*)
トヨタ純正オートフルード WS	2GR-FE (FF車)	6.5
	2GR-FE (4WD車)	6.7
トヨタ純正 CVT フルード TC	2AZ-FE	8.7

* 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル*

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

トランスファー*

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間*	124 以上

* エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ*数	4 ~ 6

* ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度(“カチッ”という音)のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)	2.5
--------------	-----

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)
		前・後輪
標準タイヤ	235/50R18 97V	240 (2.4)
	215/60R17 96H	240 (2.4)
	215/65R16 98H	240 (2.4)
応急用タイヤ	T165/80R17 104M	420 (4.2)

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドライト ハイビーム (バルブタイプ : HB3)	60
	ロービーム (ディスチャージヘッドライト)	35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト (バルブタイプ : HB4)	51
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	LED*
	尾灯	LED*
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED*
	番号灯	5

* LED は、Light Emitting Diodes(発光ダイオード)の略で、半導体発光電子素子です。

電球		W (ワット) 数
車内	フロントパーソナルライト	8
	リヤパーソナルライト	8
	天井イルミ	LED*
	ダウンライト	LED*
	ラゲージルームライト	5
	フロント足元照明*	LED*
	ドアカーテシライト*	5
	グローブボックスライト	LED*
	バニティライト	8

* LED は、Light Emitting Diodes(発光ダイオード)の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GGH20W	2GR-FE (3.5L ガソリン)	FF (前輪駆動)
GGH25W		4WD (4 輪駆動)
ANH20W	2AZ-FE (2.4L ガソリン)	FF (前輪駆動)
ANH25W		4WD (4 輪駆動)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 24)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
	作動の合図 (ブザー)	あり	なし
ワイヤレスドアロック (→P. 33)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
	作動の合図 (ブザー)	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	パワーバックドアの作動	長押し	短押し
2 回押し			
なし			
ドアロック (→P. 35)	車速感応式ドアロック	あり	なし
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり

項目	機能の内容	初期設定	変更後
パワーウィンドウ (→P. 105)	ドアキー連動開閉機能	なし	あり
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり
	スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能	なし	あり
パワーバックドア (→P. 49)	パワーバックドアスイッチの作動	長押し	短押し
	作動の合図 (ブザー)	あり	なし
	ワイヤレスリモコンによる作動	あり	なし
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 185)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め
クリアランスソナー (→P. 215)	バックソナーの検知開始距離	約 150cm	約 60cm
	ブザー音量	レベル3	レベル1～5
イルミネーション (→P. 260)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	"エンジンスタートストップ" スイッチ OFF 後の作動	あり	なし

初期設定が必要な項目

以下の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワースライドドア	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 43
バックドア	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 53
パワーバックドア	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 53

さくいん

略語一覧.....	404
五十音順さくいん	405
症状別さくいん	413

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
DISP	ディスプレイ
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティ コントロール
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

あ	アームレスト	
	フロントシートアームレスト	61
	セカンドシートアームレスト	67
	センターアームレスト	288
	アクセサリーコンセント	284
	アクセサリーソケット	283
	アクティブヘッドレスト	60
	アシストグリップ	281
	足元照明	260
	アダプティブフロントライティング システム	186
	アンチロックブレーキシステム	225
い	イグニッションスイッチ	157
	イベントデータレコーダー	346
	イルミネーテッドエントリー システム	261
	インナーミラー	98
う	ウインカー	
	W数	398
	スイッチ	167
	電球の交換	313
	ウインドウ	
	ウォッシュャー	189, 192
	パワーウインドウ	105
	リヤウインドウ デフォッガー	258
	ウインドウロックスイッチ	105
	ウォーニングライト	348
	ウォッシュャー	
	液の補給	334
	スイッチ	189, 192
	タンク容量	397
	冬の前の準備・点検	240

運転	
寒冷時の運転	240
正しい姿勢	118
手順	148
運転席シートベルト	
非着用警告灯	350

え	エアコン	
	フロントエアコン	246
	フィルターの交換	335
	リヤエアコン	255
	エアバッグ	
	SRS エアバッグ	120
	一般的な警告	125
	お子さまのための注意	125
	カーテンシールドエアバッグに 関する警告	126
	カーテンシールドエアバッグの 作動条件	121
	改造・分解	128
	警告灯	349
	サイドエアバッグに 関する警告	127
	サイドエアバッグの 作動条件	121
	作動条件	121
	正しい姿勢	118
	配置	120
	エレクトリックパワー ステアリング	225
	エンジン	
	イグニッションスイッチ	157
	エンジン回転計	170
	エンジンがかからない	376
	エンジン警告灯	349

エンジンスイッチ	157
オーバーヒート	385
かけ方	158
ボンネット	309
エンジンモビライザーシステム	115
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	240
容量	393
“エンジン スタート ストップ” スイッチ	157
お	
応急用タイヤ	
空気圧	398
スペアタイヤ	363
オートアラーム	116
オートマチックトランスミッション (A/T)	
Sモード	164
オートマチックトランス ミッション	161
シフトレバーが シフトできない	378
7速スポーツシーケンシャル シフトマチックモード	163
オートレベリングシステム	187
オーバーヒート (エンジン)	385
オーバーヘッドコンソール	273
オープナー	
給油口	111
ボンネット	309
お子さまの安全のために	
ウインドウロックスイッチ	105
エアバッグに関する警告	125
お子さまのシートベルト着用	94
シートベルトに関する警告	95
チャイルドシート	129
チャイルドシートの固定	137

チャイルドプロテクター	41
電子キーの電池に関する 警告	333
バッテリーに関する警告	384
パワーウインドウに 関する警告	106
オドメーター	170
か	
カーテンシールドエアバッグ	120
外気温表示	171, 182
カスタマイズ機能	400
ガソリンスタンドでの情報	416
カップホルダー	268
ガレージジャッキ	311

き	
キー	
イグニッションスイッチ	157
エンジンスイッチ	157
キー	22
キーナンバー	22
キーレスエントリー	33
キーを無くした	379
電子キー	22
電子キーが正常に働かない	380
電子キーの電池が切れた	380
メカニカルキー	22
ワイヤレスドアロック	33
給油口	111
緊急時の対処	
エンジンがかからない	376
オーバーヒートした	385
キーを無くした	379
警告灯がついた	348
警告メッセージが 表示された	353
けん引	342
故障したときは	338

シフトレバーが	
シフトできない	378
スタックした	388
車両を緊急停止する	390
電子キーの電池が切れた	380
発炎筒	340
バッテリーがあがった	382
パンクした	363
＜ 空気圧 (タイヤ)	398
空調	
フロントエアコン	246
フィルターの交換	335
リヤエアコン	255
区間距離計	170
曇り取り	
フロントガラス	250
リヤウインドウデフォグガー	258
クリアランスソナー	215
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	195
レーダークルーズ	
コントロール	198
グローブボックス	266
け 計器	
メーター	170
メーター照度調整	173
警告灯	
ABS & ブレーキアシスト	349
PCS 警告灯	349
SRS エアバッグ	349
4WD	349
エンジン	349
エンジンオイル圧力	348
シートベルト非着用	350,351
充電	348

スマートエントリー&	
スタートシステム	352
ディスチャージヘッドライト	
オートレベリング	349
燃料残量	351
パワーステアリング	349
半ドア	350
プリテンショナー	349
ブレーキ	348
マスターウォーニング	351
警告表示	
4WD	354
クリアランスソナー	355, 358
ステアリングロック	354
スマートエントリー&	
スタートシステム	360
ドア	356
燃料残量	357
パーキングブレーキ	356
ビークルスタビリティ	
コントロール	354
プリクラッシュセーフティ	
システム	354, 357
ムーンルーフ	356
レーンキーピングアシスト	358
レーダークルーズコントロール	
	355, 357, 358
警告ブザー	
シートベルト非着用	350,351
スマートエントリー&	
スタートシステム	352, 360
ブレーキ	348
ムーンルーフ閉め忘れ	109
ライト消し忘れ	187
化粧用ミラー	278
けん引	342

こ

交換	
タイヤ.....	363
電球.....	313
電子キーの電池.....	332
ヒューズ.....	323
工具.....	363
後退灯	
W数.....	398
電球の交換.....	319
小物入れ.....	273, 292
子供専用シート.....	129
コートフック.....	282
コンソールボックス.....	267
コンビニフック.....	280
コンライト	
(自動点灯・消灯装置).....	185

さ

サードシート.....	70
サイドエアバッグ.....	120
サンバイザー.....	277

し

シート	
サードシート.....	70
シートヒーター.....	289
セカンドシート.....	63
正しい運転姿勢.....	118
チャイルドシートの固定.....	137
調整に関する警告.....	61
手入れ.....	299
ドライビングポジション	
メモリー.....	86
フロントシート.....	59
ヘッドレスト.....	72
シートアレンジ.....	75

シートベルト

お子さまの着用.....	94
緊急時シートベルト	
固定機構.....	93
シートベルト警告灯.....	350, 351
シートベルト	
プリテンショナー.....	92
清掃・手入れ.....	300
正しい着用.....	89
チャイルドシートの固定.....	137
調整.....	89
妊娠中のかたの着用.....	93

室内灯

W数.....	399
スイッチ.....	262, 263

シフトレバー

オートマチックトランス	
ミッション.....	161
シフトレバーが	
シフトできない.....	378
シフトロックシステム.....	378

ジャッキ

ガレージジャッキ.....	311
車載ジャッキ.....	363
ジャッキハンドル.....	363

車幅灯

W数.....	398
電球の交換.....	313
ライトスイッチ.....	185

車両型式.....

399

車両仕様.....

265

助手席シートベルト

非着用警告灯..... 351

す	水温計	170
	スイッチ	
	4WD オートモード	
	スイッチ	194
	AFS OFF スイッチ	186
	VSC OFF スイッチ	226
	ウインドロックスイッチ ...	105
	エンジンスイッチ	157
	クリアランスソナースイッチ ..	215
	ドアロックスイッチ	35
	ハザードライトスイッチ	339
	パワーウインドウスイッチ ...	105
	非常点滅灯スイッチ	339
	フォグライトスイッチ	188
	ブリクラッシュブレーキ	
	OFF スイッチ	233
	ライトスイッチ	185
	ワイパー&ウォッシャー	
	スイッチ	189,192
	スタック	
	スタックした	388
	ステアリングアシスト	
	ピークルスタビリティコントロール ...	225
	ステアリングホイール	
	オーディオスイッチ	294
	調整	97
	スピードメーター	170
	スペアタイヤ	
	空気圧	398
	収納場所	363
	スペック	392
	スポーツシーケンシャル	
	シフトマチックモード	163
	スマートエントリー&	
	スタートシステム	
	エンジンの始動	157
	ドアの解錠・施錠	25

せ	清掃	
	外装	296
	シートベルト	300
	内装	299
	セカンドシート	
	調整	63
	サードシートへの乗り降り	66
	積算距離計	171
	洗車	296
	前照灯	
	W 数	398
	スイッチ	185
	ディスチャージヘッドライトに	
	関する警告	321
	電球の交換	313
	センターアームレスト	288
	センターテーブル	287
そ	速度計	170
た	タイヤ	
	空気圧	398
	交換	363
	スペアタイヤ	363
	チェーン	240
	点検	302
	パンクした	363
	冬用タイヤ	240
	ローテーション	302
	タコメーター	170
ち	チェーン (タイヤチェーン)	240
	チャイルドシート	
	ISOFIX バーでの固定	140
	シートベルトでの固定	138
	チャイルドプロテクター	41
	駐車ブレーキ	168

つ	ツインムーンルーフ.....	108
	ツール.....	363
て	ディスプレイ	
	警告メッセージ.....	353
	トリップ	
	インフォメーション.....	179
	手入れ	
	外装.....	296
	シートベルト.....	300
	内装.....	299
	テールランプ	
	W数.....	398
	スイッチ.....	185
	電球	
	W数.....	398
	交換.....	313
	電子キー	
	電池が切れた.....	380
	天井イルミ	
	W数.....	399
	スイッチ.....	264
と	ドア	
	ドアガラス.....	105
	ドアミラー.....	99
	ドアロック.....	35
	ドアガラス.....	105
	ドアポケット.....	276
	ドアミラー	
	調整.....	99
	盗難防止システム	
	エンジンイモビライザー	
	システム.....	115
	オートアラーム.....	116
	時計.....	279

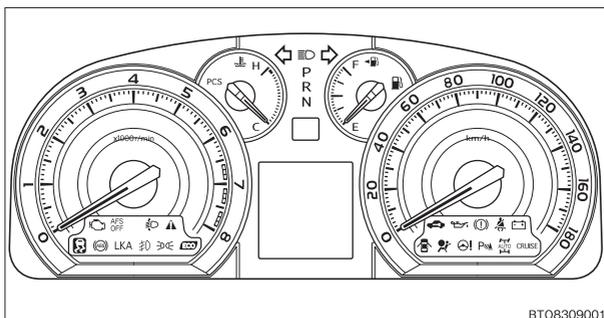
	ドライビングポジション	
	メモリー.....	86
	トラクションコントロール.....	225
	トリップメーター.....	171
こ	ニーエアバッグ.....	120
	荷物	
	積むときの注意.....	238
ね	燃料	
	ガソリンスタンドでの情報.....	416
	給油.....	111
	種類.....	392
	燃料計.....	170
	容量.....	392
は	パーキングブレーキ.....	168
	ハザードライト	
	スイッチ.....	339
	電球の交換.....	313
	W数.....	398
	発炎筒.....	340
	バックアップライト	
	W数.....	398
	電球の交換.....	313
	バッテリー	
	バッテリーがあがった.....	382
	冬の前の準備点検.....	240
	バニティミラー.....	278
	バニティライト	
	W数.....	399
	バニティライト.....	278
	バルブ	
	W数.....	398
	交換.....	313
	パワーウインドウ.....	105
	パワースライドドア.....	39

パワーバックドア.....	49	ブリクラッシュセーフティ	
パンク		システム.....	232
パンクした.....	363	ブレーキ	
番号灯		パーキングブレーキ.....	168
W数.....	398	ブレーキアシスト.....	225
電球の交換.....	320	フロアマット.....	291
ハンドル		フロントシート	
調整.....	97	調整.....	59
ひ		フロントターンシグナルライト	
ビークルスタビリティ		W数.....	398
コントロール.....	225	電球の交換.....	313
ヒーター		レバー.....	167
フロントエアコン.....	246	フロントフォグライト	
シートヒーター.....	289	W数.....	398
ミラーヒーター.....	101	スイッチ.....	188
リヤエアコン.....	255	電球の交換.....	313
非常点滅灯		フロントワイパーデアイサー.....	259
スイッチ.....	339		
電球の交換.....	313	へ	
W数.....	398	ヘッドライト	
尾灯		W数.....	398
W数.....	398	スイッチ.....	185
スイッチ.....	185	ディスチャージヘッドライトに	
ヒューズ.....	323	関する警告.....	321
表示灯.....	175	電球の交換.....	313
ヒルスタートアシスト		ヘッドレスト	
コントロール.....	230	調整.....	72
ふ		ほ	
フォグライト		ホイール.....	302
W数.....	398	方向指示灯	
スイッチ.....	188	W数.....	398
電球の交換.....	313	スイッチ.....	167
フック		電球の交換.....	313
けん引フック.....	342	補助確認装置.....	103
ラゲージフック.....	292	ホーン.....	169
冬用タイヤ.....	240	ボトルホルダー.....	272
ブリクラッシュシートベルト.....	92	ボンネット.....	309

- ま** マップライト
 W数 399
 スイッチ 262
 マルチインフォメーション
 ディスプレイ 179
- み** ミラー
 インナーミラー 98
 ドアミラー 99
 バニティミラー 278
 補助確認装置 103
- む** ムーンルーフ 108
- め** メーター
 メーター 170
 メーター照度調整 173
 メンテナンス
 メンテナンスデータ 392
- よ** 4WD オートモードスイッチ 194
- ら** ライト
 W数 398,399
 室内灯 260
 電球の交換 313
 天井イルミ 264
 ハザードライトスイッチ 339
 バニティライト 278
 非常点滅灯スイッチ 339
 フォグライト 188
 ヘッドライト 185
 方向指示灯 167
 マップライト 262
 リヤルームライト 263
- り** リヤウインドウデフォグガー 258
 リヤエアコン 255
 リヤターンシグナルライト
 W数 398
 電球の交換 313
 リヤルームライト
 W数 399
 スイッチ 263
- る** ルームライト
 W数 399
 スイッチ 262,263
- れ** 冷却水
 冬の前の準備・点検 240
 容量 396
 冷却装置
 エンジンオーバーヒート 385
 レーダークルーズコントロール.. 198
 レーンキーピングアシスト 208
- わ** ワイパー
 スイッチ 189,192
 ワイパーデアイサー 259
 ワイヤレスドアロック
 電池交換 332
 リモコン 33

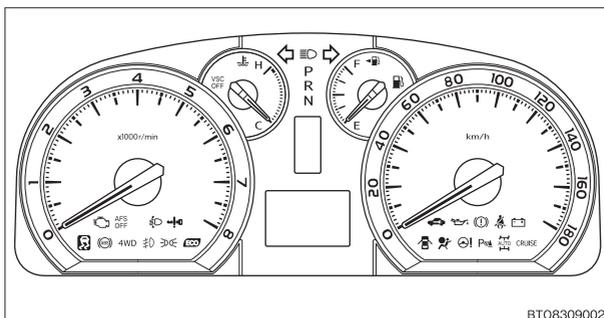
タイヤがパンクした	P. 363	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 376	エンジンがかからないときは
	P. 115	エンジンイモビライザーシステム
	P. 382	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 378	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が赤いゾーンに入った	P. 385	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから蒸気が立ちのぼった		
キーを無くした	P. 379	キーを無くしたときは
バッテリーがあがった	P. 382	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 24 P. 33 P. 35	ドア
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 388	スタックしたときは
警告灯が点灯、点滅した	P. 348	警告灯がついたときは

▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車



BT08309001

▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車



BT08309002

■ 警告灯一覧

	マスターウォーニング 灯 P. 351		充電警告灯 P. 348
	エンジン警告灯 P. 349		ブレーキ警告灯 P. 348
	SRSエアバッグ/プリテン ションナー警告灯 P. 349		ABS& ブレーキアシ スト警告灯 P. 349
	油圧警告灯 P. 348		4WD 警告灯 P. 349
	スマートエントリー&スタート システム警告灯 P. 352		PCS 警告灯 (点滅) P. 349
	パワーステアリング 警告灯 P. 349		ディスチャージヘッドライトオー トレベリング警告灯 P. 349

 半ドア警告灯
P. 350

 燃料残量警告灯
P. 351

 運転席シートベルト非着用警告灯
P. 350

 助手席シートベルト非着用警告灯
P. 351

AFS OFF AFS OFF 表示灯 (点滅)
P. 187

CRUISE クルーズコントロールシステム表示灯 (点滅)
P. 355 P. 197

LKA LKA 表示灯 (点滅)
P. 358

警告メッセージが表示された

P. 353 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

- 警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認してください。
 - 警告灯が点灯、点滅している (→P. 348)
 - 警告メッセージが表示されている (→P. 353)
- 警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認してください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 30
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P. 165
	シフトダウンしたとき	P. 165
	ブレーキを踏んだとき	P. 156

ガソリンスタンドでの情報

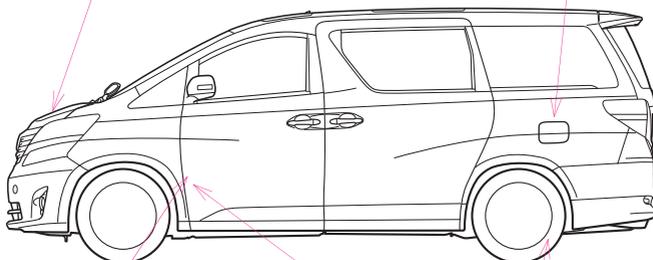
給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 309

給油口

P. 111



ボンネットオープナー

P. 309

給油口オープナー

P. 111

タイヤ空気圧

P. 393

BT08310003

燃料の容量 (参考値)	65L												
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (2GR-FE エンジン車) 無鉛レギュラーガソリン (2AZ-FE エンジン車) P. 112, 392												
タイヤが冷えている ときの空気圧	標準タイヤ												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>前輪</th> <th>後輪</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>235/50R18 97V</td> <td>240 (2.4) kPa (kg/cm²)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>215/60R17 96H</td> <td>240 (2.4) kPa (kg/cm²)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>215/65R16 98H</td> <td>240 (2.4) kPa (kg/cm²)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		前輪	後輪	235/50R18 97V	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)		215/60R17 96H	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)		215/65R16 98H	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪										
	235/50R18 97V	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)											
215/60R17 96H	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)												
215/65R16 98H	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)												
応急用タイヤ : 420 (4.2) kPa (kg/cm ²)													
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 2GR-FE エンジン車 : 5.7 L 2AZ-FE エンジン車 : 4.1L オイルとフィルター交換時 2GR-FE エンジン車 : 6.1 L 2AZ-FE エンジン車 : 4.3L												
エンジンオイルの 種類	P. 393												

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450 - 0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 58046
01999-58046
CB-2011年2月2日
2010年4月1日 初版
2011年2月9日 5版
ヴェルファイア